

近畿中国四国農業研究センター年報

平成21年度

目次

I	主な動向と経過	1
1.	研究の推進方向	1
2.	運営に関する主な動向	2
II	研究の実施状況	4
III	平成21年度 研究予算課題一覧	25
IV	研究情報活動	39
1.	主な研究成果	39
2.	研究成果の発表	41
1)	原著論文	41
2)	学会発表等	47
3)	著書	60
4)	その他	61
3.	知的財産権	79
1)	産業財産権の登録及び出願	79
2)	新品種の登録及び出願	81
4.	広報活動	82
1)	記者発表	82
2)	近畿中国四国農業研究センター刊行物	82
3)	一般公開、イベント、講演会、シンポジウム等の開催	83
4)	技術相談および見学	85
5.	図書資料の収集・受入、サービス	86
V	研究交流	87
1.	研究員等の受入・研修	87
1)	国際農林水産業研究センター（JIRCAS）研究員	87
2)	国際協力機構（JICA）研究員	87
3)	日本学術振興会（JSPS）研究員	87
4)	科学技術振興機構（JST）研究員	87
5)	その他の制度等による海外研究員の受入	87
6)	流動研究員	87
7)	依頼研究員	87
8)	技術講習生	87
9)	国内留学	88
10)	連携大学院	88

2.	研究員の派遣	88
1)	流動研究員	88
2)	国内留学	88
3)	海外派遣・出張	88
3.	技術協力・指導	89
1)	連携大学院への派遣	89
2)	他機関主催研修会等への講師派遣	89
3)	当センター主催の技術指導	95
4)	依頼分析、試験及び同定	95
4.	共同研究	95
5.	協定研究	96
6.	開放型研究施設（オープンラボ）の利用状況	96
VI	組織・人事・会計	97
1.	組 織	97
2.	人 事	99
1)	現在員数	99
2)	農研機構特別研究員	99
3)	委員等の就任状況	100
3.	会 計	103
1)	決 算	103
2)	固定資産	104
VII	主な会議等	105
1.	近畿中国四国農業試験研究推進会議	105
2.	近畿中国四国地域問題別研究会	105
3.	地域研究・普及連絡会議	106
4.	新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業推進会議等	106
5.	地域総合研究評価会議・現地推進検討会	107
6.	その他会議	108
VIII	所在地	109

I 主な動向と経過

1. 研究の推進方向

近畿中国四国農業研究センターは、都市近接中山間農業地域および傾斜地農業地域を背景とした近畿・中国・四国地域において、多様な農業立地特性や農業・農村情勢の特徴を踏まえた、傾斜地を含む中山間農業研究の拠点となることを目標にしている。当センターでは、地域農業を先導する研究、現場に即応する総合的な開発研究、産学官連携の要となる基盤的研究を実施している。

平成21年度においては、研究開発にあたり、下に示す5つの研究開発ターゲットを掲げ、その結果、以下の成果を取りまとめた。

- 1) 中山間・傾斜地域の農業の振興と農村の活性化につながる生産技術の開発をめざして
 - ・農産物直売所で商品が「いくつ足りなかったのか」を推測
 - ・飼料イネ品種「クサノホシ」の漏生を抑制する耕種的方法
 - ・小規模移動放牧の指導普及マニュアル「よくわかる移動放牧Q & A」
 - ・圃場地図上で色々な農作業情報を管理するソフトウェア
 - ・茎葉が多収で糖含量が高く、倒伏しにくい稲発酵粗飼料用の新品種「中国飼 198 号」
- 2) 地域ブランドを創出し強化する特徴のある品種や省力・高品質安定生産技術の開発をめざして
 - ・粘りがあって食味がすぐれる水稻品種「中国 192 号」
 - ・炊飯後に褐変せず、食味に優れる二条裸麦品種「キラリモチ」
 - ・簡易土壌水分計による黒大豆の灌水時期判定
- 3) 環境負荷の軽減と農産物や食品の安心・安全を支える環境保全型農業の確立をめざして
 - ・高温期における花壇苗の生育改善を目指した培地冷却技術
 - ・シソ機械収穫時の青枯病二次伝染を防止する収穫機刈刃加熱手法
 - ・高窒素地下水灌水による施肥・負荷削減技術の実証
- 4) 新たな農業の展開を可能にするシーズ研究の推進をめざして
 - ・鉄コーティングで病気からイネ苗を守る
 - ・ヒマワリ搾油残さの給与は牛乳中の共役リノール酸含量を増加させる
 - ・オオムギ種子タンパク質 HINb-2 の欠失を判別する DNA マーカーで穀粒が硬い系統を選抜できる
 - ・領域気象モデルを用いた気象シミュレーションによる太陽電池発電量分布の予測
 - ・露地でのアブラムシ防除に有効な飛ばないナミテントウ
 - ・脂肪細胞分化を促進するフラノボンの機能
- 5) 地域アグリビジネスの振興のための産学官連携研究の推進をめざして
 - ・小麦ふすまからの血圧降下ペプチドの簡便な製造法

これらの成果の中から、主要研究成果として下記の「技術・普及」成果3件、「研究・普及」成果2件、「行政・普及」成果1件をはじめ、「技術・参考」8件、「研究・参考」7件、「行政・参考」4件を発信した。

「技術・普及」

- (1) 小麦ふすまの自己消化によるアンジオテンシン変換酵素阻害ペプチドの製造法
- (2) 簡易土壌水分計によるかん水時期判定技術
- (3) 資材管理や出荷管理機能などを強化した作業計画・管理支援システム「PMS」

「研究・普及」

- (1) パンコムギ大粒澱粉のアミロペクチンには超長鎖の存在は認められない
- (2) 大麦 HIN b -2 の欠失を判別する DNA マーカーで穀粒硬度が高い系統を選抜できる

「行政・普及」

(1) 小規模移動放牧の指導普及向けマニュアル「よくわかる移動放牧Q & A」

2. 運営に関する主な動向

(1) 地域農業試験推進会議

1) 平成 21 年度近畿中国四国農業試験研究推進会議本会議

平成 22 年 2 月 12 日に福山市において、農林水産省農林水産技術会議事務局、近畿農政局、中国四国農政局、各府県ならびに推進部会長等を参集して開催された。本会では、8 月に開催した評価企画会議と 2 月に開催した推進部会について各推進部会長から、府県や農政局より提出された地域重要研究問題の措置方向等の議事概要について報告があった。その後、各推進部会長から、各推進部会で計 119 の主要成果を採択した旨の報告があった。次に、重要検討課題「近畿中国四国農業研究センターにおける第 2 期中期目標期間の研究成果と管内の研究ニーズに基づいた今後の研究方向及び連携のあり方」について検討を行った。最初に、近畿中国四国農業研究センターにおける第 2 期中期目標期間の 31 研究成果について、予め府県から収集した意見を参考に 12 研究成果を選定して、「普及の可能性」「次期中期目標への研究の展開方向」等について意見交換を行った。多くの研究成果に対して、連携や情報共有を要望する意見があった。次に、「管内の研究ニーズに基づいた連携のあり方」について意見交換を行った。府県からは、予算、人員が不足しているため、共通の課題について連携が必要であり、その連携の核として近畿中国四国農業研究センターにリーダーシップを期待する旨の要望が多数あった。また、実用技術開発事業の機関連携強化型への応募に向けた連携協定の現状について紹介があり、公立試験研究機関の限られた人的資源の中では、研究員の府県間交流等は難しい旨の問題が指摘された。農政局からは、行政の立場から近農研と協力して連携の促進を支援していきたい旨の発言があった。これらの意見を受けて、鳥越所長から①地域農業ビジョンに基づいた近畿中国四国農業研究センターの研究推進方向、②推進会議のコーディネート機能の強化、③管内試験研究機関の開発技術を行政ベースで普及に移していく必要性について総括的なコメントがあった。最後に、次年度の推進会議に関する具体的な活動方針等について報告があった。

2) 平成 21 年度近畿中国四国農業試験研究推進会議評価企画会議

平成 21 年 8 月 7 日に農林水産技術会議事務局、近畿農政局、中国四国農政局、各府県ならびに推進部会長等が参集して福山市で開催された。各推進部会において府県等から提出された 128 件の地域重要研究問題素材についての措置方向（案）が承認された。また、地域重要研究問題素材のうち地域研究・普及連絡会議への提出を希望する素材（近畿地域：31、中国四国地域：23）について検討し、技術的課題候補案として選定して、近畿地域研究・普及連絡会議に 17 課題、中国四国地域研究・普及連絡会議に 17 課題を技術的課題候補として提出することが承認された。平成 21 年度近畿中国四国農業試験研究推進会議本会議の議題の重要検討課題（案）として「近畿中国四国農業研究センターにおける第 2 期中期計画期間の研究成果と管内の研究ニーズに基づいた今後の研究方向」が提案されたが、府県から出席する意義が明確になるように修正されたい旨の要望が挙げられ、再検討することとした。推進部会長から提案された平成 21 年度推進部会の運営方針については承認された。地域研究・普及連絡会議については、近畿農政局、中国四国農政局から、それぞれの地域研究・普及連絡会議の開催日程等について連絡があった。さらに、昨年度の評価企画会議で提案した「近畿中国四国地域における新技術」の刊行中止が承認された。なお、これまでの「近畿中国四国地域における新技術」をホームページに掲載するよう要望が出され、事務局で検討することとした。

(2) 平成 20 年度近畿中国四国農業研究センター運営会議

平成 22 年 3 月 10 日に福山市で、運営委員 7（大学 1 名、農政局 1 名、府県 3 名、民間 2 名）と近畿中国四国農業研究センター幹部職員が出席して開催された。本会議では、前年度の指摘事項に対する回答がなされた後、第 2 期中期目標期間における研究成果及び普及方策と第 3 期中期目標期間における研究推進方向について報告を行い、各委員から意見をいただいた。

主な意見は以下の通りである。

- ①成果をあげた研究者に何らかのインセンティブを与えるなど、若手・中堅研究者を育成するような制度は重要である。また、若手・中堅研究者が研究成果をあげることが研究所の活性化につながっていく。
- ②公設試は品種開発を行う体力がなくなってきており、近農研には地域の基幹のなる品種開発を引き続き、担ってほしい。
- ③近農研として取り組むべき研究課題を明確にし、重点化して研究を実施していただきたい。
- ④地域の農業ビジョンを明確にし、それに基づいて課題設定するべきではないか。
- ⑤農業情勢は急激に変化しており、中山間地域の中小規模農家が生き残っていくためには、大きな発想の転換が必要である。
- ⑥近農研には、公設試の研究者を指導するという立場をもっと打ち出していきたい。

Ⅱ 研究の実施状況

農業・食品産業技術総合研究機構の中期目標において、近畿中国四国農業研究センターに関する事項を課題ごとに記載した。

● 農業の競争力強化と健全な発展に資する研究

○ 農業の生産性向上と持続的発展のための研究開発

1) 地域の条件を活かした高生産性水田・畑輪作システムの確立

(1) 地域の条件を活かした水田・畑輪作を主体とする農業経営の発展方式の解明

近畿・中国・四国地域における中山間・傾斜地の地域資源を活用した多様な主体間のネットワークによる農業活性化方策の策定

担当：地域営農・流通システム研究チーム

平成21年度は、①中山間地域の集落営農組織・農業生産法人を対象に広域的連携に基づく地域支援システムの成立条件および販売方策の解明、②農産物直売所における需要量の変動要因の分析や、欠品時の需要量を推測する手法の開発、③新規参入者の成長過程を踏まえた支援方策の策定に向けて重点的に研究を推進した。その結果は次のとおりである。

①成立条件の解明では、集落営農組織の広域的連携に基づく大豆作の地域支援システムを分析し、構成員による主体的な運営の確保、作業受委託を通じた転作地集積等の法人同士の連携、コンバインの稼働面積確保が重要であることを明らかにした。また、販売方策の解明では、3

つの農業生産法人が共同で設立したLLP（有限責任事業組合）を分析し、野菜販売店との取引が継続しているポイントとして、消化仕入れ方式（消費者に売れた時点で仕入れ処理する方法）とすることにより販売店側の負担を軽減することで出荷品目の決定権をLLP側が確保している点が重要であることを明らかにした。②農産物直売所の需要量に影響する要因を分析し、月次から年次にわたる中期的な変動要因として、季節（人気品目の旬、行楽シーズン）・ガソリン価格・物価等を、日次から週次にわたる短期的な変動要因として、曜日・祝日・天候・イベント・品目数を抽出した。また、直売所の欠品対策に役立てるため、売り切れた日の需要量（販売可能量）を、リターンタイム（1日の販売量の半数程度が売れる目安の時刻）の販売量とその日の販売量との間の強い相関関係に基づいて推測できる手法を開発した。③新規参入経営の成長過程において経営管理の重点項目が変化するパターンを明らかにし、これに基づいて、栽培面積の拡大直後における雇用管理問題を克服するためには、新規参入経営者が前もって被雇用者教育のノウハウを習得することが重要であることなど、支援方策の策定に向けたポイントを明らかにした。

次年度は、地域農業の特質を解明するため農家の就業選択行動を予測するモデルを開発する。また、大豆作における大型機械利用を軸とする集落営農法人の広域的連携システムのモデル提示、中小産地における卸売市場出荷と直売所出荷に対応した生産・販売計画モデルの作成、園芸作を対象とする新規参入支援経営マニュアルの作成を行うことで、「中山間・傾斜地の地域資源を活用した多様な主体間のネットワークによる農業活性化方策の策定」を完成させる。

(2) 省力・機械化適性、加工適性、病害虫抵抗性を有する食品用大豆品種の育成と品質安定化技術の開発

担当：大豆育種研究近中四サブチーム

・豆腐加工適性に優れ重要病害虫抵抗性を強化した機械化適性品種の育成

豆腐加工適性が高く、実用形質にも優れた品種育成のための交配を行うとともに、耐倒伏性や裂莢性等を検定し、有望系統を選抜した。地方番号系統の豆腐関連成分分析では、蛋白質含量は「四国3号」を除いて「フクユタカ」と大差なく、カルシウム、フィチン酸等の微量成分含量も「フクユタカ」並であった。また、「四国1号」の現地試験を行い、比較的早生ながら「サチユタカ」以上の収量性であることを実証した。

次年度は、「四国1号」の現地試験と実需者による豆腐加工適性評価を実施して品種登録を目指す。

・地域ニーズに対応した特殊用途品種の育成

味噌用系統の「四国3号」およびリポキシゲナーゼ欠失系統の「四国10号」を奨励品種決定調査（奨決）等に供試するとともに、蛋白組成改良系統の生産力検定を実施した。「四国3号」は広島県で有望視され、実需者の評価も高かった。また、「四国10号」は豆乳等の特殊用途用でありながら比較的多収であり、複数県でやや有望の評価を得た。

次年度は「四国3号」の品種登録申請を行うため、広島県で現地試験を実施する。

・豆腐加工適性に影響を及ぼす大豆種子成分の解明とそれに基づく制御技術の開発

少量の大豆種子サンプルによる豆腐加工法（新法）を従来法と比較するため、9品種・系統を供試し、凝固剤として塩化マグネシウムおよびグルコノデルタラクトン（GDL）を用い、豆腐物性を複数の測定方法で比較した。この結果、凝固剤の種類によらず、新法で調製した豆腐の物性測定は全圧縮測定で行う方が若干既存の方法との相関が高い結果を得た。

次年度は、さらに多数の品種・系統を供試して、新法が豆腐物性評価に適することを実証し、育種現場等に適用できる評価法として確立する。

・褐斑形成・種子伝染に着目したダイズモザイクウイルス（SMV）抵抗性の遺伝様式の解明とDNAマーカーの開発

各SMV系統に対して褐斑を形成しない形質（褐斑抵抗性）、種子伝染しない形質（種子伝染抵抗性）についてのQTL解析を行うとともに、褐斑発生の原因の一つであるインゲンマメ南部モザイクウイルス（SBMV）に対する抵抗性について検討した。褐斑抵抗性は第9染色体（連鎖群K）上のSatt381からSatt673の間に大きなQTLを見出した。また、SBMV抵抗性は、単因子の優性遺伝子または不完全優性遺伝子に支配されていると考えられた。

次年度は、第9染色体上に確認されたQTLの近傍マーカーを開発するための材料として、異なる組合せの交雑後代を用いて解析を進める。

(3) 病害虫抵抗性、省力・機械化適性、良食味等を有する野菜品種の育成

レタスビッグベイン病抵抗性実用品種の育成及び抵抗性増強技術の開発

担当：レタスビッグベイン研究チーム

平成21年度は、平成20年度に引き続き、ビッグベイン病抵抗性レタス育成系統の特性・適応性の評価、土壌の汚染程度を定量化できる技術の開発を行うとともにビッグベイン病の発病を抑制する微生物の特性について解明した。また、キュウリ黄化えそ病対策として作出した弱毒ウイルスの有効性について本病発生現地で検討した。

抵抗性レタスの育成に関しては、選定した2系統「SAKS3」、「SAKS4」について再評価を行い、平成20年度までの結果を踏まえて総合的に判断し、「SAKS3」が有望と判断した。「SAKS3」は平

成 20 年度に品種登録された「フユヒカリ」よりも早い作期に適応しており、ビッグベイン病に対して十分な抵抗性を示し、大玉かつ球形が良好であった。診断技術の開発に関しては、平成 20 年度に作製した媒介菌休眠胞子の抗体を磁気ビーズに結合させるための最適条件（ビーズ直径、混合比等）を決定し、作製抗体結合ビーズを用いて休眠胞子を効率的に回収することに成功した。防除技術として取り組んでいる発病抑制効果を示す細菌の特性解明では、これまでに単離した細菌には媒介菌のレタスへの感染を阻害する菌のほか、媒介菌休眠胞子を分解する菌があることを確認した。さらに、発病抑制効果を示す細菌が、複数地域の発病程度の低い圃場に存在することを確認した。弱毒ウイルスについては、媒介虫で伝搬されず、病徴を現さない非伝搬性弱毒ウイルス株を作出した。現地試験では、本弱毒株を接種したキュウリを 1 週間曝露しても発病することがほとんどなく（防除価 96.5）干渉効果が十分に認められた。また、本弱毒接種キュウリ株の収穫果実数、秀品率は無接種キュウリと同じであり、作出した弱毒ウイルスはキュウリ生育には影響を及ぼさないと判断した。

次年度においては、抵抗性品種として有望であると判断した「SAKS3」の品種登録を行う。土壌診断技術については、抗体結合ビーズを利用した休眠胞子検出法を発展させてレタス圃場での休眠胞子量が定量できる技術を開発する。また、発病抑制効果を示す細菌については、レタス圃場での定着条件を定めるその特性および微生物資材としての有用性を明らかにするとともに、育成系統「SAKS3」との併用による抑制効果増強を確認する。弱毒ウイルスについては、実用化を目指してキュウリ栽培期間を通しての防除効果をキュウリ黄化えそ病発生地において検討する。

(4) 地域条件を活かした高生産性水田・畑輪作のキーテクノロジーの開発と現地実証に基づく輪作体系の確立

近畿・中国・四国地域における中小規模水田利用システムの開発

担当：中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム

中山間地域における稲・麦・大豆 2 年 3 作体系確立のため、現地実証試験を行いつつ、個別技術の開発に取り組んだ。水稻では、ばか苗病菌、ごま葉枯病菌、いもち病菌、苗立枯細菌病菌、もみ枯細菌病菌、褐条病菌を保菌した種子でも、鉄粉でコーティングして播種すると、育苗期におけるこれらの発病が抑制されることを確認した。大豆では、地下水位制御システムを活用して播種時の土壤水分を高めることにより、梅雨明け後から 7 月末にかけての高温少雨期の播種においても出芽が安定し、生育日数が短い品種を用いれば子実収量 300 kg/10a が得られることを実証した。広島県中山間地域の集落営農法人における水稻の鉄コーティング湛水条播栽培、大麦の部分耕栽培および大豆の部分耕無中耕無培土密条栽培では、10a 当たり作業時間（畦畔管理時間を除く）を 8.9h、3.6h および 4.4h にまで削減できることを実証した。

次年度は、大麦の部分耕栽培の安定化を図り、中国地域中山間における稲・麦・大豆 2 年 3 作輪作体系を確立するとともに、営農モデルを策定して経済性を評価する。

2) 自給飼料を基盤とした家畜生産システムの開発

(1) 直播適性に優れた高生産性飼料用稲品種の育成

担当：低コスト稲育種研究近中四サブチーム

高生産性飼料用稲品種の育成については、ホールクロップサイレージ（WCS）を含む飼料用の多収品種を育成するための交配、選抜、特性調査等を実施した。平成 21 年度は、「クサノホシ」より多収で、茎葉部の炭水化物、糖、粗タンパク質の含量が高く、耐倒伏性に優れる短穂茎葉型の

WCS用系統「中国飼 198号」(品種名:たちすずか)を品種登録出願した。また、「中国飼 198号」と同じ短穂莖葉型で、熟期の早いWCS用系統「中国飼 205号」を新配布系統とした。

次年度も引き続き、耐倒伏性、耐病性に優れた莖葉型および穂重型の飼料用稲品種の育成を進める。

(2) 地域条件を活かした飼料用稲低コスト生産技術及び乳牛・肉用牛への給与技術の確立

近畿・中国・四国地域における中小規模水田利用システムの開発

担当：中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム

飼料用稲を基軸とする耕畜連携システム確立のため、現地実証試験を行いつつ、個別技術の開発に取り組んだ。「クサノホシ」の漏生稲の発生抑制には、秋の耕起が有効であること、年内の有効積算気温が100℃日(下限温度10℃)以上を確保できる時期までに種子を土中に埋没させると翌春の発生率が少なくなることを明らかにした。また、「クサノホシ」の乾田直播栽培技術は、高糖分飼料イネ「中国飼 198号」の乾田直播栽培にも適用可能なことを現地圃場で実証した。「中国飼 198号」の導入効果実証に向けた経営調査を行い、集落営農組織では飼料用稲WCSの運搬・流通の支援体制構築が、広域コントラクターでは飼料用稲収穫機械の運搬・回送費低減が課題となっていることを明らかにした。

次年度は、高糖分飼料イネ「中国飼 198号」等の安定多収・高栄養栽培技術を開発するとともに、中国地域の現地圃場において生産コストを2割低減できる乾田直播栽培技術を実証する。

(3) 地域条件を活かした健全な家畜飼養のための放牧技術の開発

中山間地域の遊休農林地等における放牧を活用した黒毛和種経産牛への粗飼料多給による高付加価値牛肉の生産技術

担当：粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム

地域条件を活かした健全な家畜飼養のための放牧技術の開発を目指し、遊休農林地等での黒毛和種経産牛の放牧肥育技術確立のために、平成21年度は、1)水田裏作のイタリアンライグラス(IR)を用いた放牧期間延長技術を検討すること、2)放牧牛の栄養状態と放牧時期、草種、飼料価値との関連をマニュアルとして取りまとめることについて重点的に研究を推進した。

その結果、1)IR草地で冬期放牧を行うには、10月上中旬の早播で繁殖牛にとって栄養価が適正で、十分な草量が確保できることを明らかにし、2)小規模移動放牧における繁殖牛の栄養管理、脱糞や水質汚染に関する問題の解明・評価により、小規模移動放牧の導入促進を図るために活用できる指導普及マニュアル「よくわかる移動放牧Q&A」を刊行した。本マニュアルは生産現場において広く活用された。

この他に、3)耕作放棄地の優占種は放牧によって変化し、シバは増加、クズは衰退すること、野草のCa、Mg、K含量は、繁殖牛の飼料として適性水準にあるが、P含量はやや不足していること、4)放牧地の植生のうち乾燥地に適した種の合計被度(%)を用いることで土壤水分含量を推定できること、5)液化仕込み清酒粕給与は、放牧繁殖牛の血中遊離脂肪酸含量を低下させ血糖値を増加させること、舎飼育成牛の育成中期以降の日増体重を増加させること、6)経産牛肉の食感、多汁性、うまみに対するパネラー評価は、概ね輸入牛肉よりも高いこと、濃厚飼料多給の舎飼経産牛肉が放牧経産牛肉よりも高いパネラー評価であるが、コストに比較してその評価差は小さく、脂肪酸組成からも放牧経産牛肉が優れていること、7)過剰排卵処置時に黄体ホルモン製剤(CIDR)を使用しない場合は、使用時と比較して胚回収実施日は遅延するが卵巣反応性は良化すること、胚

回収成績と胚回収後の卵巣動態は良化傾向を示すが、空胎期間には差がないこと、等を明らかにした。また、放牧地の植生から土壌水分含量を判定し、草種選定、潜在牧草生産力および牧養力を提示するシステム構築に向け、全国牧草生産量データベースを拡充した。

次年度は、1) 1年1産1胚回収技術の確立に向け、CIDRを用いない過剰排卵措置における卵巣反応性、胚回収成績等の取りまとめを重点的に行うとともに、2) 野草の総合評価をもとに小規模移動放牧における適正な飼養管理技術の開発、3) 冬期栽培のIRの放牧期間延長に適した栽培・利用法技術の開発、4) 放牧支援システムの開発、5) 経産牛放牧仕上げ牛肉の高付加価値化技術の開発を行い、各技術による成果を取りまとめた「よくわかる移動放牧Q & A」改訂版を提示する。

(4) 家畜生産性向上のための育種技術及び家畜増殖技術の開発

・ウシの初期妊娠に関与する遺伝子群の解析と妊娠診断技術の開発

担当：特命チーム員（家畜育種増殖研究チーム）

妊娠の早期診断のため、妊娠初期に胎子側の細胞が分泌するインターフェロン・タウ（IFN τ ）を成雌牛の子宮内に投与して抗ウイルスタンパク質 Mx の末梢白血球における遺伝子発現応答を調査した。その結果、末梢白血球の Mx 遺伝子発現が上昇し、その反応は IFN τ 投与量や投与後の時間に依存した。また、末梢白血球の発現遺伝子群の網羅的解析を行い、妊娠初期において非妊娠牛群に比べ妊娠牛群で有意に発現が高い遺伝子の一つを明らかにした。

次年度は、末梢白血球中発現遺伝子群の網羅的解析とその実態調査を継続し、妊娠診断の指標として有用と考えられる遺伝子を提示し、その発現量の測定方法の簡易化を検討する。

3) 高収益型園芸生産システムの開発

(1) 中山間・傾斜地の立地条件を活用した施設園芸生産のための技術開発

担当：中山間傾斜地域施設園芸研究チーム

中山間・傾斜地における夏秋トマト栽培において 20t/10a の収量を確保する生産技術を確立するため、低段密植立体栽培技術を開発するとともに、低コストな養液栽培技術、冷水育苗技術の開発を進めた。また、棚田地帯圃場における自然災害対策技術の一環として法崩壊防止技術の開発、ハウス内の暑熱対策技術の開発、小規模施設における販売戦略の解明などについて研究を推進した。

トマトの栽培・育苗技術では、1) 低段密植技術の開発では、夏季の天候が非常に不順であった中、2 作合計で 15t/10a の収量を得られることを確認した。2) 低コストな養液栽培技術として、定期的に給液を行う従来法と同等の収量を維持しつつ施肥量を節減可能なハイブリッドシステム（排液量の変動により給液のタイミングを制御）を開発した。3) 冷水育苗技術では、セル育苗・ポット育苗において昼間のみ根域冷却を行い、徒長抑制効果、乾物重や苗の活着強度の向上を確認した。自然災害対策技術では、圃場の法面崩壊の原因となる雨水の横浸透を効率的に防止できる遮水技術を開発し、農水省の計画基礎諸元調査委員会に提示した。ハウス内の暑熱緩和技術では、1) 夏季の花壇苗育苗用の成型培地に向けて送風し、培地水分の気化を促進することによって培地温度を低下させる技術を開発した。開発した技術により、高温下の育苗におけるパンジーやミニシクラメンの生育不良を改善することに成功した。2) 簡易細霧冷房システムに噴霧ノズル付き循環扇を採用することでシステムの設置や維持管理を簡便化でき、導入コストを 10a あたり約 75 万円に引き下げた。小規模施設での自然エネルギー利用では、太陽光発電を利用し地下冷熱源で得られた冷気を根域と生長点へ施用することにより約 20% の増収効果が得られることを確認した。小規模施設における販売戦略の解明では、野菜指定産地の農家において、販売先が市場への共同出荷である

ため農家に価格形成力がなく、消費動向も把握できないことが明らかになり、市場外流通の販売先を「アンテナチャンネル」として考慮する必要が認められた。さらに小規模農家の販売ルートの一つである直売所のネットワーク化は、生産者等への幅広いPR効果や直売所関係者の意識の変化をもたらし、その持続的な運営が販売所の運営のみならず生産活動にも効果があることが明らかとなった。

次年度は、トマトの低段密植栽培については3列立体栽培棚に切り替え、4500株/10aの密度で5段階摘心栽培を行い、1株収量を増大させることで20t/10a技術を確立する。開発した冷水育苗技術と既存の肥料制限技術を組み合わせることにより、低コストな夏季の育苗技術を開発し、その効果を現地実証試験により確認する。また、ハイブリッドシステムをマニュアル化するとともに、かけ流し式の養液栽培と同等の収量が得られる閉鎖式養液栽培を実証する。一方、太陽光発電を利用した局所冷却技術については、ハウスに市販の住宅用地中熱交換システムを導入し、増収効果について実証する。さらに強風の推定精度向上をめざして作成した乱流モデルについて、シミュレーション結果と現地観測データとの比較に基づく改良を進め、強風ハザードマップを作成するためのプロトタイプモデルを開発する。

(2) 次世代型マルドリ方式を基軸とするカンキツ等の省力・高品質安定生産技術の開発

担当：次世代カンキツ生産技術研究チーム

平成21年度は、養水分精密自動管理システムを開発するため、TDR値と葉水分ポテンシャルは、日周性を持ちながら同調することを明らかにし、TDR値が水分ストレス状態の指標になりうることを検証した。また、点滴孔直下（根域中）の深度別の水分動向と土壌温度を評価するシステムを開発し、根域外に拡散する無効なかん水を抑制できるシステムの構築を検討した。また、光環境制御による農薬の散布回数削減効果については、カンキツ園地に7～9月に飛来する害虫のアザミウマ類（総翅目）やアブラムシ類（半翅目）の個体数が、白色で日光を反射するポリエチレン不織布素材や無地反射シート（シルバー色）を敷設することにより、マルチシートを敷設しない対照区の30～40%に減少することを示した。雨水のかん水用水への利用については、2か所のかんきつ園における実測から、降雨により排水路を流下する水量は当該園地のかん水に必要な水量の約1.2倍に相当することを明らかにし、現地実証試験圃場における取水施設の基本設計を行った。

また、自動点滴かん水施肥技術を用いた幼木の生育促進技術において、ウンシュウミカンでは定植4年目に1樹当たり20kg（3.3t/10a）の収量を得るとともに、中晩柑「不知火」では1年生苗木の定植2年後における主幹を直径3.5cmまで肥大させることができた。さらに、窒素成分量を等しくした自動点滴かん水施肥と化成肥料施用を比較した結果、前者の方が苗木の生育を促進できた。

傾斜地果樹園の省力化のため、20年度に開発した重機を用いない作業道造成用の排土アタッチメントについて、円滑な排土を行うためのブレード形状、切削角等の機械仕様および幅90cmの通路幅を得るための作業方法を明らかにし、本アタッチメントによる造成労力は1人作業で10m当たり10分程度であることを確認した。また、生分解性樹脂を主成分とする黒色の液体散布型のマルチング資材（以下、液体マルチ）の土壌侵食防止効果を3ヶ月間程度持続させるためには標準量の2倍の散布が必要であることを明らかにした。また、単軌条運搬機の自動運転プログラムを改良し、自動制御装置を1/2の大きさまで小型化した。

新技術導入における経営的課題について、ウンシュウミカンにマルドリ方式を先行導入した10経営の調査結果から、園地選択やかん水管理における問題がある場合は、技術導入の効果が得られ

ていないことを示し、技術普及における課題を提起した。

次年度は、かんきつ等の高品質果実生産および早期成園化に適した養水分精密自動管理システムを開発するとともに、マルドリ方式導入園において雨水を効率的にかん水用水に利用する手法を確立する。マルチシートを用いた光環境制御については、病害虫発生に及ぼす影響を解析し、農薬散布削減効果を明らかにする。また、作業道造成用アタッチメントの造成能率を向上させるとともに、単軌条運搬機の自動誘導技術を確立する。さらに、これらの技術を用いた産地ブランド確立のための方策を提示する。

(3) カバークロップ等を活用した省資材・環境保全型栽培管理技術の開発

担当：カバークロップ研究近中四サブチーム

・省力管理型草種のマルチ等の抑草資材を利用した畦畔法面への植栽・管理技術の開発

生分解性資材のジュートおよびポリ乳酸繊維を原料とした生分解性防草シートをグラウンドカバープランツの植栽において補助資材として用いて生育および雑草発生への影響について検討した。苗をマット状に育成して植栽する方法において、ジュートは劣化が早期に進行することから利用は困難であると考えられた。一方、生分解性防草シートは育苗後も強度を維持しており、マット状の苗の育成に利用可能であった。ジュートをマルチ利用し、植穴に苗を移植する方法では植栽初期の雑草発生が減少し、生育も良好であった。

次年度は2つの補助資材について、植栽後の植生の推移の調査を実施し、グラウンドカバープランツの草種別の適性ならびに利用技術について検討する。

・草種の生態的特性を活用した畦畔法面の植生転換技術の開発

造成年における迅速なシバ被度拡大に寄与する土壌条件等の検討を進めた。造成時の目土として雑草種子を含まない購入真砂土と雑草種子を含む圃場内真砂土を供試し、シバの初期生育に及ぼす造成時の目土における雑草種子の有無の影響を検討した。購入真砂土では、処理期間中の発生雑草量は圃場内真砂土よりも少なく、購入真砂土の利用によって造成年の除草のための作業量は少なくできると考えられた。購入真砂土では5月28日に植栽後、10月29日の最終調査日まで放任した場合でもシバに一定量の生育が認められた。

次年度は、造成初期の迅速なシバの被度拡大に適した施肥条件を購入真砂土と圃場内真砂土について明らかにする。

(4) 誘導抵抗性等を活用した生物的病害抑制技術の開発

・植物に含まれる天然抗菌物質を利用した茎葉病害防除技術の開発

担当：特命チーム員（生物的病害制御研究チーム）

酵母エキスに抵抗性誘導による防除効果があるか否かを、キュウリ炭疽病を対象に検討した。供試資材は日本、フランス、アメリカの酵母エキス製造会社のエキスおよび酵母エキス含有肥料（商品名：アグリボ EX）である。鉢植えキュウリ（品種：つや太郎；5～6葉期）の第1葉から第3葉までに前述資材の500倍希釈液を散布し、3～6日後に植物全体に炭疽病菌胞子懸濁液を噴霧接種した。その結果、酵母エキスの散布されていない第4葉以上の葉で病斑数が大幅に減少し、抵抗性誘導による防除効果が確認された。

次年度は、圃場で酵母エキスの防除試験を行う予定である。

・ バイオフィューミゲーション（生物的くん蒸）による土壌病害防除技術の開発

担当：特命チーム員（生物学的病害制御研究チーム）

バイオフィューミゲーションにおけるカラシナと他の有機物との効果の違いを明確にするために作用機構の解明を進めた。カラシナから生じる揮発性抗菌物質は、ハウレンソウ萎凋病菌のみならず、株腐病菌、立枯病菌に対しても、他のアブラナ科植物に比較して高い抗菌活性を有していた。また、密閉容器内では、カラシナやエンバク野生種の土壌混和により、フスマ混和の場合と同様にハウレンソウ萎凋病菌の菌密度が顕著に低下した。さらに、兵庫県立農林水産技術総合センターと共同で行った有機栽培ハウレンソウ圃場での現地試験において、カラシナ鋤き込みによるハウレンソウ萎凋病防除効果を実証した。

次年度は、病原菌の死滅温度条件、カラシナ、エンバクの効果の高い鋤き込み・被覆方法等を明らかにする。

(5) 土着天敵等を活用した虫害抑制技術の開発

・ 雌化バクテリア等を活用した土着天敵増強技術の開発

担当：特命チーム員（総合的害虫管理研究チーム）

有用天敵である寄生蜂の単為生殖化は、天敵増殖等の利用場面や優良天敵維持管理の最適化に役立つ。本課題は、雌化・単為生殖化を誘起するバクテリアを天敵寄生蜂に人為的に移植し、雌だけの系統にする技術を開発することを目的とする。平成21年度は、雌化バクテリアの新しい人工培養系作出するとともに、マイクロインジェクションでのバッファの組成などを改良して天敵寄生蜂の非感染系統に移植する技術の開発を試みた。移植効率は良くなったが、雌化個体を得ることができなかった。

次年度は、バクテリアを移植する技術の総括および次期シーズを鑑みた雌化バクテリアを用いた育種法および新しい害虫防除技術の検討を行う。

・ 飛行能力を欠くナミテントウ系統を活用したアブラムシ類の生物的防除法の開発

担当：特命チーム員（総合的害虫管理研究チーム）

遺伝的に飛行能力を欠くナミテントウ系統は、長期間の選抜の影響によって天敵としての品質、すなわち生存率や産卵数等が低下している。平成21年度は、複数の遺伝的に飛行能力を欠くナミテントウ系統同士を交配させ、品質の回復について比較した。その結果、産卵数はいずれの組み合わせにおいても同程度に回復した。また施設ナス栽培条件で、系統間交配によって育成したナミテントウの成虫を放飼したところ、もとの遺伝的に飛行能力を欠くナミテントウ成虫よりも高い防除効果を示した。

次年度は、遺伝的に飛行能力を欠くナミテントウのアブラムシ密度に応じた捕食数を解析することにより、遺伝的に飛行能力を欠くナミテントウの効果的な利用方法を開発する。

(6) 野菜栽培における土壌微生物、天敵の機能解明と難防除害虫抑制技術の開発

・ コナジラミ類媒介ベゴモウイルスの多試料検定、早期判定可能な診断技術の開発

担当：特命チーム員（野菜 IPM 研究チーム）

全国的に発生の拡大が懸念されているトマト黄化葉巻病について、安価で、作業も簡便であり多試料検定に適している血清学的診断法の開発に取り組んでいる。平成21年度は、罹病トマト内での *Tomato yellow leaf curl virus* (TYLCV) の移行・増殖様式の解析を、トマトに TYLCV を接種し、経時的に葉位別に葉片を採集し ELISA 法で検定することにより行った。その結果、TYLCV はまず

新葉部から検出され始め、その後下位葉からも検出されていった。検定には新葉部が適していると示唆された。また、免疫グロブリン G を迅速免疫ろ紙検定 (RIPA) 法に適用したところ、TYLCV 感染トマト葉磨砕液での検出希釈限界は 3200 倍であった。さらに発症 2 日から 6 日前に診断が可能であった。本 RIPA 法は、特別な装置が不要であるため圃場現場での検定が可能であり、また数分以内に判定が行えるなど実用性があった。

次年度は、圃場現場で使用しやすい RIPA 法を用いた診断キットの開発を目指す。

(7) 有機性資源の農地還元促進と窒素溶脱低減を中心とした農業生産活動規範の推進のための土壤管理技術の開発

閉鎖性水域の水質保全をめざした環境負荷推定モデルの構築と負荷低減管理技術の開発

担当：広域農業水系保全研究チーム

平成 21 年度は、負荷低減個別技術の導入効果をモデル流域において予測するとともに、富栄養化地下水の再利用技術の確立等を行い、下記の結果を得た。①香川県西部の高瀬川流域の流達負荷量を負荷流出算定モデルで計算した結果、年間流達負荷量は窒素で 50.5Mg、リンで 6.3Mg、COD で 133.7Mg 程度と推定された。不作付地に作付けして慣行の施肥管理を行う、作付け農地全体に慣行の 3 割負荷低減技術を導入する、不作付地に作付けしてその農地全体に慣行の 3 割負荷低減技術を導入するという 3 つのシナリオでは、いずれも海域への窒素流達負荷量が最大で 10% 程度増減すること、他方、リンと COD では影響が小さいことが推察された。②養鶏場の排水が流入する池の水を灌漑した水田において、窒素の挙動は既往のモデルで説明可能であったが、リンについては表面水の濃度が低いにもかかわらず土壤浸透水の濃度が非常に高いことが判明し、土壤からの溶出を考慮したモデル化が必要であることがわかった。③窒素溶脱低減技術として資材と作物を検討した。鉄処理木炭資材では、pH 上昇に伴う硝酸イオン吸着能の低下がみられ、土壤中での機能の持続性に懸念が残った。作物の検討では、サトウキビ栽培による土壤からの排液量および窒素溶脱量の低減効果が認められた。④茶園において、富栄養化地下水に化成肥料を溶かし込み、日射対応点滴かん水することにより、施肥窒素を慣行の約 5 割削減、肥料コストを年間 1.4 万円 / 10a 削減でき、差引窒素負荷 (溶脱窒素量 - 灌漑地下水窒素量) がマイナスとなった。また、拍動自動かん水装置の低コスト化により、10 万円強で 10a の管理が可能な装置に改良することができた。また、丸亀平野において、富栄養化地下水灌漑による施肥削減効率を示すマップを作成した。⑤河川河口部の窒素濃度を、GIS データベースを用いて算出した 4 つの土地利用 (水田・畑・森林・都市等) 面積割合を用いて予測する簡易モデルを開発した。

次年度は、香川県を対象として作成した土地利用モデルを高度化するとともに、そのモデルを用いて、不作付地への作付けや負荷低減技術の導入等を伴ういくつかの農地管理シナリオに対応した水質濃度の変化を予測する。

(8) 草地飼料作における減肥・減農薬の環境対策技術の検証と新たな要素技術の開発

・ 窒素吸収量の多い植物の探索と窒素吸収機能の評価

担当：特命チーム員 (飼料作環境研究チーム)

平成 20 年と 21 年の 2 年間、牛ふん堆肥を多施用した区 (堆肥区) と、硫酸で多施用した区 (化成区) をそれぞれ 3 反復ずつ設置し、サトウキビ、ネピアグラス等の栽培試験を行った。初年目の 11 月中下旬に新植栽培の収穫調査を行い、一部の植物体試料について窒素濃度および硝酸態窒素濃度を分析したところ、ネピアグラスの化成肥料区においては茎部に基準値に達する硝酸態窒素の蓄積が

見られたのに対して、飼料用サトウキビについては見られず、これまでと同様サトウキビでは硝酸態窒素を蓄積しにくい性質がみとめられた。

次年度は、残りの試料および2年目の試験の試料についても分析とデータ解析を行う。

(9) 中山間・傾斜地における環境調和型野菜花き生産技術の開発

担当：環境保全型野菜研究チーム

平成21年度は、中山間・傾斜地において有効な環境保全型の野菜花き生産技術を開発するため、天敵を利用したアブラムシ防除技術、光質変換フィルム利用技術、カラシナすき込み被覆処理によるハウレンソウ萎ちょう病抑制技術、キク切り花の一斉収穫のための機械収穫・搬送システムの開発を進めた。また、業務用赤シソ生産で問題となっているシソ青枯病について、化学農薬を使用しない二次伝染防止技術を開発した。成果の概要は以下の通りである。

天敵シヨクガタマバエを利用したバンカー法によるアブラムシ防除対策について、生産規模のナス夏秋栽培ハウスで実証試験を行った。バンカー植物としてソルゴー、代替餌としてヒエノアブラムシを用い、これらを準備する時期をナス定植直後とし、ワタアブラムシ密度が急上昇する時期（6月下旬）の約30日前にシヨクガタマバエを導入することでアブラムシ増殖を抑制できた。シヨクガタマバエはバンカーから少なくとも13mの距離までは有効であり、バンカー間隔は26mより近接する必要はなかった。また、紫外線を可視光に変える光質変換被覆資材については、紫外線除去フィルムと同様、アブラムシ侵入抑制に有効であるが、経年劣化により紫外線や青色光の透過率が上昇するとその効果が小さくなる傾向があることを示した。

ハウレンソウの萎ちょう病抑制に有効なカラシナすき込み還元処理において、その土壌で栽培したカラシナをすき込んだ場合と他圃場で栽培したカラシナを持ち込んだ場合の効果を比較した。その結果、前者の発病軽減効果がより大きく、その土壌の微生物相を糸状菌の18S rDNAのDGGEパターンに基づいてクラスター解析した結果でも両者のクラスターは分かれた。すなわち、土壌メタゲノム解析による土壌微生物相解析手法はこの技術開発に対し有効な手法のひとつと見なせた。さらに、土壌のメタゲノム解析により土壌中のネグサレセンチュウを慣行のベルマン法に比べ感度良く検出できることを明らかにした。

軽労化のための技術開発として、キク切り花の一斉収穫体系の開発を進め、刈り取り・搬送機構を走行部に搭載した実験機を製作し、品質を低下させない刈り取り機構の仕様を把握するとともに、収穫機と搬送台車を組み合わせることによる作業能率向上（作業時間50%減など）を確認した。開発した収穫機の基本的な機構に関する特許を出願した。また、有機物施用技術に関し、有機物や肥料の局所施用を行う際に作業機械に取り付けて活用できる速度連動施肥システムの改良を進めた。「入力・表示ECU」を小型のマイコンで制御するよう改良し、畝立て成型マルチャに搭載して定速で繰出試験を行い、繰出ロールの回転数を計測表示する機能を付加した。さらに、業務用赤シソの生産で収穫作業にともなうシソ青枯病の二次伝染が問題となっており、これを化学農薬を用いずに防止するため、収穫機刈刃を電熱ヒータで加熱して殺菌する機構を開発した。刈刃押さえ板加熱方式ではマイクロヒータを利用することで90℃以上を確保できる見込みが得られた。この機構を搭載した電動台車利用収穫機（試作機）の現地実証を行い良好な結果を得た。

次年度は、上記項目の技術開発を進め、技術マニュアルとして取りまとめる。

4) 環境変動に対応した農業生産技術の開発

(1) 気候温暖化など環境変動に対応した農業生産管理技術の開発

担当：暖地温暖化研究近中四サブチーム

- ・作物生理生態応答に基づく温暖化条件下の収量・品質予測手法の開発

温暖化条件下に予想される夏期の水供給の不安定化に備え、早期落水条件下における水稲収量・品質の予測技術の向上を目指し、栽培試験を行った。「ヒノヒカリ」と「IR36」の比較試験で、「ヒノヒカリ」では穂肥の有無、「IR36」では登熟期の湛水の有無により、光合成・蒸散量に有意な差が生じることが分かった。また、登熟期の光合成量の低下が収量に影響を及ぼした。さらに、多品種の葉身の炭素安定同位体比 ($\delta^{13}C$) を測定し、早生品種に比べ晩生の「ヒノヒカリ」で穂肥の光合成向上効果が高いことが分かった。

次年度は、落水の時期や施肥体系の変動が収量・品質に及ぼす影響のインディカ種・ジャポニカ種（早生・中生）の差について検討を進める。

- ・イネ葉表面の微細水滴リモートモニタリング技術の検討

平成20年度に開発した CCD 顕微カメラ焦点距離調整システムを所内圃場で長期運用し、フィールド運用で生じる問題点を明らかにして、その解決策を考案した。また、一定の時間間隔でイネ葉面上に水を吐出して、濡れが消失する過程の画像を継続的に記録し、水濡れの動態を解析した。この結果、濡れの継続時間は、葉表面の微細構造や濡れの発生要因に強く影響されていることがわかった。

次年度は、問題点を改良したシステムを開発し、商業インターネット回線を通じた任意地点のモニタリング機能も加えて、システムを完成させる。さらに、蓄積した多数の画像データに基づいて、イネ葉表面上の濡れの動態について実証的に解明する。

(2) 高品質安定生産のための農業気象災害警戒システムの開発

- ・気象ロボットを用いた小麦赤かび病の早期警戒システムの開発

担当：特命チーム員（農業気象災害研究チーム）

小麦の発育予測モデルを実証するとともに、小麦赤かび病の1回目の防除適期を予測し、予測結果を Web 上で公開する早期警戒システムを開発する。西日本における小麦主要3品種について赤かび病の1回目の防除適期を予測するモデルを作成した。予測誤差 (RMSE) は4日以下であった。このモデルをリアルタイムアメダスで動かし、予測した結果を WEB 上で公開するシステムを独自サーバ上に構築し、安定して運用を行った。また、かび毒の蓄積に関する試験では、前年度と同様に、感染後の濡れ時間が150時間を超すと濡れ時間に比例してかび毒が蓄積した。濡れ時間により追加防除の要否判定が可能となった。

○次世代の農業を先導する革新的技術の研究開発

5) 先端的知見を活用した農業生物の開発及びその利用技術の開発

(1) イネゲノム解析に基づく収量形成生理の解明と育種素材の開発

担当：イネ収量性研究近中四サブチーム

- ・高温下での水稲の炭素・窒素動態と登熟障害米発生メカニズムの解明

高温による玄米の白濁や胴割れ、粒重低下のメカニズム解明を目的とする。平成21度は、弱勢穎花の粒重増加が強勢穎花よりも高温によって相対的に促進されることを確認したが、整粒割合との関連性は見出せなかった。玄米外観品質が劣る系統「SL216」（コシヒカリ／カサラス染色体断

片置換系統 CSSL) の穎果内生アブシジン酸 (ABA) レベルは、コシヒカリよりも低いことを明らかにした。一方、胴割れ米の発生は、栽培地や年次を込みにしても登熟初期の気温と密接な関係があるので、回帰係数により品種の気温反応性が特徴付けられることを確認するとともに、粒重や粒密度が玄米の吸水特性を介して胴割れ発生程度に関与している可能性を示した。

次年度は、弱勢穎花の生長程度と外観品質との関連を明らかにするとともに、穎果内生 ABA レベルと玄米外観品質との関係における品種間差を調査する。また、胴割れの作期間差や品種間差と玄米の吸水特性との関連を追究するとともに、胴割れ発生の品種間差を効率的に評価する手法を提示する。

・ 温度条件が収量とソース・シンク能の関係に及ぼす影響の評価

水稻の収量性に関与する茎葉中非構造性炭水化物 (NSC) の蓄積に関する 2 つの QTL について、作用発現の気温反応を明らかにした。また、超多収水稻の栽培試験において昨年引き続き 1000g/m² を超える収量を得るとともに、登熟性の品種間差が生じる要因を明らかにした。現地圃場において複数の肥効調節型肥料を組み合わせることにより最高収量 974g/m² の多収栽培を実証した。

次年度は NSC 蓄積に関する 2 つの QTL 座乗領域を集積した系統の特性評価を行う。また、多収水稻の収量成立過程をさらに調査し、生育環境条件に対する生産力反応を品種ごとに整理する。

・ イネ登熟過程における老化に関する生理機構及び遺伝子領域の解明

登熟過程における葉身の老化(クロロフィルと窒素含量の低下)に関連する QTL を複数推定した。また、老化程度が小さく多収である「多収系 1026」は、下位葉の窒素を上位葉に転流させることにより上位葉の窒素流出を抑制する機構を備えていることが葉面散布した重窒素の動態から明らかになった。

次年度は、ササニシキ/ハバタキ CSSLs およびコシヒカリ/カサラス CSSLs の葉身の老化程度と収量性との関係などを解析する。

(2) イネゲノム解析に基づく品質形成生理の解明と育種素材の開発

担当チーム名：米品質研究近中四サブチーム

・ 可消化タンパク質低減米等特別用途向き水稻育種素材の開発と品種育成

特徴ある米品質を持つ品種・系統の選抜・作出を実施しているほか、機能性成分の抽出方法の開発、米粉パン等の米粉加工食品に向く米の選定と加工特性の研究を行っている。平成 21 年度は、可消化性たんぱく質が、「コシヒカリ」の 6 割程度で、「エルジーシー潤」並の良食味低アミロース米の「中国 204 号」を育成した。昨年、新配付系統とした巨大胚で低アミロースの「中国胚 202 号」は、育成地で「はいいぶき」より粗玄米収量は 5 % 程度多収であったが、岡山県瀬戸内市、津山市での現地試験においては 2 ~ 3 割の多収となった。

次年度は、「中国 204 号」および「中国胚 202 号」の品種化に向けて育成および栽培データの収集を継続する。

・ タンパク質変異米の特性及び品質形成機構の解明

タンパク質組成変異米におけるデンプンの鎖長分布を調べた。α グロブリン欠失系統である K × 433 のアミロペクチン鎖長分布を、親系統のコシヒカリと比較すると、短鎖 (DP6 ~ DP16) が増加する傾向が認められた。

次年度は、タンパク質組成変異とデンプン特性との関係を解析するため、引き続き、タンパク質組成変異米のデンプン特性の解析を行う。

粉質米等の各種新形質米等から得られる米粉の特性を評価し、簡便な粉砕方法でも製パンに適した米粉になる系統を探索するとともに、製粉性の優れる品種の搗精特性を調査した。その結果、粉質の形質を示す「フラワーホープ」は、ピンミルで乾式粉砕すると損傷デンプン含有率が低く、高い比容積を示すパンが作成可能な粉になり、かつ精米歩留と製粉歩留まりが高いことを見出した。西日本で安定して高収量となる「ホシアオバ」、「クサノホシ」、「中国飼 189 号」の製粉適性と米粉パン適性を評価し、西日本向き多収米の加工利用について検討した。「クサノホシ」や「ホシアオバ」は、一般品種と同等以上に品質のよい米粉を得ることができ、製パン性も優れる可能性が示された。

次年度は、粉質米等の各種新形質米等から得られる米粉の特性を評価し、簡便な粉砕方法でも製パンに適した米粉になる系統を探索する。製パン性に対する米タンパク質の影響については、グルテリンがグルテン形成におよぼす効果を明らかにする。

・ 米の用途拡大のための新規複合脂質の構造決定と大量抽出法の確立

米抽出物中の新規複合成分について、複合成分の親水性部分の解析を行い、糖組成を明らかにした。今年度の試験結果をもとに、単独名義特許を2件、共同特許を1件、出願した。

次年度は、穀物に含まれる機能性物質のさらに精密な精製法を確立する。さらに、質量分析法等を使用して、機能発現の原因部分と思われる機能性物質の親水性部分の構造を決定する。

(3) 稲病害虫抵抗性同質遺伝子系統群の選抜と有用 QTL 遺伝子集積のための選抜マーカーの開発

・ DNA マーカーを利用したいもち病抵抗性と縞葉枯病抵抗性の同質遺伝子系統・集積系統の育成
担当：特命チーム員（稲マーカー育種研究チーム）

DNA マーカーを利用して「コシヒカリ」および「ヒノヒカリ」の同質遺伝子系統の作出を進めている。平成 21 年度は、これまでに選抜した「コシヒカリ」の同質遺伝子系統の玄米の粒形が縦長であることが判明したため、「コシヒカリ」を戻し交配して得られた系統の中から、粒形が「コシヒカリ」と同等のものを3系統選抜した。また、マーカー選抜により、「ヒノヒカリ」を6回戻し交配した同質遺伝子系統を3系統選抜した。

次年度は、玄米の粒形で選抜した「コシヒカリ」の同質遺伝子系統の栽培特性や縞葉枯病、いもち病に対する抵抗性を調査する。また、「ヒノヒカリ」の同質遺伝子系統については戻し交配・選抜をさらに進めるとともに栽培特性の調査を行う。

6) IT活用による高度生産管理システムの開発

(1) フィールドサーバの高機能化と農作物栽培管理支援技術の開発

・ 車載センサー・圃場設置センサーによるハイブリッド栽培管理情報収集技術の開発
担当：特命チーム員（フィールドモニタリング研究チーム）

平成 21 年度は、平成 20 年度に開発した GPX (GPS exchange format) 拡張形式を修正し、ユーザ定義による再拡張を可能とするとともに、この修正に合わせてメッシュ栽培管理ソフトウェア (PFUManager) や作業計画管理支援ソフトウェアを改良し、一連のデータフロー (データの収集・変換・蓄積・利用についてのソフトウェア体系) を作成した。

次年度は、フィールドサーバが収集した CSV (Comma Separated Value) 形式の観測データを GPX 拡張形式の地点データにオンラインで変換するソフトウェアを作成し、車載センサーと圃場設置センサーによるハイブリッド栽培管理情報収集技術の開発を完成させる。

- ・ 現場情報収集及び技術情報活用のためのモバイル情報処理ソフトウェアの開発

担当：特命チーム員（フィールドモニタリング研究チーム）

平成21年度は、モバイル機器の新潮流に対応するために、現場情報収集及び技術情報活用のためのモバイル情報処理ソフトウェアとしての「カスタマイズ可能な農業記録システム」のAndroidプラットフォームへの移植を開始し、第1弾として地図ビューアを開発した。また、モバイル利用の可能性を広げるために、全国地図のインターネット配信サービスを公開・整備した。

次年度は、「カスタマイズ可能な農業記録システム」のAndroidへの移植を進めるとともにシステム全体を統合し、「カスタマイズ可能な農業記録システム」を完成させる。

(2) 生産・流通IT化のための農業技術体系データベース及び意思決定支援システムの構築

担当：生産支援システム研究近中四サブチーム

- ・ Webサービス連携による適正営農設計支援システムの開発
- ・ 中山間地における農地管理支援システムの開発

平成21年度は、水稲生育予測モデルが使用する予測パラメータへの新品種追加と再計算による予測精度改善、作業計画管理支援ソフトウェアのユーザーニーズに基づく改良と機能追加、水収支解析・栄養塩負荷量評価モデルの改良と機能追加、携帯情報端末を利用した作業計画管理支援システム開発のためのデータ構造の設計等を行った。

具体的には、Webサービス連携により構成される営農支援システムの一環として開発・公開している水稲生育予測サービスにおいて、予測モデルが使用する品種別パラメータを最新の全国奨励品種決定データ2008を用いて再計算し予測精度を改善するとともに新品種パラメータを追加した。平成20年度までに開発した作業計画管理支援ソフトウェアについては、Web公開を通じた一般利用および現地実証でのユーザーニーズを踏まえ、作付け計画作成機能を改良・強化し、施肥・防除設計等の新たな機能を追加した。瀬戸内海流域での水収支・栄養塩負荷量の解析では、平成20年度から開発を行っている水収支解析モデルを改良し、水収支算出構造の改善やレーダー・アメダス解析雨量データへの対応を図るとともに、土地利用・人口・畜産頭数に対する負荷原単位を設定して土地系・生活系・畜産系由来の窒素・リンの負荷量を水収支と合わせて算出する機能を追加し、岡山県の吉井川・高梁川を対象に2003、2004年の推定を行った。携帯情報端末を利用した広域コントラクターのための作業計画・管理支援システムの開発では、Androidと呼ばれる携帯情報端末プラットフォームを用いた地図ビューアを開発し、あわせて同システム用のデータ構造を設計した。

次年度は、更新された水稲栽培事例データに基づく水稲生育予測モデルパラメータの予測精度改善と新品種への対応を継続する。作業計画管理支援ソフトウェアについては、データセット作成の省力化に向け、これまでに開発・整備してきた農作業・作物生体・栽培環境データの統一的な取り扱い・操作を実現するための統合データベース・アクセス手順の開発に着手する。水収支・栄養塩負荷量の解析では、対象流域に合わせたパラメータ調整を行うとともに、用水量、施肥量等の栽培条件への対応、メッシュ以外の区画への対応など、モデルの改善を図る。携帯情報端末を利用した作業計画管理支援システムの開発では、本年度作成した地図ビューアをもとに、現地でのインタビュー等を行いつつ、システムのプロトタイプを開発する。

7) 自動化技術等を応用した軽労・省力・安全生産システムの開発

(1) 農作業の高精度化・自動化等による高度生産システムの開発及び労働の質改善のための評価指標の策定

- ・ 傾斜地における収穫物自動搬送システムの開発

担当：特命チーム員（高度作業システム研究チーム）

平成21年度は、トラックへのコンテナの省力的な積み替え手法、果実の搬送中の品質劣化要因の解明、画像による周辺認識技術の開発に取り組んだ。コンテナの積み替えについては、トラックの荷台と同じ高さのプラットホームを、足場用鋼管などを利用して簡易に施工する手法を開発した。品質劣化要因の解明については、搬送中に果実が受ける振動計測を行い、単軌条運搬機による搬送中に継続的に大きな振動を受けることを明らかにした。周辺認識技術については、直進時に得られる画像のテクスチャーの変化が少ないことを利用し、差分画像から障害物を検出するアルゴリズムを開発した。

次年度は、プラットホームを利用した省力的な積み替え手法、振動と果実品質の関係の解析を行うとともに、旋回時の障害物検出手法を確立する。

8) 国産バイオ燃料の大幅な生産拡大に向けたバイオマスの低コスト・高効率エネルギー変換技術の開発

(1) バイオエタノール原料としての資源作物の多収品種の育成と低コスト・多収栽培技術の開発

- ・ 耕作放棄地等における持続的株だし栽培技術の開発

担当：広域農業水系保全研究チーム（バイオマス・資源作物開発チーム 課題支援）

耕作放棄地等不良環境圃場におけるサトウキビの収量、雑草生育、病害虫発生等の基礎データを取得するため、3年間耕作放棄地であった圃場において、前年の株出し栽培に引き続き、株出し栽培1年目の試験を行った。耕作放棄地試験圃場は対照圃場と比べて、株出し栽培の夏雑草が多いことを明らかにした。耕作放棄地試験における製糖用品種 NiTn18 と高バイオマスモデル系統 KR98-1001 の株出し栽培の収量は対照試験と比べると少なく、耕作放棄地試験では雑草がサトウキビの生育を阻害していることが示唆された。

次年度は、株出し栽培2年目の基礎データを取得するとともに、除草にかかる労力・コストの評価を行う。

●食の安全・消費者の信頼確保と健全な食生活の実現に資する研究

○ ニーズに対応した高品質な農産物・食品の研究開発

9) 高品質な農産物・食品と品質評価技術の開発

(1) 直播適性に優れ、実需者ニーズに対応した低コスト業務用水稲品種の育成

担当：低コスト稲育種研究近中四サブチーム

低コスト業務用水稲品種の育成については、「日本晴」熟期を中心に病害複合抵抗性で直播栽培に適した良食味品種や低アミロース品種を育成するための交配、選抜、特性調査等を実施した。

平成21年度は、岡山県内2カ所の生産者団体で有望と評価された良質の低アミロース系統「中国192号」（品種名：姫ごのみ）を品種登録出願した。また、良質、良食味で縞葉枯病および穂いもち病に強い「日本晴」熟期の「中国203号」を新配付系統として選定した。

次年度も、引き続き、「日本晴」熟期を中心とした耐倒伏性、耐病性、良食味品種の育成を進める。

(2) めん用小麦品種の育成と品質安定化技術の開発

担当：めん用小麦研究近中四サブチーム

- ・小麦粉粒度の制御因子の解明と低タンパク質含量小麦の製粉性の向上

酵素処理によるピュロインドリン（硬軟質性に関わるタンパク質、PIN と略す）および極性脂質の分解性や塩溶液による抽出性を調べ、PIN の極性脂質膜の保護作用に関する手がかりを得るとともに、多種類の軟質、硬質小麦の胚乳粉およびデンプン粒を材料にして、硬軟質と PIN 含量、極性脂質含量との関係を調べた。

その結果、デンプン粒表層の PIN は、極性脂質のデンプン顆粒への吸着性の保持、並びに酵素的分解からの保護に寄与していることを確認した。軟質小麦のデンプン粒表層の PIN 含量は穀粒硬度との相関が認められ、極性脂質含量も硬質小麦と比較して顕著に高かった。一方、胚乳粉の極性脂質含量および PIN 含量と穀粒硬度との間には、硬質、軟質小麦ともに相関が認められなかった。

次年度は、2種類の PIN（PIN-a と PIN-b）の存在比がデンプン粒表層と胚乳中で異なるメカニズムを明らかにするため、PIN と脂質との会合性を電気泳動等で解析する。

- ・温暖地西部向け高製粉性・早生めん用小麦品種の育成

昨年度品種登録出願した「ふくはるか」の普及を図るとともに、早熟で製粉性の高い通常アミロース系統、秋播型系統、低カドミウム系統を育成するため、交配と選抜を行った。また菓子適性の簡易評価法として、SRC（Solvent Retention Capacity）Profile を検討した。

その結果、奈良県に種子を供給し、「ふくはるか」の大規模試作が始まった。生産力検定により早熟で製粉性の高い通常アミロース系統や秋播型系統などを選抜した。低カドミウムめん用系統については、109 系統を生産力検定予備試験に供試した。また、SRC 分析の検討に着手し、品種間差や小麦粉特性との関係を調べた。

次年度は、早熟で製粉性の高い通常アミロース系統、秋播型系統、低カドミウム系統を育成するため、交配と選抜を継続する。低カドミウムめん用系統については、生産力検定予備試験で優良系統を選抜し、系統適応性検定に供試する。SRC 分析の検討を継続する。

- ・小麦ふすまの高付加価値化技術の開発

ふすまの自己消化反応により生成するアンジオテンシン変換酵素（ACE）阻害ペプチドの単離と構造決定を行った。また、ACE 阻害ペプチドの生成に関与するふすまの酸性プロテアーゼ、カルボキシペプチダーゼ、および ACE 阻害ペプチド生成能の貯蔵安定性を試験した。

その結果、ACE 阻害ペプチドとして、新規なイソロイシルグルタミルプロリンを含む合計 6 種類のペプチドを単離し、構造を決定した。ふすまの各プロテアーゼは、30℃以下の貯蔵で少なくとも 30 日間は活性低下が起こらず、ACE 阻害ペプチドの生成能も変化しないことを確認した。

次年度は、細菌を用いる復帰突然変異試験により、ふすま由来ペプチドの安全性を検討する。また、粗精製ペプチドの高血圧自然発症ラットの血圧に対する長期投与の効能を検証する。さらに、共同研究の実施に向けて、6 種類の血圧降下ペプチドを大量に精製する。

(3) 実需者ニーズに対応したパン・中華めん用等小麦品種の育成と加工・利用技術の開発

担当：パン用小麦研究近中四サブチーム

- ・製パンに適した高分子量及び低分子量グルテニンサブユニットを持つ温暖地西部向け早熟小麦系統の開発

農業特性と製パン性に優れるパン用系統を選抜し、やや早生で穂発芽抵抗性が強く、グルテン物性が強い「中国 160 号」を配布したほか、有望系統の系統適応性試験への供試および秋播き性の

パン用 DH 系統（半数体倍加系統：品種育成年限を短縮できる系統）の選抜を行った。グルテン組成やピュロインドリン遺伝子に関する育種素材の開発と分析を行い、グリアジン欠失型の戻し交配を進めたほか、ピュロインドリン遺伝子型が製粉・小麦粉特性に影響していることを明らかにした。甘味種コムギを含む新規コムギ系統育成のため、連続戻し交配と DNA マーカー選抜を行った。

次年度は、パン用系統の選抜を進めるほか、秋播き性や極低アミロースなどの系統の開発を行う。また、グリアジン欠失型を導入した素材の開発と分析および甘味種コムギを含む新規コムギ系統育成の交配選抜を行う。

- ・ グルテン網目構造形成に関与するサブユニット蛋白質の解析とグリアジンの DNA マーカーの開発
低分子量グルテニンサブユニット（LMW-GS）遺伝子型の解析を行うとともに、生地物性に関すると考えられるグリアジンの遺伝子型の解析とカタログ化を行った。その成果を用いて、近農研、北農研、九沖研、作物研の系統について、LMW-GS と硬軟質関連タンパク質（PIN-a、PIN-b）遺伝子型について選抜を行った。また、LMW-GS 遺伝子型について、その命名法統一のための国際共同研究を進め、フランス品種である「Darius」が新たな LMW-GS の変異を持つことを明らかにした。また、輸入銘柄の遺伝子型構成について解析を行い、銘柄ごとの特徴を明らかにした。Pin 遺伝子型については、アジア地域に新たな 2 種の Pina 欠失型変異（Pina-D1r、Pina-D1s）が存在することを発見した。

次年度は、輸入銘柄間の遺伝的差異を詳細に解析するとともに、グルテニン、グリアジンの品種間差異と生地物性に対する効果を解析し、DNA マーカー化を行う。

- ・ モチ性を含む低アミロース性パンコムギの特性とその形成機構の解明

パンコムギのモチ性突然変異系統の成分組成等の変化は、ワキシー遺伝子の多面発現によるものと考えられる。そこで、新たに作出した突然変異系統や準同質遺伝子系統等を用いて、ワキシー遺伝子の多面作用を解明する。モチ性／ウルチ性の準同質遺伝子系統等を用いて、アミロペクチンの構造を解析した結果、*Wx-D1* 座遺伝子の機能とアミロペクチンの構造および特性との関連は認められなかった。また、ウルチ性澱粉から分離したアミロペクチンにも超長鎖は認められなかった。従って、顆粒結合性澱粉合成酵素はアミロペクチンの生合成には関与していないと考えられた。

次年度は、準同質遺伝子系統等を用い、*Wx-D1* 座の遺伝子型が穀粒の化学成分組成に与える影響を解析する。

(4) 大麦・はだか麦の需要拡大のための用途別加工適性に優れた品種の育成と有用系統の開発

担当：大麦・はだか麦研究チーム

平成 21 年度は、炊飯麦の褐変を抑え食感を改良した「四国裸糯 119 号」の品種登録出願ならびに DNA マーカー（大麦縞萎縮病抵抗性、うどんこ病抵抗性、閉花性）を活用した系統選抜を中心に、以下のとおり研究を進めた。

極低ポリフェノール含量となる遺伝子 *ant28-494* を持ち、炊飯後に褐変しにくく、低アミロース（糯性）で食味に優れる二条裸麦「四国裸糯 119 号」を「キラリモチ」として品種登録出願した。本品種は大麦縞萎縮病抵抗性を有している。刈り遅れのサンプルを用いて α アミラーゼ活性や穂発芽検定を行い、適期の収穫を行えば普及に際して穂発芽について大きな問題は生じないと考えられた。また多収で高精麦白度の六条性の「四国裸 120 号」、「四国裸 121 号」、二条性の「四国裸 122 号」、「四国裸 123 号」を新配付とした。

主要な大麦日本品種について、うどんこ病抵抗性に関わる *Mla* および *Mlo* 遺伝子の変異を明らかにし、抵抗性選抜に有用な DNA マーカーを作成した。縞萎縮病Ⅲ型ウイルスにも抵抗性を示す

rym5 座の新規抵抗性遺伝子をもつ「横綱」、「TN2」に固有の一塩基置換を見出し、CAPS マーカー化した。育成系統の中で閉花性の系統について、既存品種の閉花性遺伝子との塩基配列との対応づけを行った。

オオムギ種子タンパク質の1つであるホルドインドリリン B2 (HINb-2) が欠失した系統は穀粒硬度が高いこと、またこの変異を判別する CAPS マーカーにより育種の初期段階で穀粒硬度が高い系統を判別し、選抜できることを示した。

抗糖尿病作用に関わる機能性成分を調べるために裸麦品種「イチバンボシ」のジクロロメタンおよびアセトン抽出物に脂肪細胞のグルコース取り込み促進作用を見出した。また、これら抽出物は PPAR $\alpha \cdot \gamma \cdot \delta$ リガンド活性を示し、PPAR γ 活性化が脂肪細胞分化およびグルコース取り込み促進の一因であることが示唆された。

次年度は、実用品種並の穂発芽性を持つ *ant* 遺伝子を導入した極低ポリフェノール系統、多収で食感の優れる低アミロース（糯性）や胚乳成分の β グルカン含量を高めたり、欠失した系統の開発を行う。病害抵抗性、穀粒硬度や胚乳形質に関わる DNA マーカーを育種過程で利用する。脂肪細胞分化およびグルコース取込み活性成分の分離・精製を進める。

(5) 乳肉の美味しさ等の品質に影響を与える因子の解明と新たな評価法の開発

牛の肉質形成過程のプロテオーム解析

・黒毛和種の骨格筋形成関連物質の網羅的解析

担当：特命チーム員（食肉プロテオーム研究チーム）

と畜前1年間、粗飼料多給肥育を行った牛（試験1）では、濃厚飼料多給の牛と比較して、筋原線維蛋白質の遅筋化と、これを支持する酵素蛋白質の発現増加傾向が認められた。同時に、骨格筋内で脂肪合成に係わる遺伝子の発現減少および筋蛋白質肥大に係わる遺伝子の発現増加が認められた。また、肥育開始からの1年間、粗飼料多給した後、半年間、粗・濃厚飼料を飽食した牛（試験2）で肉量とともに脂肪含量の減少傾向および脂肪酸組成について n-6/n-3 比率の低下が認められた。

次年度は、筋肉中で発現している蛋白質について、飼養条件等による違いを明らかにするため、微量蛋白質を含めた詳細な発現解析および遺伝子の発現解析を実施する。

10) 農産物・食品の機能性の解明と利用技術の開発

(1) 野菜・茶の免疫調節作用、生活習慣病予防作用を持つ機能性成分の評価法と利用技術の開発

・脂肪細胞に着目した野菜の生活習慣病予防成分の解明

担当：特命チーム員（野菜・茶機能性研究チーム）

本研究では、生活習慣病の予防改善には脂肪細胞の小型化が重要であることから、野菜成分に脂肪細胞小型化作用を見いだすことを目的とする。平成21年度は、ショウガの辛み成分について検討した。主要な辛み成分である 6-ジンゲロールとその類縁体を前駆脂肪細胞に添加して培養すると小型脂肪細胞の増加および生活習慣病予防に関わるアディポネクチンの遺伝子発現の上昇が認められた。また、6-ジンゲロール等は脂肪細胞分化に必須である核内受容体 PPAR γ を活性化した。これらの結果から 6-ジンゲロール等の辛み成分はある種の糖尿病治療薬と同じ作用メカニズムを有していることがわかった。

次年度においても、野菜成分の脂肪細胞機能への作用について解析する。

(2) **かんきつ・りんご等果実の健康増進機能性成分の機能解明と高含有育種素材の開発**

・核内受容体を標的とするかんきつ等果実成分の肥満等生活習慣病予防作用の解明

担当：特命チーム員（健康機能性研究チーム）

本研究では、脂肪組織を構成する脂肪細胞の機能を調節し、メタボリックシンドロームの予防・改善につながる成分を、カンキツ等果実を中心に探索している。平成21年度は、カンキツにも多く含まれるフラボノイド成分の基本骨格のひとつであるフラバノンが脂肪細胞分化を強く促進することを明らかにした。その作用機序として、フラバノンが脂肪細胞の分化および機能に重要な役割を担う核内受容体 PPAR γ （ペルオキシゾーム増殖剤応答性受容体- γ ）を活性化することも見いだした。

次年度は、脂肪細胞の機能を調節する成分の探索と並行して、今中期においてこれまで培養細胞レベルで効果を見いだした成分が実際に肥満や糖尿病のモデル動物に対して効果を示すかどうかを検証する。

○ **農産物・食品の安全確保のための研究開発**

1 1) **農産物や加工食品の簡易・迅速な品種識別・産地判別技術の開発**

(1) **農産物や加工食品の簡易・迅速な品種識別・産地判別技術の開発**

担当：品種識別・産地判別研究チーム

小麦、大麦・裸麦、いんげん等の各種加工品について、DNA マーカーの精度の向上と判別可能な適用品種の拡大を図り、加工品における原料品種識別の可能性を実証した。その結果、小麦については、農林61号をはじめとする14品種について、原種、原原種を保存している府県から種子を収集し、昨年度までに開発した小麦特異的なSSRマーカー10組において、品種内多型が検出されないことを確認した。また、外国品種に特異的に検出されるSSRマーカーを開発し、国産小麦との簡易判別と混入率測定への利用の可能性を見出した。市販のDNA抽出キットを改良し、小麦粉、麺類、食パン、菓子類からのDNA抽出が可能となった。大麦・裸麦については、大麦の皮性・裸性判別用プライマーセットを用いて、皮性・裸性品種判別法を開発し、これまでに確認した大麦・裸麦加工食品13製品のうち、押麦、はったい粉、味噌での皮性・裸性の判別が可能となり、判別精度が向上した。インゲンマメについては、「雪手亡」と「絹てぼう」について、品種特性の高いレトロトランスポゾンマーカーを見出した。アズキについては、昨年度までに開発した「きたのおとめ」と「しゅまり」の品種固有マーカーを用いて、アズキ加工品（餡）からの両原料品種識別の可能性を実証し、迅速・簡便な実用化技術（LAMP法）として市販化の目途がついた。チャについては、品種識別性に優れたレトロトランスポゾン配列を単離し、ベクターにサブクローニングした。

次年度は、小麦、大麦・裸麦、アズキ、いんげん、茶などの各種加工品を対象とした品種識別のためのDNAマーカーを開発するとともに、うどんやパン・菓子類等の小麦、レトルト麦飯や押し麦等の大麦・裸麦、餡等のアズキ、緑茶飲料の茶等の加工製品中の原料品種を、簡易・迅速にかつ高精度に識別する技術を確立する。

●美しい国土・豊かな環境と潤いのある国民生活の実現に資する研究

○ 農村における地域資源活用のための研究開発

1 2) バイオマスの地域循環システムの構築

(1) 温暖地における油糧作物を導入したバイオマス資源地域循環システムの構築

近畿・中国・四国地域における中小規模水田利用システムの開発

担当：中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム

バイオマス資源を利用した地域循環システムの構築を目的として、水田転換畑において現地実証試験を行いつつ、個別技術の開発に取り組んだ。暗渠埋め戻し部の更新による排水対策を講じた転換畑では、梅雨など強い降雨時期であっても作土内滞留水は生じず、水分張力変化も速やかな回復を見せたことから、この排水対策は十分な効果があると判断できた。密播による減収問題を解決するために平成20年度に開発したヒマワリ用播種ロールは、現地生産組合が約20haのヒマワリ播種に利用した。また、乳牛へのヒマワリ搾油残さ給与において、乳量および乳成分への影響はないこと、給与量の増大とともに不飽和脂肪酸の比率が増加することを明らかにした。

次年度は、水田転換畑におけるヒマワリの土壌管理技術およびヒマワリ搾油残さの乳牛への給与技術を確立するとともに、ヒマワリを組み込んだバイオマス資源の地域循環システムの経済性を評価する。

○ 豊かな環境の形成と多面的機能向上のための研究開発

1 3) 西日本地域における半自然草地の生物多様性と管理

(1) 草地生態系の持つ多面的機能の解明

・西日本地域における半自然草地の生物多様性評価と管理

担当：粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム（草地多面的機能研究チーム 課題支援）

樹林地からの草原再生における管理形態の影響を検討するとともに、中国地方の各調査サイトにおける植生データから、生物多様性植物指標の候補となり得る植物種のリスト作成に着手した。

放棄草地あとの樹林地からの草原を再生するためには、間伐と下刈りの組み合わせで、地表の相対光度が20%以上を維持するのが有効であり、そのために、伐採後も数年間の刈払いの継続が必要であることを明らかにした。また、中国地域の各サイトの指標種候補を抽出し、生物多様性指標種開発のための候補リストを作成したが、調査点数が若干不足しており、暫定リストの作成は一部にとどまった。

次年度は、データを補充し、地域版、サイト版の生物多様性植物指標の暫定リストを作成するとともに、群集構造の変化や希少種の動向などのモニタリングおよび再生活動の効果を土壌などの環境要因と関連づけて評価し、植生変遷予測モデル構築を目指す。

(2) 野生鳥獣の行動等の解明による鳥獣害回避技術の開発

担当：鳥獣害研究チーム

栽培品目や営農形態、地域の出没獣種に見合った体系的被害防止技術およびこれら対策技術の導入・普及を図るための啓発手法の開発を進めた。

2種類の多獣種対応型（合掌型、おしゃもじ型）立体柵を開発し、実規模現地試験でイノシシ、サル、タヌキ、テン、キツネに対する侵入防止効果を確認し、さらに、地域で使いやすいように設置コストを抑えた簡易型立体柵でも侵入を防止できた。地域への害獣対策の技術移転において、果

樹の低樹高化などの害獣の潜み場となりにくい環境が侵入抑制効果を有することを確認した。また、イノシシが採草地のイネ科牧草に依存していること、イネ科牧草ではイタリアンライグラスがトールフェスクより嗜好性が高いこと、ワラビが優占する草地では刈り払い後の残渣を除去すると掘り起こしが減ることを見いだした。イノシシは甘味、苦みを正確に感じており、ハクビシンは直径3～215mmの柱を登ることができるがそれ以上太い場合は登ることが困難であるなど、感覚や運動能力を明らかにした。また、有望忌避植物としてヨウシュヤマゴボウ等を選抜し、柵との併用による侵入防止効果の強化の可能性を示唆した。島根県美郷町 A 地域をモデル事例として、野生鳥獣を誘引しにくく、かつ防護しやすい果樹や野菜の営農手法を継続的に地域住民に技術移転した結果、営農意欲と被害防止意欲の高揚がみられ、販売所の自発的開設、栽培品目の増加、作付け面積の拡大、休耕地の再開墾など、高齢化率が40%を超える集落であっても地域が活性化することを実証した。

次年度は、簡易型立体柵の低コスト化、イノシシの牧草の嗜好性を活用した採食被害の起こりにくい草地管理技術の開発、ハクビシン、イノシシ等の運動能力評価による被害防止装置の効果向上、鳥獣害を回避しやすい作業形態や作業方法、野生鳥獣が住み着きにくく増えにくい集落環境等の実現手法のマニュアル化を行う。

(3) 農業・農村の持つやすらぎ機能や教育機能等の社会的説明

担当：農業・農村のやすらぎ機能研究チーム

平成21年度は、①農業体験学習に参加している児童の作文を形態素に分けて単語の係り受け関係を解析することで、教育的効果の発現プロセスを明らかにするとともに、②援農参加者へのアンケートにより、参加動機の多様性と、取り組みの一部に目的と満足度の乖離という課題があることを明らかにした。得られた結果は以下の通りである。

①農業体験学習活動に参加している児童の作文の形態素解析と単語の係り受け解析に基づき、児童の73%が使う形容詞「うれしい」が、活動全般ではなく、栽培の成功による収穫や給食および家庭での他者からの肯定的評価に起因していることを指摘した。これに基づき、「成し遂げる」ことを身につける教育的効果やこれにともなう「達成感」等の発現の具体的プロセスを明らかにする方法として、形態素に分けた単語の係り受け関係の解析が利用しうることを示した。②農業のもつ様々な機能発揮の場としての農作業体験の一つの形態である援農について、NPO法人による都市部での運営事例(アンケート回答者37名)に基づき、都市住民の援農参加の動機が、農業支援、体験・学習、リクリエーション、農園の利用待ち、社会参加と多様であること、体験・学習という動機に起因している参加目的のうち、「土いじり」は満足度が高いが、「農作業体験」では目的意欲と満足度との乖離が大きく、農作業体験の促進に向けた課題となっていることを明らかにした。

次年度は、①農業体験学習について、指標となる単語の係り受け関係から教育的効果の発現プロセスを明らかにする方法を用い、大阪市の小学校での3年間の参与観察と児童作文データに基づき、累年的な活動に基づく教育的効果を明らかにする。また、②機能発揮の場としての農作業体験の促進に向け、農作業体験がNPO法人の設立目的の一つとなりうることを示すとともに、体験促進に関するNPO法人の活用場面の類型と援農システムを事例としたNPO法人の運営面での課題の整理とを組み合わせることによって、NPO法人の活用方策を明らかにする。および③教育機能やNPO法人活用方策など、これまでの成果をとりまとめたパンフレットを刊行する。

Ⅲ 平成21年度 研究予算課題一覧

●農業の競争力強化と健全な発展に資する研究

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
○ 農業の生産性向上と持続的発展のための研究開発		
1) 地域の条件を活かした高生産性水田・畑輪作システムの確立		
(1) 地域の条件を活かした水田・畑輪作を主体とする農業経営の発展方式の解明 近畿・中国・四国地域における中山間・傾斜地の地域資源を活用した多様な主体間のネットワークによる農業活性化方策の策定		
1 農業施策の変化に対応した農家就業選択行動の予測モデルの開発	地域営農・流通システム研究チーム	運営費交付金(一般) (機構交付金プロ)
2 新規創設経営の育成支援策の策定	地域営農・流通システム研究チーム	運営費交付金(一般)
3 広域的連携による地域資源管理主体の確保方策の解明	地域営農・流通システム研究チーム	運営費交付金(一般)
4 条件不利地域における農村型ビジネスモデルの策定	地域営農・流通システム研究チーム	運営費交付金(一般)
5 都市農村ネットワークを活用した交流産業の経済的効果の解明	地域営農・流通システム研究チーム	運営費交付金(一般)
6 分散的中小産地における農産物の需給調整機能の解明と生産・販売計画モデルの作成	地域営農・流通システム研究チーム	運営費交付金(一般) 科研費
(2) 省力・機械化適性、加工適性、病害虫抵抗性を有する食品用大豆品種の育成と品質安定化技術の開発		
1 豆腐加工適性に優れ重要病害虫抵抗性を強化した機械化適性品種の育成	大豆育種研究近中四サブチーム	運営費交付金(一般) (所内支援制度)
2 地域ニーズに対応した特殊用途品種の育成	大豆育種研究近中四サブチーム	運営費交付金(一般) (所内支援制度)
3 豆腐加工適性に影響を及ぼす大豆種子成分の解明とそれに基づく制御技術の開発	大豆育種研究近中四サブチーム	運営費交付金(一般) (所内支援制度)
4 褐斑形成・種子伝染に着目したダイズモザイクウイルス抵抗性の遺伝様式の解明とDNA マーカーの開発	大豆育種研究近中四サブチーム	運営費交付金(一般) 農林水産省委託費(一般)
(3) 病害虫抵抗性、省力・機械化適性、良食味等を有する野菜品種の育成		
レタスビッグベイン病抵抗性実用品種の育成及び抵抗性増強技術の開発		
1 種内交配によるレタスビッグベイン病抵抗性品種の早期育成	レタスビッグベイン研究チーム	運営費交付金(一般)
2 機能性成分高含有レタス等の品種育成	レタスビッグベイン研究チーム	運営費交付金(一般)
3 <i>Olpidium brassicae</i> 菌によるレタスビッグベインウイルス並びにミラフィオリレタスウイルスの媒介機構解明	レタスビッグベイン研究チーム	運営費交付金(一般) (所内支援制度)

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
4 レタスビッグベイン病を媒介する <i>Oplidium brassicae</i> 菌検出法の開発及び発病予測モデルの構築	レタスビッグベイン研究チーム	運営費交付金 (一般)
5 菌媒介阻害によるレタスビッグベイン病の制御技術の開発	レタスビッグベイン研究チーム	運営費交付金 (一般)
6 弱毒ウイルス利用によるキュウリ黄化えそ病防除技術の開発	レタスビッグベイン研究チーム *徳島県立農林水産総合技術センター *香川県農業試験場 *愛媛県農林水産研究所 *高知県農業技術センター	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (競争的資金)
(4) 地域条件を活かした高生産性水田・畑輪作のキーテクノロジーの開発と現地実証に基づく輪作体系の確立 近畿・中国・四国地域における中小規模水田利用システムの開発		
1 中山間地域の気象・不整形区画圃場に対応した大豆・麦用高精度播種技術の開発	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般)
2 鉄コーティング種子を用いた水稲湛水直播栽培と不耕起播種機を用いた麦・大豆栽培による低コスト水田輪作システムの構築	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム *兵庫県立農林水産技術総合センター	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般)
3 中山間小区画圃場有効利用のための省力化・高付加価値技術の開発	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム	運営費交付金 (一般)
4 鉄コーティング種子を活用した超省力直播技術の開発	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム *北海道立中央農業試験場 *広島県立総合技術研究所 *金子農機(株)	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般) (競争的資金)
5 鉄コーティング処理によるイネ細菌病の発病抑制機構の解明とその活用技術の開発	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム *(社)日本植物防疫協会	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般) 民間委託費
6 ダイズ葉腐病等水田輪作に伴う病害の制御技術の開発	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム	運営費交付金 (一般)
7 土壌水分条件が青立ちに及ぼす影響の解明とその対策技術の開発	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム *兵庫県立農林水産技術総合センター	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般) (競争的資金)

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
8 カメムシの加害による青立ち等の大豆被害の要因 解明と対策技術の開発	中山間耕畜連携・水 田輪作研究チーム *山口県農林総合技 術センター *秋田県農林水産技 術センター *福島県農業総合セ ンター *静岡県農林技術研 究所 *愛媛県農林水産研 究所 *福岡県農業総合試 験場 * (株) 下堂園	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般) 農林水産省委託費 (競争的資金)
9 瀬戸内地域における地下水位制御システムを利用 した多収輪作体系の開発	中山間耕畜連携・水 田輪作研究チーム	運営費交付金 (一般) (重点事項)
10 シコクビエ安定多収系統の選定と湛水栽培方法の 開発	中山間耕畜連携・水 田輪作研究チーム	運営費交付金 (一般)
2) 自給飼料を基盤とした家畜生産システムの開発		
(1) 直播適性に優れた高生産性飼料用稲品種の育成		
1 温暖地西部向け稲発酵粗飼料用品種の育成と消化 性の改善された育種素材の開発	低コスト稲育種研究 近中四サブチーム	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般)
(2) 地域条件を活かした飼料用稲低コスト生産技術及び乳牛・ 肉用牛への給与技術の確立		
近畿・中国・四国地域における中小規模水田利用シス テムの開発		
1 直播技術を組み合わせた飼料用稲の飛躍的低コス ト生産技術の確立	中山間耕畜連携・水 田輪作研究チーム	運営費交付金 (一般) (機構交付金プロ) 農林水産省委託費 (一般)
2 高糖分飼料イネの栄養・生育特性の解明と安貞多 収・高栄養栽培方法の開発	中山間耕畜連携・水 田輪作研究チーム *岡山県農林水産総 合センター	運営費交付金 (一般) (機構交付金プロ)
3 温暖地における高糖分飼料イネの総合的害虫管理 技術の開発	中山間耕畜連携・水 田輪作研究チーム	運営費交付金 (一般) (機構交付金プロ)
4 工業的生産を可能にする高発芽率・低コスト鉄コー ティング法の開発	中山間耕畜連携・水 田輪作研究チーム	運営費交付金 (一般)
5 高糖分飼料イネの収穫・調整システム利用技術の 開発	中山間耕畜連携・水 田輪作研究チーム	運営費交付金 (一般) (機構交付金プロ)
6 耕畜連携による自給飼料生産・利用の資源循環シ ステムの策定と定着方策の解明	中山間耕畜連携・水 田輪作研究チーム	運営費交付金 (一般) (機構交付金プロ)

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
(3) 地域条件を活かした健全な家畜飼養のための放牧技術の開発		
中山間地域の遊休農林地等における放牧を活用した黒毛和種経産牛への粗飼料多給による高付加価値牛肉の生産技術		
1 近畿中国四国地方に多い中山間地域の小規模分散型土地条件下(耕・草・林地等多様な土地の複合的な放牧利用)における黒毛和種経産牛の肥育技術の開発	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム *岡山県農林水産総合センター *広島県立総合技術研究所 *山口県農林総合技術センター *徳島県立農林水産総合技術支援センター *(独)家畜改良センター	運営費交付金(一般) (所内支援制度) 農林水産省委託費(一般) (競争的資金) その他 (交付金特別研究費)
2 食品工業副産物等の地域飼料資源による、放牧肥育経産牛への栄養補給技術の開発	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	運営費交付金(一般) その他
3 放牧等の粗飼料多給により生産された牛肉の栄養・機能性成分の解明による差別化	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	運営費交付金(一般) (所内支援制度)
4 放牧肥育雌牛の採卵牛としての有効利用技術の開発と省力的な素牛生産技術の開発	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	運営費交付金(一般) (所内支援制度) 科研費
(4) 家畜生産性向上のための育種技術及び家畜増殖技術の開発		
1 ウシの初期妊娠に関与する遺伝子群の解析と妊娠診断技術の開発	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム(兼任(家畜育種増殖研究チーム))	運営費交付金(一般)
3) 高収益型園芸生産システムの開発		
(1) 中山間・傾斜地の立地条件を活用した施設園芸生産のための技術開発		
1 風力や太陽光エネルギーの効率的利用のための賦存量評価に基づくハイブリッド小風力発電エネルギー等の安定的利用技術の開発	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	運営費交付金(一般)
2 斜面風、湧水及び天水などの活用によるハウス内の暑熱緩和技術の開発	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム *広島県立総合技術研究所 *神奈川県農業技術センター *山口県農林総合技術センター	運営費交付金(一般) (機構交付金プロ) 農林水産省委託費(一般) (競争的資金)
3 冷水育苗技術を活用した栽培技術の開発	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム *徳島県立農林水産総合技術センター	運営費交付金(一般) (機構交付金プロ)
4 省エネルギーに対応した間欠式自動給水装置による低コスト・高収益を目指した灌水同時施肥法の開発	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	運営費交付金(一般) (機構交付金プロ)

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
5 生産施設の適性配置のための棚田の立地特性等に基づく自然災害リスク評価と対策技術の開発	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム * (株) ウエスコ岡山支社	運営費交付金(一般) (所内支援制度) (機構交付金プロ) 民間委託費
6 生産施設導入のための作業性を考慮した棚田の再整備技術の開発	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	運営費交付金(一般) (機構交付金プロ)
7 中山間・傾斜地の自然エネルギーを利用した小規模施設生産システムの構築	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム * 愛媛県農林水産研究所 * 山口県農林総合技術センター	運営費交付金(一般) (機構交付金プロ)
8 光・風資源等を利用した施設園芸における省力・快適作業システムの開発	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム * 愛媛県農林水産研究所	運営費交付金(一般) (機構交付金プロ) 農林水産省委託費(一般)
9 トマトの養液栽培のための計測・分析不要な肥料節減養水分管理技術の開発	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	運営費交付金(一般) (機構交付金プロ)
10 局所環境調節による園芸作物の高品質安定生産技術の開発	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	運営費交付金(一般) (所内支援制度) (機構交付金プロ)
(2) 次世代型マルドリ方式を基軸とするかんきつ等の省力・高品質安定生産技術の確立		
1 安定した高品質果実生産と秀品率向上のための樹体養水分精密自動管理システム(次世代型マルドリ方式)の開発	次世代カンキツ生産技術研究チーム * 山口県農林総合技術センター * 愛媛県農林水産研究所 * 広島県立総合技術研究所 * 香川県農業試験場	運営費交付金(一般) (所内支援制度) (機構交付金プロ)
2 次世代型マルドリ方式栽培施設を利用した新防除法による樹体の省力管理技術ならびに環境保全型管理技術の開発	次世代カンキツ生産技術研究チーム	運営費交付金(一般) (所内支援制度) (機構交付金プロ)
3 樹体養水分適正管理に基づく樹体の生育促進により未収益期間を短縮し、移植作業が不要な早期成園化技術の開発	次世代カンキツ生産技術研究チーム	運営費交付金(一般) (機構交付金プロ)
4 傾斜地果樹園において営農規模拡大を図るための園地改造や自動化等による省力・軽労、安全化技術の開発	次世代カンキツ生産技術研究チーム * 和歌山県果樹試験場	運営費交付金(一般) (機構交付金プロ)
5 次世代マルドリ導入及び園地保全のための傾斜地樹園地の用排水対策技術の開発	次世代カンキツ生産技術研究チーム * (株) エルガ	運営費交付金(一般) (機構交付金プロ)
6 産地ブランド確立のための産地構造改善計画手法の策定	次世代カンキツ生産技術研究チーム * 和歌山県農業試験場 * 愛媛県農業試験場	運営費交付金(一般) (機構交付金プロ)

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
(3) カバークロップ等を活用した省資材・環境保全型栽培管理技術の開発		
1 省力管理型草種のマルチ等の抑草資材を利用した畦畔法面への植栽・管理技術の開発	カバークロップ研究 近中四サブチーム * (財) 日本植物調 整剤研究協会	運営費交付金 (一般) 民間委託費
2 草種の生態的特性を活用した畦畔法面植生の省力管理技術の開発	カバークロップ研究 近中四サブチーム	運営費交付金 (一般)
(4) 誘導抵抗性等を活用した生物的病害抑制技術の開発		
1 植物に含まれる天然抗菌物質を利用した茎葉病害防除技術の開発	特命チーム員 (生物 的病害制御研究チ ーム)	運営費交付金 (一般) (機構交付金プロ)
2 バイオフィューミゲーション (生物的くん蒸) による土壌病害防除技術の開発	特命チーム員 (生物 的病害制御研究チ ーム) * (独) 農業環境技 術研究所 * 山形大学 * 兵庫県立農林水産 技術総合センター * 奈良県農業総合セ ンター * 鳥取県農林総合研 究所 * 山口県農林総合技 術センター * 徳島県立農林水産 総合技術支援セン ター	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般)
(5) 土着天敵等を活用した虫害抑制技術の開発		
1 雌化バクテリア等を活用した土着天敵増強技術の開発	特命チーム員 (総合 的害虫管理研究チ ーム) * (社) 日本植物防 疫協会	運営費交付金 (一般) (所内支援制度) 民間委託費 科研費
2 飛行能力を欠くナミテントウ系統を活用したアブラムシ類の生物的防除法の開発	特命チーム員 (総合 的害虫管理研究チ ーム) * 岡山大学 * (株) アグリ総研 * 兵庫県立農林水産 技術総合センター * 大阪府農林水産総 合研究所 * 奈良県農業総合セ ンター * 和歌山県農林水産 総合技術センター * 徳島県立農林水産 総合技術支援セン ター	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (競争的資金)

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
(6) 野菜栽培における土壌微生物、天敵の機能解明と難防除病害虫抑制技術の開発		
1 コナジラミ類媒介ベゴモウイルスの多試料検定、早期判定可能な診断技術の開発	レタスビッグベイン研究チーム(兼任(野菜IPM研究チーム))	運営費交付金(一般)
(7) 有機性資源の農地還元促進と窒素溶脱低減を中心とした農業生産活動規範の推進のための土壌管理技術の開発		
閉鎖系水域の水質保全をめざした環境負荷推定モデルの構築と負荷低減管理技術の開発		
1 閉鎖系水域における農業系、生活系、工業系に由来する環境負荷流出実態の解明と時系列モデルの開発	広域農業水系保全研究チーム	運営費交付金(一般)
2 農耕地における面源負荷の推定と負荷削減技術導入シナリオに基づく効率的な水質改善方策の策定	広域農業水系保全研究チーム *広島大学 *(独)産業技術総合研究所 *岡山県環境保健センター *香川県環境保健研究センター	運営費交付金(一般) 農林水産省委託費(競争的資金)
3 地形連鎖による自然浄化作用を組み込んだ畜産由来窒素流出モデルの開発と負荷低減策の提言	広域農業水系保全研究チーム	運営費交付金(一般) (所内支援制度)
4 有機質資材等を活用した窒素流出低減技術の開発	広域農業水系保全研究チーム *岩手県農業研究センター	運営費交付金(一般) 農林水産省委託費(一般) (競争的資金)
5 地理的条件にもとづいた地域特性の評価指標の策定	広域農業水系保全研究チーム	運営費交付金(一般)
(8) 草地飼料作における減肥・減農薬の環境対策技術の検証と新たな要素技術の開発		
1 窒素吸収量の多い植物の探索と窒素吸収機能の評価	広域農業水系保全研究チーム(兼任(飼料作環境研究チーム))	運営費交付金(一般)
(9) 中山間・傾斜地における環境調和型野菜花き生産技術の開発		
1 土着天敵を用いたバンカー法等による害虫防除技術の開発	環境保全型野菜研究チーム	運営費交付金(一般) 科研費
2 輪作の導入による作型多様化を利用した生産安定化技術の開発	環境保全型野菜研究チーム	運営費交付金(一般) 農林水産省委託費(一般)
3 高精度施用機構によるペレット有機物の局所施用技術の開発	環境保全型野菜研究チーム	運営費交付金(一般)
4 環境ストレス制御を利用した野菜の省力的栽培技術の開発	環境保全型野菜研究チーム *兵庫県立農林水産技術総合センター	運営費交付金(一般) (所内支援制度) 農林水産省委託費(一般)

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
5 気象条件と環境調節を活用した山菜等の低温要求性作物の軽労早出し技術の開発	環境保全型野菜研究チーム *愛媛県農林水産研究所	運営費交付金(一般) 農林水産省委託費(競争的資金)
6 高軒高傾斜ハウスの構造や簡易な誘引器具等を活用した果菜類生産の省力管理技術の開発	環境保全型野菜研究チーム	運営費交付金(一般)
7 機能性資材を利用した光環境制御による生長制御、害虫防除技術の開発	環境保全型野菜研究チーム	運営費交付金(一般) 農林水産省委託費(一般)
8 土壌微生物相多様化等を活用した土壌病害軽減技術の開発	環境保全型野菜研究チーム *東京農工大学 *農業環境技術研究所	運営費交付金(一般) 農林水産省委託費(一般) (競争的資金)
9 開花斉一化技術と小型収穫機開発によるキク等切り花の一斉収穫体系の確立	環境保全型野菜研究チーム *(独)理化学研究所 *奈良県農業総合センター	運営費交付金(一般) 農林水産省委託費(競争的資金) 生研センター委託費(競争的資金)
10 環境調和型生産技術の農家への導入条件の解明と導入効果の評価	環境保全型野菜研究チーム	運営費交付金(一般) (所内支援制度)
11 環境調和的手法を活用した野菜・花き病害軽減技術の開発	環境保全型野菜研究チーム	運営費交付金(一般) (所内支援制度)
4) 環境変動に対応した農業生産技術の開発		
(1) 気候温暖化等環境変動に対応した農業生産管理技術の開発		
暖地・温暖地における気候温暖化等環境変動に対応した農業生産管理技術の開発		
1 作物生理生態応答に基づく温暖化条件下の収量・品質予測手法の開発	暖地温暖化研究近中四サブチーム	運営費交付金(一般) (所内支援制度) 農林水産省委託費(一般) 科研費
2 イネ葉表面の微細水滴リモートモニタリング技術の検討	暖地温暖化研究近中四サブチーム	運営費交付金(一般)
(2) 高品質安定生産のための農業気象災害警戒システムの開発		
1 気象ロボットを用いた小麦赤かび病の早期警戒システムの開発	特命チーム員(農業気象災害研究チーム) *兵庫県立農林水産技術総合センター	運営費交付金(一般) 農林水産省委託費(一般) (競争的資金) 科研費

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
○ 次世代の農業を先導する革新的技術の研究開発		
5) 先端的知見を活用した農業生物の開発及びその利用技術の開発		
(1) イネゲノム解析に基づく収量形成生理の解明と育種素材の開発		
1 高温下での水稻の炭素・窒素動態と登熟障害米発生メカニズムの解明—近農研	稲収量性研究近中四サブチーム	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般)
2 温度条件が収量とソース・シンク能の関係に及ぼす影響の評価	稲収量性研究近中四サブチーム	運営費交付金 (一般) (重点事項)
3 イネ登熟過程における老化に関する生理機構及び遺伝子領域の解明	稲収量性研究近中四サブチーム	運営費交付金 (一般)
(2) イネゲノム解析に基づく品質形成生理の解明と育種素材の開発		
1 可消化タンパク質低減米等特別用途向き水稻育種素材の開発と品種育成	米品質研究近中四サブチーム	運営費交付金 (一般) (所内支援制度) 農林水産省委託費 (一般)
2 タンパク質変異米の特性及び品質形成機構の解明	米品質研究近中四サブチーム	運営費交付金 (一般) (所内支援制度) 農林水産省委託費 (一般)
3 米の用途拡大のための新規複合脂質の構造決定と大量抽出法の確立	米品質研究近中四サブチーム	運営費交付金 (一般)
(3) 稲病害虫抵抗性同質遺伝子系統群の選抜と有用 QTL 遺伝子集積のための選抜マーカーの開発		
1 DNA マーカーを利用したいもち病抵抗性と縞葉枯病抵抗性の同質遺伝子系統・集積系統の育成	低コスト稲育種研究近中四サブチーム (兼任(稲マーカー育種研究チーム))	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般)
6) IT活用による高度生産管理システムの開発		
(1) フィールドサーバの高機能化と農作物栽培管理支援技術の開発		
1 車載センサ・圃場設置センサによるハイブリッド栽培管理情報収集技術の開発	生産支援システム研究近中四サブチーム (兼任(フィールドモニタリング研究チーム))	運営費交付金 (一般)
2 現場情報収集及び技術情報活用のためのモバイル情報処理ソフトウェアの開発	生産支援システム研究近中四サブチーム (兼任(フィールドモニタリング研究チーム))	運営費交付金 (一般)
(2) 生産・流通 IT 化のための農業技術体系データベース及び意思決定支援システムの開発		
1 Web サービス連携による適正営農設計支援システムの開発	生産支援システム研究近中四サブチーム *東京大学	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般) その他

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
2 中山間地における農地管理支援システムの開発	生産支援システム研究 近中四サブチーム	運営費交付金 (一般) (機構交付金プロ) 農林水産省委託費 (競争的資金)
7) 自動化技術等を応用した軽労・省力・安全生産システムの開発 (1) 農作業の高精度化・自動化等による高度生産システムの 開発及び労働の質改善のための評価指標の策定		
1 傾斜地における収穫物自動搬送システムの開発	次世代カンキツ生産 技術研究チーム(兼 任(高度作業システ ム研究チーム))	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般)
8) 国産バイオマス燃料の大幅な生産拡大に向けたバイオマスの低 コスト・高効率エネルギー変換技術の開発 (1) バイオエタノール原料としての資源作物の多収品種の育 成と低コスト・多収栽培技術等の開発		
1 サトウキビの省力・低コスト栽培技術の開発	広域農業水系保全研 究チーム	運営費交付金 (一般) 農林水産省委託費 (一般)

●食の安全・消費者の信頼確保と健全な食生活の実現に資する研究

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
○ ニーズに対応した高品質な農産物・食品の研究開発		
9) 高品質な農産物・食品と品質評価技術の開発		
(1) 直播適性に優れ、実需者ニーズに対応した低コスト業務用水稲品種の育成		
1 耐倒伏性、病害複合抵抗性を付与した温暖地西部での低コスト栽培向き水稲品種の育成	低コスト稲育種研究 近中四サブチーム	運営費交付金 (一般)
(2) めん用小麦品種の育成と品質安定化技術の開発		
1 小麦粉粒度の制御因子の解明と低タンパク質含量小麦の製粉性の向上	めん用小麦研究近中 四サブチーム	運営費交付金 (一般)
2 温暖地西部向け高製粉性・早生めん用小麦品種の育成	めん用小麦研究近中 四サブチーム	運営費交付金 (一般)
3 小麦ふすまの高付加価値化技術の開発	めん用小麦研究近中 四サブチーム	農林水産省委託費 (一般) その他 (科学技術振興調整費)
3 小麦ふすまの高付加価値化技術の開発	めん用小麦研究近中 四サブチーム	運営費交付金 (一般) その他
(3) 実需者ニーズに対応したパン・中華めん用等小麦品種の育成と加工・利用技術の開発		
1 製パンに適した高分子量及び低分子量グルテニンサブユニットを持つ温暖地西部向け早熟小麦系統の開発	パン用小麦研究近中 四サブチーム	運営費交付金 (一般)
2 製パン・製麺性に係わる DNA マーカーの開発による高品質小麦品種選抜法の改善	パン用小麦研究近中 四サブチーム *横浜市立大学	運営費交付金 (一般)
3 モチ性を含む低アミロース性パンコムギの特性とその形成機構の解明	パン用小麦研究近中 四サブチーム	運営費交付金 (一般)
(4) 大麦・はだか麦の需要拡大のための用途別加工適性に優れた品種の育成と有用系統の開発		
1 早熟・安定多収で精麦白度に優れたはだか麦品種の育成	大麦・はだか麦研究 チーム	運営費交付金 (一般)
2 焼酎・味噌醸造用等の用途別はだか麦系統の開発	大麦・はだか麦研究 チーム	運営費交付金 (一般)
3 大麦・はだか麦等に含まれる健康機能性成分の特性解明	大麦・はだか麦研究 チーム	農林水産省委託費 (一般) 運営費交付金 (一般)
3 大麦・はだか麦等に含まれる健康機能性成分の特性解明	大麦・はだか麦研究 チーム	運営費交付金 (一般)
3 大麦・はだか麦等に含まれる健康機能性成分の特性解明	大麦・はだか麦研究 チーム	運営費交付金 (一般) (所内支援制度)

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
(5) 乳肉の美味しさ等の品質に影響を与える因子の解明と新たな評価法の開発 牛の肉質形成過程のプロテオーム解析 1 黒毛和種の骨格筋形成関連物質の網羅的解析	特命チーム員（食肉プロテオーム研究チーム）	運営費交付金（一般） （所内支援制度） 農林水産省委託費（一般）
10) 農産物・食品の機能性の解明と利用技術の開発 (1) 野菜・茶の免疫調節作用、生活習慣病予防作用を持つ機能性成分の評価法と利用技術の開発 1 脂肪細胞に着目した野菜の生活習慣病予防成分の解明	特命チーム員（野菜・茶機能性研究チーム）	運営費交付金（一般） （所内支援制度）
(2) かんきつ・りんご等果実の機能性成分の機能解明と高含有育種素材の開発 1 核内受容体を標的とするかんきつ等果実成分の肥満等生活習慣病予防作用の解明	特命チーム員（健康機能性研究チーム）	運営費交付金（一般） （所内支援制度）
○ 農産物・食品の安全確保のための研究開発		
11) 農産物・食品の信頼確保に資する技術の開発		
(1) 農産物や加工食品の簡易・迅速な品種識別・産地判別技術の開発		
1 小麦品種及び加工品の DNA マーカーによる判別技術の開発	品種識別・産地判別研究チーム *香川県農業試験場 *北海道立中央農業試験場 *大阪府環境農林水産総合研究所	運営費交付金（一般） 農林水産省委託費（一般）
2 DNA マーカーを用いた大麦・裸麦の品種及び加工用原料の判別技術の開発	品種識別・産地判別研究チーム *愛媛県農業試験場	運営費交付金（一般） 農林水産省委託費（一般）
3 レトロトランスポゾンを用いた加工製品における原料品種識別技術の開発	品種識別・産地判別研究チーム	運営費交付金（一般）

●美しい国土・豊かな環境と潤いのある国民生活の実現に資する研究

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
<p>○ 農村における地域資源の活用のための研究開発</p> <p>12) バイオマスの地域循環システムの構築</p> <p>(1) 温暖地における油糧作物を導入したバイオマス資源地域循環システムの構築</p> <p>近畿・中国・四国地域における中小規模水田利用システムの開発</p> <p>1 麦作跡ヒマワリ作における土壌・雑草管理技術開発</p> <p>2 搾油残さの飼料利用技術の開発</p>	<p>中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム</p> <p>中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム</p>	<p>運営費交付金(一般)</p> <p>運営費交付金(一般)</p>
<p>○ 豊かな環境の形成と多面的機能向上のための研究開発</p> <p>13) 豊かな環境の形成と多面的機能向上のための研究開発</p> <p>(1) 草地生態系の持つ多面的機能の解明</p> <p>1 西日本地域における半自然草地の生物多様性評価と管理</p> <p>(2) 野生鳥獣の行動等の解明による鳥獣害回避技術の開発</p> <p>1 自立的対策実施農家育成のための営農管理技術の開発</p> <p>2 獣害を受けにくい環境作りを含めた野生獣の農地侵入防止技術の開発</p> <p>3 忌避物質および忌避作物の検索と、それを用いた被害防止技術の開発</p> <p>(3) 農業・農村の持つやすらぎ機能や教育機能等の社会的解明</p> <p>1 農業体験学習による農産物理解・健全な食生活の促進方策の解明</p> <p>2 農作業体験等がもつ機能発揮のためのNPO法人の活用方策の提示</p>	<p>特命チーム員(草地多面的機能研究チーム)</p> <p>鳥獣害研究チーム</p> <p>鳥獣害研究チーム</p> <p>鳥獣害研究チーム</p> <p>農業・農村のやすらぎ機能研究チーム</p> <p>農業・農村のやすらぎ機能研究チーム</p>	<p>運営費交付金(一般)</p> <p>運営費交付金(一般) (所内支援制度) 農林水産省委託費(競争的資金)</p> <p>運営費交付金(一般) (所内支援制度)</p> <p>運営費交付金(一般)</p> <p>運営費交付金(一般)</p> <p>運営費交付金(一般)</p> <p>運営費交付金(一般)</p>

●研究活動を支える基盤的研究

研究課題名	実施チーム等 (*は委託先等)	予算区分
○ 遺伝資源の収集・保存・活用		
14) 遺伝資源の収集・保存・活用		
(1) 遺伝資源の収集・保存・活用		
作物遺伝資源の特性評価及び育種素材化		
1 稲遺伝資源の特性評価及び育種素材化－近農研	低コスト稲育種研究 近中四サブチーム 米品質研究近中四サ ブチーム	運営費交付金 (ジーンバンク)
2 麦類遺伝資源の特性評価及び育種素材化－近農研	めん用小麦研究近中 四サブチーム 大麦・はだか麦研究 チーム	運営費交付金 (ジーンバンク)
3 豆類遺伝資源の特性評価及び育種素材化－近農研	大豆育種研究近中四 サブチーム	運営費交付金 (ジーンバンク)
4 資源作物遺伝資源の特性評価及び育種素材化－近農研	中山間耕畜連携・水 田輪作研究チーム 研究支援センター業 務第1科	運営費交付金 (ジーンバンク)
野菜遺伝資源の特性評価及び育種素材化		
1 レタス遺伝資源の特性評価及び育種素材化	レタスビッグベイン 研究チーム	運営費交付金 (ジーンバンク)

IV 研究情報活動

1. 主な研究成果

研究成果情報名	提出研究チーム等
<p>【技術・普及】</p> <p>小麦ふすまの自己消化によるアンジオテンシン変換酵素阻害ペプチドの製造法</p> <p>簡易土壌水分計によるかん水時期判定技術</p> <p>資材管理や出荷管理機能などを強化した作業計画・管理支援システム「PMS」</p>	<p>めん用小麦研究近中四サブチーム</p> <p>暖地温暖化研究近中四サブチーム</p> <p>生産支援システム研究近中四サブチーム</p>
<p>【技術・参考】</p> <p>飼料イネ品種「クサノホシ」に由来する漏出イネの出芽率は秋耕で低下する</p> <p>良質で食味がすぐれる低アミロース水稻新品種候補系統「中国192号」</p> <p>茎葉多収で糖含量が高い稲発酵粗飼料用水稻新品種候補系統「中国飼198号」</p> <p>炊飯後に褐変しにくく、食味に優れる二条裸麦新品種「キラリモチ」</p> <p>イチゴの密植栽培に対応した吊り下げ式高設栽培用ベッド間調節装置</p> <p>シソ青枯病の二次伝染を防止する収穫機の刈刃殺菌のための効率的加熱手法</p> <p>農産物直売所において欠品を避けるための需要量の推測</p> <p>夏季の花壇苗生産における気化冷却を活用した培地昇温抑制による生育改善</p>	<p>稲収量性研究近中四サブチーム</p> <p>米品質研究近中四サブチーム</p> <p>低コスト稲育種研究近中四サブチーム</p> <p>大麦・はだか麦研究チーム</p> <p>中山間傾斜地域施設園芸研究チーム</p> <p>中山間傾斜地域施設園芸研究チーム</p> <p>地域営農・流通システム研究チーム</p> <p>中山間傾斜地域施設園芸研究チーム</p>
<p>【研究・普及】</p> <p>パンコムギ大粒澱粉のアミロペクチンには超長鎖の存在は認められない</p> <p>大麦 HIN b - 2 の欠失を判別する DNA マーカーで穀粒硬度が高い系統を選抜できる</p>	<p>パン用小麦研究近中四サブチーム</p> <p>大麦・はだか麦研究チーム</p>
<p>【研究・参考】</p> <p>シコクビエは湛水田で畑よりも安定して栽培できる</p> <p>フラバノン核内受容体 PPARγ を活性化し、脂肪細胞分化を促進する</p> <p>種子の鉄コーティング処理によるイネ育苗期病害の発病抑制</p> <p>ナミテントウ成虫の飛翔不能化による露地での定着率の向上</p> <p>サトウキビは窒素多施用条件で栽培しても硝酸態窒素が蓄積されにくい</p> <p>ハウレンソウのアスコルビン酸含量は収穫前日の日射量により変動する</p> <p>暑熱期における寒冷紗を用いたひ陰舎の防暑効果</p>	<p>中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム</p> <p>健康機能性研究チーム</p> <p>中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム</p> <p>総合的害虫管理研究チーム</p> <p>広域農業水系保全研究チーム</p> <p>環境保全型野菜研究チーム</p> <p>産学官連携推進センター</p>

研究成果情報名	提出研究チーム等
<p>【行政・普及】</p> <p>小規模移動放牧の指導普及向けマニュアル「よくわかる移動放牧 Q & A」</p>	<p>粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム</p>
<p>【行政・参考】</p> <p>過疎・高齢化地域におけるリーダーの存在構造の把握と特徴</p> <p>農業生産法人の広域連携による少量多品目野菜の集出荷ビジネスモデル</p> <p>小規模直売所の持続的運営のための効果的なネットワーク化</p> <p>マルドリ方式のカンキツ経営への普及段階における技術導入の成否要因</p>	<p>地域営農・流通システム研究チーム</p> <p>地域営農・流通システム研究チーム</p> <p>中山間傾斜地域施設園芸研究チーム</p> <p>地域営農・流通システム研究チーム</p>

【分類】

技術・普及：普及に移しうる成果

- ・ 農業者が営農に直接利用できる成果
- ・ 企業が製品化して農業生産現場に普及できる成果
- ・ 検査機関等で活用される成果

技術・参考：その他参考となる成果

- ・ 普及技術の核となる成果

研究・普及：普及に移しうる成果

- ・ 研究現場で広く利用される成果
- ・ 社会に直接貢献する科学的な成果

研究・参考：その他参考となる成果

- ・ 研究を進めるための基礎的な成果
- ・ 新しい基礎的知見を与える成果
- ・ 新たな研究素材開発の成果

行政・普及：普及に移しうる成果

- ・ 行政の施策・事業を通して農業、農村及び消費者に貢献する成果

行政・参考：その他参考となる成果

- ・ 行政施策の参考となる成果

2. 研究成果の発表

1) 原著論文

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
1	A fraction of unripe kiwi fruit extract regulates adipocyte differentiation and function in 3T3-L1 cells	Daigo Abe Takeshi Saito Yasutaka Kubo (岡山大学) Yoshimasa Nakamura (岡山大学) Keizo Sekiya	2010.01	Bio Factors	36(1), 52-59
2	黒毛和種繁殖雌牛における暑熱期の寒冷紗を用いた陰舎の防暑効果	安藤 哲	2009.11	日本畜産学会報	80(4), 451-456
3	Effects of rice flour properties on specific loaf volume of one-loaf bread made from rice flour with wheat vital gluten.	荒木悦子 池田達哉 芦田かなえ 高田兼則 谷中美貴子 飯田修一	2009.07	Food Science and Technology Research	15(4), 439-448
4	運動場への開放とγ-アミノ酪酸(GABA)投与による離乳子豚の飼育管理由来ストレス軽減効果—福祉性評価指標の検討—	中村幸造 (麻布大) 植竹勝治 (麻布大) 吉田善廣 (神奈川農技セ) 江口祐輔 田中智夫 (麻布大)	2009.04	Animal Behaviour and Management	45, 9-18
5	動物愛護センター搬入時における子イヌの気質評価—性格診断テスト評価値と尿中生理指標濃度との関連性—	藤岡智佳 (麻布大) 松澤淑美 (長野動物愛護セ) 遠山千紘 (麻布大) 植竹勝治 (麻布大) 江口祐輔 田中智夫 (麻布大)	2009.12	Animal Behaviour and Management	45, 145-152
6	Effects of social rank and familiarity on dust-bathing of domestic fowl	Tsuyoshi Shimmura (麻布大) Tomo Nakamura (麻布大) Toshihide Azuma (麻布大) Yusuke Eguch, Katsuji Uetake (麻布大) Toshio Tanaka (麻布大)	2010.01	Animal Welfare	19, 67-73
7	Identification of wheat cultivars using EST-SSR markers	Yumiko Fujita Hiroyuki Fukuoka Hiroshi Yano	2009.06	Breeding Science	59(2), 159-167
8	SSR マーカーを用いた国産小麦と輸入小麦銘柄の効率的判別法	藤田由美子 石川直幸 矢野 博	2009.06	DNA 多型	17, 110-113
9	新規畦畔におけるシバ (Zoysia japonica)の役割並びに二重ネット工法の紹介	伏見昭秀 長沼和夫 (ゾイシアンジャパン)	2009.12	九州の雑草	39, 27-32
10	Reproductive response of okra and native rosella to long-day treatment with red, blue, and green light-emitting diode lights	Hiroshi Hamamoto Keisuke Yamazaki	2009.08	HortScience	44(5), 1494-1497
11	まち直し設計のための棚田の簡易な地形データの取得方法と精度検証	細川雅敏 福本昌人 内田晴夫 吉村亜希子 松田 周	2010.03	近畿中国四国農業研究	16, 3-7
12	ショ糖、エタノール、クエン酸の施用がホウレンソウの生育および硝酸イオン含有率に及ぼす影響	池田順一 須賀有子 福永亜矢子 堀 兼明	2009.09	近畿中国四国農業研究	15, 29-32
13	Identification of new Pina null mutations among Asian common wheat cultivars	Tatsuya M. Ikeda Hua Cong (中国新疆農業科学院)	2010.01	Journal of Cereal Science	DOI:10.1016/j.jcs.2010.01
14	種子の鉄コーティング処理によるイネ育苗期病害の防除	井上博喜 山内 稔 宮川久義	2009.08	日本植物病理学会報	75(3), 164-169
15	水稻種子の鉄コーティング処理による種子伝染性病害防除効果	井上博喜	2009.11	植物防疫	63(11), 683-685
16	ヒマワリ作転換畑における排水対策	井上久義 花野義雄 成岡 市 (三重大学) 佐藤泰一郎 (高知大学)	2010.03	近畿中国四国農業研究センター資料	7, 1-20

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
17	Effects of high nitrogen application on the dry matter yield, nitrogen content and nitrate-N concentration of sugarcane.	Ishikawa, S Ando, S Sakaigaichi, T Terajima, Y Matsuoka, M	2009.08	Soil Science and Plant Nutrition	55, 485-495
18	Anthraco-nose of Christmas rose caused by Clletotrichum sp.	Kei Sugawara (山形県庄内総合支庁) Ayako Sugiyakata (山形大学) Youko Ito Tsuneo Namai (山形大学)	2009.04	J.Gen.Plant Pathol.	75, 163-166
19	Colletotrichum acutatum によるハダマノキ炭疽病 (病原追加) およびストック花枯炭疽病 (新称)	菅原 敬 (山形県庄内総合支庁) 杉館綾子 (山形大学) 伊藤陽子 生井恒雄 (山形大学)	2009.05	日本植物病理学会報	75(2), 119-122
20	農業・農村体験の取り組みにおけるNPO 法人の活用事例	加藤克明	2009.04	農村生活研究	52(2), 40-52
21	平成 20 年度問題別研究会及び試験研究推進会議の概要	菊地淳志	2009.09	日本応用動物昆虫学会中国支部会誌	51, 34-35
22	マルカメムシ成虫の栄養生長期における加害がダイズ生育に及ぼす影響	菊地淳志 小林秀治	2010.02	日本応用動物昆虫学会誌	54, 37-43
23	冬春セルリー栽培における傾斜地養液栽培システムの性能および根域加温の時間帯の効果	木下貴文 東出忠桐 藤野雅丈 伊吹俊彦 笠原賢明	2010.01	園芸学研究	9(1), 53-58
24	促成トマトの防根給水ひも栽培における肥効調節型肥料の適用	木下貴文 梶田正治 (岡山大) 渡辺修一 中野善公	2010.01	園芸学研究	9(1), 39-46
25	トマト防根給水ひも栽培における肥効調節型肥料と根域拡張に伴う「紐」の適用	梶田正治 (岡山大) 藤井由貴 (岡山大) 木下貴文	2010.02	岡山大学農学部学術報告	99, 43-47
26	新規育成品種と系統のカロテナノイドプロフィールについて	政本泰幸 (愛媛農水研) 國賀 武 三堂博昭 (愛媛農水研) 中嶋直子 松本 光 生駒吉識	2009.09	園芸学研究	8(別 2), 390
27	積雪寒冷地転換畑における 2008 寒候年の根雪前湛水による氷板が根雪終日後の表層土壌水分に及ぼす影響	松田 周 向 弘之 佐藤義和 (農林水産技術会議事務局)	2009.08	農業農村工学会論文集	262, 49-55
28	圃場面傾斜化と履帯転圧と明渠の組み合わせが根雪終日後の表土層の水分量と土壌硬度と地温に及ぼす影響	松田 周 向 弘之	2009.08	農業農村工学会論文集	262, 83-88
29	Superinfection of five Wolbachia in the alnus ambrosia beetle, Xylosandrus germanus (Blandford) (Coleoptera: Curculionidae)	Yuuki Kawasaki (名古屋大) Kazuki Miura Hisashi Kajimura (名古屋大)	2009.08	Bulletin of Entomological Research	100(2), 231-239
30	マルチプレックス PCR 法によるタバココナジラミバイオタイプの簡易識別法	三浦一芸	2009.10	農業と園芸	84, 1003-1010
31	Parental genetic traits in offspring from inter-specific crosses between introduced and indigenous Diadegma Foerster (Hymenoptera: Ichneumonidae) : possible effects on conservation genetics.	Andrew Pole Davies (USDA) Kenji Takashino (東北農研) Masaya Watanabe (広島大) Kazuki Miura	2009.12	Applied Entomology and Zoology	44, 535-541
32	Relationship between Quality Parameters and SKCS Hardness Index in Malting Barley	長嶺 敬 関和孝博 (栃木農試) 山口恵美子 (栃木農試) 大関美香 (栃木農試) 加藤常夫 (栃木農試)	2009.12	Journal of the Institute of Brewing	115(4), 292-295
33	地域食材大事典 オオムギー食材としての特徴ー	長嶺 敬 土井芳憲 (元 生研機構)	2010.02	農山漁村文化協会	*, 100-104
34	日本のオオムギ品種におけるうどんこ病抵抗性遺伝子座 Mla 及び Mlo の多型解析	長嶺 敬 池田達哉 柳澤貴司 高橋飛鳥 五月女敏範 (栃木農試)	2010.02	近畿中国四国農業研究センター研究報告	9, 15-26

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
35	シソ青枯病の二次伝染を防止する加熱装置に関する研究	長崎裕司 松崎健文 中元陽一 田中宏明	2010.03	農作業研究	45(1), 45-49
36	中山間棚田における建設足場資材利用園芸ハウスの施工技術の実証と改善方向	長崎裕司 川嶋浩樹 畔柳武司 田中宏明 中元陽一	2010.03	近畿中国四国農業研究センター研究資料	7, 31-41
37	Identification and characterization of gamma-glutamyltransferase knockout mutants in Arabidopsis.	Rafael Prieto (京都学園大) Yoshihiro Nakano Jiro Sekiya (京都学園大)	2009.05	Journal of Biological Macromolecules	9(2), 49-62
38	培地水分の気化促進処理が高温期における培地温度およびパンジー、シクラメンの生育に及ぼす影響	中野善公 前田茂一 (奈良農総セ) 後藤丹十郎 (岡山大院) 東出忠桐 木下貴文 吉川弘恭	2009.10	園芸学研究	8(4), 475-481
39	Angiotensin I Converting Enzyme Inhibitory Peptides Produced by Autolysis Reactions from Wheat Bran	Yoichi Nogata Takashi Nagamine Mikiko Yanaka Hideaki Ohta (中村学園大)	2009.07	Journal of Agricultural and Food Chemistry	57(15), 6618-6622
40	Effects of Temperature on the Digestible Protein Content of Grains during Ripening in a Seed-protein Mutant Rice Cultivar LGCsoft	Youichi Ohdaira Hiroyuki Takeda Ryouji Sasaki	2010.03	Plant Production Science	13(2), 132-140
41	オーストラリアにおける生産者主導型農業研究開発システムの変革—研究資金配分機関の統治構造に注目して—	大呂興平	2009.06	農業普及研究	14(1), 140-152
42	有機物マルチが畦畔法面のグラウンドカバープランツの生育および雑草発生に及ぼす影響	大谷一郎 渡辺 修 (信州大) 伏見昭秀	2009.09	雑草研究	54(3), 129-138
43	ウンシュウミカンへのマルドリ方式の導入結果と普及に向けた課題—和歌山県有田地域を対象として—	齋藤仁藏 熊本昌平 (和歌山県農林水産部) 島 義史 宇治泰博 (和歌山農総技セ農試)	2009.06	農業普及研究	14(1), 98-114
44	農業生産法人が野菜販売のために設立したLLPの実態と特徴—徳島県の3法人が広域連携によって設立したLLPを対象に—	齋藤仁藏	2009.09	農業経営研究	47(2), 101-105
45	露地用天敵に利用できる飛翔能力の低いナミテントウ系統の作出	世古智一	2009.05	植物防疫	63(5), 297-301
46	施設キュウリ栽培における遺伝的に飛ばないナミテントウのアブラムシ防除効果	世古智一	2009.09	日本応用動物昆虫学会中国支部会報	51, 1-6
47	Effects of artificial selection for reduced flight ability on survival rate and fecundity of Harmonia axyridis (Pallas) (Coleoptera: Coccinellidae)	Tomokazu Seko Kazuki Miura	2009.12	Applied Entomology and Zoology	44(4), 587-594
48	Bovine C-terminal octapeptide of RFamide-related peptide-3 suppresses luteinizing hormone (LH) secretion from the pituitary as well as pulsatile LH secretion in bovines	Hiroya Kadokawa (山口大) Masahiro Shibata Yoshinori Tanaka (山口大) Takatoshi Kojima Kazunori Matsumoto Kazunaga Oshima Naoyuki Yamamoto	2009.04	Domestic Animal Endocrinology	36, 219-224
49	Differential expression of the skeletal muscle proteome in grazed cattle	Masahiro Shibata Kazunori Matsumoto Mika Oe Mayumi Ohnishi-Kameyama Koichi Ojima Ikuyo Nakajima Susumu Muroya Koichi Chikuni	2009.08	Journal of Animal Science	87, 2700-2708

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
50	Effects of Grass-Fed and Grain-Fed on Carcass Composition and Meat Quality of Japanese Black Cattle	Masahiro Shibata Kazunori Matsumoto Mika Oe Koichi Ojima Ikuyo Nakajima Susumu Muroya Koichi Chikuni	2009.08	55nd International Congress of Meat Science and Technology	*, PE1.07
51	Dietary protein level changes the glutamate related enzymes mRNA expression in muscle	Hiroyuki Kobayashi (新潟大) Wataru Takano (新潟大) Masahiro Shibata Motoni Kadowaki (新潟大) Shinobu Fujimura (新潟大)	2009.10	The 3rd International Symposium, Sustainability in Food Production, Agriculture and the Environment in Asia	60,*
52	シートマルチ栽培を行う傾斜地カンキツ園における小規模排水路の生産者が施工可能な設置技術	島崎昌彦	2009.04	畑地農業	(605), 14-22
53	畑地農業の新技术・カンキツの新しい栽培技術「マルドリ方式」の技術と効果	島崎昌彦	2009.11	畑地農業	(612), 3-6
54	Differences in soil carbon storage due to mowing, burning, and uncontrolled management practices of a grassland at the foot of Mount Sanbe, Japan	Seiji Shimoda Yoshitaka Takahashi	2009.12	Grassland Science	55, 175-180
55	ハンディ GPS を利用したホルスタイン経産放牧牛の歩行時間からの採食行動時間の推定	篠田 満 須藤賢司 松村哲夫 梅村和弘	2009.04	日本草地学会誌	55(1), 34-39
56	PCR-DGGE 法による土壌微生物群集構造解析のジャーガルにおける適応性	宮丸直子 (沖縄農研センター) 須賀有子 儀間 靖 (沖縄農研センター)	2010.03	沖縄県農業研究センター研究報告	4, 1-5
57	Genetic analysis of variation in sugar chain composition at the C-22 position of group A saponins in soybean, Glycine max (L.) Merrill	Yoshitake Takada Takashi Sayama Akio Kikuchi Shin Kato Nana Tatsuzaki (岩手大院農) Yumi Nakamoto Ayako Suzuki Chigen Tsukamoto (岩手大院農) Masao Ishimoto	2010.03	Breeding Science	60, 3-8
58	A barley Hordoindoline mutation resulted in an increase in grain hardness	Asuka Takahashi Tatsuya M. Ikeda Toshiyuki Takayama (栃木農試) Takashi Yanagisawa	2009.10	Theoretical and Applied Genetics	Doi:10.1007/s00122-009-1172-5
59	Dissolved nitrogen removal in the ponded streams of an alluvial, suburban basin with a developing city, western Japan	Yuta Shimizu (広島大) Shin-ichi Onodera (広島大) Mitsuyo Saito (愛媛大) Yasuyuki Hirayama (広島大) Hidehiro Takahashi	2009.09	IAHS Publ.	330:143-149
60	放牧管理に伴う三瓶山ムラサキセンブリ (Swertia pseudochinensis) 自生地の植生の変化	高橋佳孝 井上雅仁 (三瓶自然館) 兼子伸吾 (京大) 堤 道生 内藤和明 (兵庫県立大) 小林英和 井出保行	2009.04	日本草地学会誌	55(1), 29-33
61	多様な担い手による阿蘇草原の維持・再生の取り組み	高橋佳孝	2009.09	景観生態学	14(1), 5-14
62	半自然草原の保全と再生に向けた新しい取り組み	井上雅仁 (三瓶自然館) 高橋佳孝	2009.09	景観生態学	14(1), 1-4
63	レッドデータブックに掲載された植物種による山陰 2 県の草原環境評価の試み	高橋佳孝 井上雅仁 (三瓶自然館) 堤 道生 白川勝信 (芸北高原の自然館) 太田陽子 (緑と水の連絡会議) 渡邊園子 (広島大) 兼子伸吾 (京大) 佐久間智子 (中外テクノス)	2009.10	日本草地学会誌	55(3), 246-250
64	管理放棄により樹林化した草原跡地における管理再開が草原生植物の再生に及ぼす影響	井上雅仁 (三瓶自然館) 高橋佳孝	2010.03	ランドスケープ研究	73(5), 759-762

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
65	ムラサキセンブリ (Swertia pseudochinensis) 個体群保全への休牧処理の効果	高橋佳孝 井上雅仁 (三瓶自然館) 堤 道生 小林秀和 内藤和明 (兵庫県立大)	2010.03	島根県立三瓶自然館研究報告	8, 1-5
66	傾斜地ウンシュウミカン成木園での樹別隔年交互結実栽培の収量性と作業効率	瀧下文孝 内田 誠 (退職) 平岡潔志	2010.02	近畿中国四国農業研究センター報告	9, 27-35
67	樹別隔年交互結実栽培を行ったウンシュウミカン成木における光合成・蒸散速度と葉色の推移	瀧下文孝 内田 誠 (退職) 平岡潔志	2010.02	近畿中国四国農業研究センター報告	9, 99-107
68	中国 5 県の RDB を用いた絶滅危惧植物における生育環境の重要性評価の試み	兼子伸吾 (京都大) 太田陽子 (NPO 法人緑と水の連絡会議) 白川勝信 (芸北高原の自然館) 井上雅仁 (三瓶自然館) 堤 道生 渡邊園子 (広島大) 佐久間智子 (西中国山地自然史研究会) 高橋佳孝	2009.05	保全生態学研究	14(1), 119-123
69	優占種の異なる耕作放棄地および野草地における野草の飼料価値	堤 道生 高橋佳孝 西口靖彦 惠本茂樹 (山口農総技セ) 伊藤直弥 (山口農総技セ) 佐原重行 (広島総技研畜技セ) 吉村知子 (広島総技研畜技セ) 渡邊貴之 (家畜改良センター十勝牧場)	2009.10	日本草地学会誌	55(3), 243-246
70	耕作放棄された棚田の再利用	内田晴夫 細川雅敏 井上久義	2009.09	近畿中国四国農業研究	15, 3-7
71	Compilation method for 1km grid data of monthly mean air temperature for quantitative assessments of climate change impacts	Hideki Ueyama Sachiho Adachi (筑波大) Fujio Kimura (筑波大)	2009.11	Theoretical and Applied Climatology	DOI 10.1007/s00704-009-0228-4
72	農山村における人材の存在構造に関する分析—福島県内のある集落の事例—	渡部博明	2009.12	2009 年度日本農業経済学会論文集	*, 166-173
73	黒毛和種雌牛における乳タンパク質ムチン遺伝子の VNTR 領域構造とその子牛の哺乳初期発育への影響	山本直幸 小島孝敏 大島一修 落合寿成	2009.06	肉用牛研究会報	87, 29-36
74	Relationships of stress responses with plasma oxytocin and prolactin in heifer calves.	Ken-ichi Yayoua (生物研) Shuichi Ito (東海大) Naoyuki Yamamoto Sayuki Kitagawad (宇都宮大) Hiroaki Okamura (生物研)	2009.12	Physiology & Behavior	99, 362-369
75	Shortening of non-harvest period in high bench strawberry forcing culture by a simple control method of medium temperature	Keisuke Yamazaki Hiroshi Kumakura Hiroshi hamamoto	2009.08	Acta Horticulturae	842, 733-736
76	Effect of high temperature on fruit quality of pot-grown strawberry plants	Takashi Ikeda (明治大) Keisuke Yamazaki Hiroshi Kumakura Hiroshi Hamamoto	2009.08	Acta Horticulturae	842, 679-682
77	終夜照明した緑色光または黄色光が数品種のイチゴの出蕾と成長に及ぼす影響	山崎敬亮 熊倉裕史 山田 真 (パナソニック電工) 石渡正紀 (パナソニック電工) 浜本 浩	2009.09	農業気象	65(3), 261-272

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
78	大粒で主要病害に強い日本初の実用二条裸麦品種「ユメサキボシ」の育成	柳澤貴司 長嶺 敬 高橋飛鳥 高山敏之 (栃木県) 土井芳憲 松中 仁 藤田雅也 杉浦 誠 土門英司 (生物研) 伊藤昌光 (退職) 石川直幸	2010.02	近畿中国四国農業研究センター報告	9, 1-13
79	Chain-length distribution profiles of amylopectin isolated from endosperm starch of waxy and low-amylose bread wheat (<i>Triticum aestivum</i> L.) lines with common genetic background	Takeshi Yasui Kanae Ashida Tomoko Sasaki	2009.11	Starch/Stärke	61, 677-686
80	農産物直売所における需給ミスマッチに関する一考察	吉田晋一	2009.06	農林業問題研究	45(1), 86-91
81	GIS マップ表示コンポーネントを利用した圃場地図作成ソフト	吉田智一 高橋英博	2009.04	農業情報研究	18(1), 41-51
82	圃場地図ベース作業計画管理ソフトの開発	吉田智一 高橋英博 寺元郁博	2009.12	農業情報研究	18(4), 187-198
83	ソーラーポンプを利用した拍動自動灌水装置の組み立て方法	吉川弘恭 中尾誠司	2010.02	近畿中国四国農業研究センター研究資料	7, 21-31
84	陸域から海域への汚濁負荷の影響	鷹野 洋 (岡山環保セ) 笹田康子 (香川環保研セ) 吉川省子 高橋英博 高橋 暁 (産総研中国セ) 三島康史 (産総研中国セ) 湯浅一郎 (産総研中国セ) 小野寺真一 (広島大院)	2009.09	岡山県環境保健センター年報	33, 43-48

2) 学会発表等

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
1	裸麦種子に含まれるトコトリエノールの品種・系統間差	阿部大吾 齋藤 武 高橋飛鳥 長嶺 敬 関谷敬三 柳澤貴司	2009.09	日本食品科学工学会第 56 回 大会講演集	*, 116
2	景観植物ルドベキアの混作による露地栽培ナスの害虫防除	安部順一郎 飛川光治 (岡山農試) 永井一哉 (岡山農試)	2009.07	農林害虫防除研究会京都大会 講演要旨集	**,
3	シヨクガタマバエを利用したバンカー法に最適なバンカー植物と代替餌の組み合わせの検討	安部順一郎 熊倉裕史	2009.09	関西病虫害研究会報	51, 127
4	沖縄県にはハダニ捕食性の Feltiella 属タマバエが少なくとも 2 種いる	喜久村智子 (沖縄農研セ) 安部順一郎 大野 豪 (沖縄農研セ) 宮城聡子 (沖縄農研セ) 徳田 誠 (九州大) 上地奈美 湯川淳一 (九州大)	2009.09	日本昆虫学会第 69 回大会	*, 18
5	Development of the use of the banker system to control aphids in protected culture in Japan	Eizi Yano (近畿大) Shoko Nakagawa (近畿大) Masafumi Yamane (近畿大) Junichiro Abe	2009.09	IOBC/wprs Bulletin	49, 259-262
6	シヨクガタマバエを利用したバンカー法のための代替餌、バンカー植物の検討と効果の検証	安部順一郎 熊倉裕史	2009.11	第 19 回天敵利用研究会講演 要旨集	*, 7
7	沖縄の害虫ハダニとその天敵の種構成の特性	大野 豪 (沖縄農研セ) 宮城聡子 (沖縄農研セ) 喜久村智子 (沖縄農研セ) 榎本雅身 (横浜植防) 安部順一郎 後藤哲雄 (茨城大) 北嶋康樹 (茨城大) 貴島圭介 (沖縄農研セ) 大石 毅 (沖縄農研セ) 岡島秀治 (東京農大) 湯川淳一 (九州大)	2009.11	第 19 回天敵利用研究会講演 要旨集	*, 17
8	シヨクガタマバエを利用したバンカー法の開発	安部順一郎 熊倉裕史	2010.03	第 54 回日本応用動物昆虫学 会大会小集会	*
9	各種醸造副産物の添加がイタリアンライグラスの in vitro 分解率に及ぼす影響	安藤 貞 一戸俊義 (島根大) 粟野貴子 (島根大) 家藤治幸 (酒総研) 高橋潤一 (帯広畜産大)	2009.09	第 111 回日本畜産学会大会	*, 11
10	醸造副産物が第一胃微生物の増殖に及ぼす影響	安藤 貞 一戸俊義 (島根大) 粟野貴子 (島根大) 家藤治幸 (酒総研) 高橋潤一 (帯広畜産大)	2009.09	平成 21 年日本醸造学会	*, 16
11	The effects of peppermint addition on the in vitro hydrogenation of fatty acids of hay.	Sada Ando Tadashi Yasutake Toshiyosi Ichinohe (島根大) Takako Awano (島根大)	2009.09	11th International Symposi- um of Ruminant Physiology	*, 16
12	ハーブ給与が乳生産に及ぼす影響	安藤 貞 石田元彦 (石川県立大) 西田武弘 (帯広畜産大)	2010.03	第 112 回日本畜産学会	*, 43
13	「精粉」粒子の表面観察とコンニャクデンプンの精製について	大野婦美子 (くらしき作陽大) 笠井八重子 (岡山大) 荒木悦子 山際あゆみ (岡山大) 釘宮正往 (くらしき作陽大)	2009.08	日本調理科学会平成 21 年度 大会研究発表要旨集	*, 91
14	低グルテリン米を用いたグルテン添加米粉パン生地のアルコール可溶性たんぱく質の解析	荒木悦子 池田達哉 飯田修一	2009.09	日本食品科学工学会第 56 回 大会講演集	*, 115
15	西日本向き多収名品種クサノホシおよびホシアオバのグルテン添加米粉パン適性の検討	荒木悦子 松下 景 飯田修一	2009.09	日本育種学会第 116 回講演 会要旨集	11(別 2), 137

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
16	米粉用製粉機における乳白様変異米の製粉特性と製パン性	芦田かなえ 荒木悦子 飯田修一	2009.09	日本食品科学工学会第56回大会講演集	*, 84
17	イネ粉質突然変異米の製粉特性と製パン性の解析	芦田かなえ 飯田修一 荒木悦子 安井 健	2009.09	育種学研究	11(別2), 136
18	イノシシにおける野菜と野草に対する選択試験	江口祐輔 鷺見さゆみ (麻布大) 上田弘則 井上雅央 植竹勝治 (麻布大) 田中智夫 (麻布大)	2009.09	日本畜産学会第111回大会講演要旨集	*, 65
19	生物由来・非生物由来の音に対するハクビシンの反応	堂山宗一郎 (麻布大) 江口祐輔 古谷益朗 (埼玉農総研) 植竹勝治 (麻布大) 田中智夫 (麻布大)	2009.09	日本畜産学会第111回大会講演要旨集	*, 184
20	イノシシにおける餌の視覚的遮断が摂食行動に及ぼす影響	岡野篤子 (麻布大) 江口祐輔 上田弘則 井上雅央 植竹勝治 (麻布大) 田中智夫 (麻布大)	2009.09	日本畜産学会第111回大会講演要旨集	*, 186
21	ハクビシにおける侵入可能な入り口の大きさおよび形状の検討—視覚的要因の影響	加瀬ひろ (麻布大) 江口祐輔 古谷益朗 (埼玉農総研) 植竹勝治 (麻布大) 田中智夫 (麻布大)	2009.09	日本哺乳類学会 in 台湾講演要旨	*, 77
22	イノシシにおける甘味と苦味に対する選択試験	江口祐輔 鷺見さゆみ (麻布大) 上田弘則 井上雅央 植竹勝治 (麻布大) 田中智夫 (麻布大)	2009.09	日本哺乳類学会 in 台湾講演要旨	*, 127
23	ハクビシは周年繁殖が可能か	豊田英人 (麻布大) 江口祐輔 古谷益朗 (埼玉農総研) 植竹勝治 (麻布大) 田中智夫 (麻布大)	2009.09	日本哺乳類学会 in 台湾講演要旨	*, 150
24	Sizes and shapes of gaps large enough for masked palm civets (<i>Paguma larvata</i>) to enter	加瀬ひろ (麻布大) 江口祐輔 古谷益朗 (埼玉農総研) 植竹勝治 (麻布大) 田中智夫 (麻布大)	2009.09	The 43th International Congress of the International Society for Applied Ethology, Dubrin, Ireland. August 2008.	*, 171
25	Changes in captive red river hog (<i>Potamochoerus porcus</i>) peripartum mother and infant behaviour for one month after farrowing	小山奈穂 (麻布大) 江口祐輔 植竹勝治 (麻布大) 田中智夫 (麻布大)	2009.09	The 43th International Congress of the International Society for Applied Ethology, Dubrin, Ireland. August 2008.	*, 176
26	ハクビシにおける侵入可能な入口の大きさおよび形状の検討—長方形の入り口について	加瀬ひろ (麻布大) 江口祐輔 古谷益朗 (埼玉農総研) 植竹勝治 (麻布大) 田中智夫 (麻布大)	2010.03	Animal behaviour and management	46, 26
27	イノシシの餌に対する欲求行動に及ぼす視覚的遮断の影響	岡野篤子 (麻布大) 江口祐輔 植竹勝治 (麻布大) 田中智夫 (麻布大)	2010.03	Animal behaviour and management	46, 27
28	設置ミスをした防除柵への侵入経験が修復後の柵に対するイノシシの行動に及ぼす影響	堂山宗一郎 (麻布大) 江口祐輔 上田弘則 井上雅央 植竹勝治 (麻布大) 田中智夫 (麻布大)	2010.03	Animal behaviour and management	46, 28
29	鳥取県東部地域における現地試験を通じて得た乾田直播栽培の要点と課題	藤本 寛	2009.07	日本作物学会中国支部研究集録	50, 9-10
30	小麦品種判別のための菓子類からの簡便迅速な DNA 抽出法	村上恭子 (香川農試) 本田雄一 (香川農試) 十鳥秀樹 (香川農試) 藤田由美子	2009.11	日本 DNA 多型学会第18回学術集会抄録集	*, 8

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
31	小麦加工食品における DNA 鑑定技術の開発の現状	藤田由美子 村上恭子 (香川農試) 本田雄一 (香川農試)	2009.12	DNA 鑑定学会	*, 8
32	市販キットを用いた小麦使用菓子類からの簡便迅速な DNA 抽出法	村上恭子 (香川農試) 本田雄一 (香川農試) 十鳥秀樹 (香川農試) 藤田由美子	2010.03	育種学研究	12(別 1), 324
33	Effect of Zoysia japonica growth on the plant community structure in levee vegetation	Akihide Fushimi Ichiro Otani	2009.04	雑草研究	54(別), 139
34	群落内補光のタイミングと照射時間が3段取りトマトの収量に及ぼす影響	浜本 浩 星 岳彦 (東海大) 尾島一史 山崎敬亮	2009.09	日本生物環境工学会 2009 年福岡大会講演要旨	*, 298-299
35	半年および2年展張した紫外線-可視光光質変換資材と新品資材の被覆下での葉菜類の生育	浜本 浩 山崎敬亮	2009.09	園芸学研究 (園芸学会平成21年度秋季大会)	8(別 2), 476
36	Supplemental lighting inside the plant canopy increased the yield and quality of three-truss-ordered tomato	Hiroshi Hamamoto Keisuke Yamazaki	2009.11	Scientific program of 6th international symposium on light in horticulture	*, 106
37	オクラとアカバナワタの花成に対する青、赤色 LED による長日処理の影響-およびシロイヌナズナとの反応の比較-	浜本 浩 山崎敬亮	2010.03	日本農業気象学会 2010 年全国大会講演要旨	*, 112
38	紫外線-赤色光変換フィルムや紫外線カットフィルムにおけるアブラムシ類抑制効果の経年変化	浜本 浩 安部順一朗 山崎敬亮	2010.03	日本農業気象学会 2010 年全国大会講演要旨	*, 113
39	日本水稲品種群を使ったアソシエーション解析- Semidwarf1 の DNA 多型と稈長関連形質	吉岡拓磨 (神戸大) 出田 収 浅野賢治 (名古屋大) 松岡 信 (名古屋大) 岩田洋佳 江花薫子 (生物研) 山崎将紀 (神戸大)	2009.09	育種学研究	11(別 2), 88
40	日本水稲品種群を使った出穂期のゲノムワイドアソシエーション解析	山崎将紀 (神戸大) 出田 収 吉岡拓磨 (神戸大) 岩田洋佳 長崎英樹 (生物研) 江花薫子 (生物研)	2009.09	育種学研究	11(別 2), 89
41	Association study in Japanese rice population	Masanori Yamasaki (神戸大) Osamu Ideta Takuma Yoshioka (神戸大) Kenji Asano (名古屋大) Makoto Matsuoka (名古屋大) Kiyosumi Hori (生物研) Hideki Nagasaki (生物研) Hiroyoshi Iwata Kaworu Ebana (生物研)	2009.11	6th International Rice Genetics Symposium Abstracts	*, 216-217
42	アジア地域のコムギ在来品種に見出された新規な種子硬質遺伝子型の特徴とその分布	池田達哉 叢花 (新疆農科院) 高田兼則 鈴木孝子 (道立農試)	2009.07	第一回中国地域育種談話会講演要旨集	*, 5-6
43	Characterization of new Glu-3 alleles in bread wheat	Tatsuya M. Ikeda Gérard Branlard (INRA, France) Roberto J. Peña (CIMMYT, Mexico) Kakata Takata Li Liu (CAAS, China) Zhonghu He (CAAS, China) Silvia E. Lerner (UNICEN, Argentina) Maria A. Kolman (UNICEN, Argentina) Hisashi Yoshida (退職) William J. Roger (CONICET, Argentina)	2009.09	Xth International Gluten Workshop, Book of abstracts	*, 135
44	アジア地域のコムギ在来品種に見出された新規な種子硬質遺伝子型の特徴とその分布	池田達哉 叢花 (新疆農科院) 高田兼則 鈴木孝子 (道立農試)	2009.09	育種学研究	11(別 2), 181
45	鉄コーティング種子による育苗期のイネいもち病および直播栽培時のイネばか苗病に対する防除効果	井上博喜 竹原利明 宮川久義	2009.08	日本植物病理学会会報	75(3), 216

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
46	ヒューマンエラーの複合としてみた鳥獣害対策の新展開	井上雅央	2009.11	農研機構シンポジウム ヒューマンエラーが引き起こす鳥獣害の実態と被害防止対策の新たな展開」講演要旨	*, 1-10
47	RT-PCR 法によるランタンキュラスのウイルス診断	村上恭子 (香川農試) 石川浩一	2009.09	園芸学研究 (園芸学会平成21年度秋季大会)	8(別2), 317
48	日本の温暖地・暖地におけるコムギ育種の近年の成果と今後の課題	石川直幸	2009.07	近畿作物・育種研究会第167回講演会 (京都大学)	*
49	Can we justify sugarcane production without mulching? - A challenge in Kagoshima-	Ishikawa, S Ueno, K Fujita, E Ando, S Terajima, Y Matsuoka, M	2009.05	ISSCT Agronomy Workshop (Uberlandia, Brazil)	*, 65
50	AD 可溶窒素簡易測定の有機質資材中窒素無機化量評価への適応	小橋有里 (新潟畜研) 小柳 涉 (新潟畜研) 平柳恵子 (新潟畜研) 石岡 巖 棚橋寿彦 (岐阜農技)	2009.09	日本土壌肥料学会 2009 年京都大会講演要旨集	55, 146
51	家畜ふん堆肥の窒素肥効の遅速に基づく評価法 第9報 窒素肥効評価法の地温考慮による高精度化	棚橋寿彦 (岐阜農技) 小柳 涉 (新潟畜研) 村上圭一 (三重農研) 石岡 巖 加藤直人	2009.09	日本土壌肥料学会 2009 年京都大会講演要旨集	55, 146
52	家畜ふん堆肥の窒素肥効の遅速に基づく評価法 第10報 施用当季に対応する家畜ふん堆肥の窒素肥効評価法 (完成版)	小柳 涉 (新潟畜研) 棚橋寿彦 (岐阜農技) 村上圭一 (三重農研) 石岡 巖 加藤直人	2009.09	日本土壌肥料学会 2009 年京都大会講演要旨集	55, 147
53	家畜ふん堆肥の窒素肥効の遅速に基づく評価法 第11報 新しい窒素肥効評価法に基づくキャベツ栽培実証	平柳恵子 (新潟畜研) 小柳 涉 (新潟畜研) 棚橋寿彦 (岐阜農技) 村上圭一 (三重農研) 石岡 巖 加藤直人	2009.09	日本土壌肥料学会 2009 年京都大会講演要旨集	55, 147
54	家畜ふん堆肥の窒素肥効の遅速に基づく評価法 第12報 新しい窒素肥効評価法に基づく水稻栽培実証	村上圭一 (三重農研) 小柳 涉 (新潟畜研) 平柳恵子 (新潟畜研) 棚橋寿彦 (岐阜農技) 石岡 巖 加藤直人	2009.09	日本土壌肥料学会 2009 年京都大会講演要旨集	55, 147
55	家畜ふん堆肥の窒素肥効の遅速に基づく評価法 第13報 普及現場に対応した家畜ふん堆肥施用支援ツール	石岡 巖 村上圭一 (三重農研) 加藤直人 棚橋寿彦 (岐阜農技) 小柳涉 (新潟畜研) 平柳恵子 (新潟畜研) 柴田正貴 (畜環機構)	2009.09	日本土壌肥料学会 2009 年京都大会講演要旨集	55, 155
56	小区画水田作業時における農作業者の確認行動に関する調査研究	亀井雅浩 奥野林太郎 窪田 潤 高橋仁康	2009.08	農業機械学会関西支部第122回例会	**, *
57	農業生態系と害虫管理	河合 章	2009.11	第54回四国植物防疫協議会大会 (四国植物防疫研究)	**, *
58	Simple Method for Rice Sugar Compound Detection and Its Application to Immature Seed Endosperm	Shin-ichiro Kawase Youichi Ohdaira	2010.03	日本作物学会紀事	79(別1), 370-371
59	暖房コストの地域性と対応した省エネルギー技術	川嶋浩樹	2009.09	園芸学研究 (園芸学会平成21年度秋季大会)	8(別2), 50-51
60	カメムシ種によるダイズの青立ち被害発生の違い—その1—	菊地淳志	2010.03	第54回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集	*, 39
61	「防根給水ひも」による夏秋期のトマト8段栽培において培地の種類が果実生産に及ぼす影響	木下貴文 榊田正治 (岡山大) 中野善公	2009.09	園芸学研究 (園芸学会平成21年度秋季大会)	8(別2), 479
62	促成トマトの防根給水ひも栽培における培地の物理性および培地溶液無機成分と収量との関係	木下貴文 中野善公 榊田正治 (岡山大)	2010.03	園芸学研究 (園芸学会平成22年度春季大会)	9(別1), 39-46
63	イネ科牧草ローズグラス塩類腺の様々な陽イオンに対する排出能力	小林英和 正岡淑邦 (広島大)	2009.09	日本土壌肥料学会講演要旨集	55, 74

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
64	ジャスモン酸メチル処理がローズグラスの表面構造に及ぼす影響	小林英和 谷中美貴子 池田達哉	2010.03	日本作物学会紀事	79(別2), 334-335
65	組換えウシインターフェロン・タウの子宮内投与が末梢白血球のMx遺伝子発現に及ぼす影響	小島孝敏 木村康二 松山秀一 大島一修 山本直幸	2009.09	第16回日本胚移植研究会大会(講演要旨集)	*, 48
66	中耕ロータリを用いた水稲跡不耕起大麦播種技術—播種量変動要因の推測—	窪田 潤 亀井雅浩 奥野林太郎 高橋仁康	2009.04	農作業研究平成21年度春季大会号	44(別1), 85-86
67	UV-C radiation affects accumulation of scoparone in Citrus	Takeshi Kuniga Hirohisa Nesumi	2009.11	6th International Symposium on Light in Horticulture, Scientific Program	*, 111
68	結露計は穂の濡れ時間の目安になるか?	黒瀬義孝	2009.09	第10回赤かび病研究会	*, 31-32
69	接種試験における赤かび病感染後の濡れ時間とかび毒蓄積との関係	黒瀬義孝	2009.09	農業環境工学関連学会2009年合同大会	**, *
70	生産者からの意見を取り入れた簡易土壌水分計の改良	黒瀬義孝	2009.12	平成21年度農業気象学会中国・四国支部大会講演要旨集(中国・四国の農業気象)	22, 24-25
71	ポーラスカップの空気侵入特性を利用した土壌水分計および蒸発計の開発	黒瀬義孝	2010.03	日本農業気象学会2010年全国大会講演要旨	*, 46
72	Development of CFD Model of a Greenhouse with Water-Sprinkling Roof	Takeshi Kuroyanagi Miyako Iyonaga (東大先端研) Kayano Sunada (東大先端研) Nobuo Ohnishi (東大先端研) Kazuhito Hashimoto (東大先端研)	2009.06	GreenSys2009 Scientific program	**, *
73	CFD解析による低棟ハウスの形状検討	畔柳武司 越智資泰 (広島総技研農技セ) 今井俊治 (全農)	2009.09	農業環境工学関連学会2009年合同大会講演要旨集	CD-R, ROM-BUNNO.D42
74	水耕栽培の施設全面ベッドにおける片屋根型低棟ハウスでのネギの夏季の生育	越智資泰 (広島総技研農技セ) 畔柳武司 長崎裕司 今井俊治 (全農)	2009.09	園芸学研究(園芸学会平成21年度秋季大会)	8(別2), 213
75	作物群落の配置が循環扇の空気攪拌範囲に及ぼす影響	畔柳武司	2010.03	園芸学研究(園芸学会平成22年度春季大会)	9(別1), 145
76	根雪前湛水による氷板の無積雪時氷厚変動モデル	松田 周 向 弘之	2009.08	平成21年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集 CD-ROM	**, *
77	各研究機関の新飼育牛肉のプロの料理人によるテイasting会	松本和典 柴田昌宏	2009.10	第2回新飼育牛肉研究会テイasting会	**, *
78	放牧で仕上げた黒毛和種経産牛肉と輸入牛肉の食味性	松本和典 柴田昌宏 小林英和 高橋佳孝	2010.03	第112回日本畜産学会	112, 34
79	高糖分飼料イネ「中国飼198」・「FN-1」の糖含量及びサイレージ発酵産物	塚崎由子 (広島県) 河野幸雄 (広島県) 高桑将滋 (広島県) 岸本一郎 (広島県) 神田則昭 (広島県) 新出昭吾 (広島県) 松下 景 藤本 寛 亀井雅浩	2009.08	関西畜産学会報	165, 20
80	高糖分飼料イネ「中国飼198」・「FN-1」の飼料成分と消化率	河野幸雄 (広島県) 塚崎由子 (広島県) 高桑将滋 (広島県) 岸本一郎 (広島県) 神田則昭 (広島県) 新出昭吾 (広島県) 松下 景 藤本 寛 亀井雅浩	2009.08	関西畜産学会報	165, 21
81	天敵放飼による生態系への影響: ヒメハナカメムシを例に	三浦一芸 渡部真也 (広島大)	2009.07	第14回農林害虫防除研究会報告(京都大会)	*, 44
82	共生微生物に感染しているか調べなくても良いですか?	三浦一芸 渡部真也 (広島大)	2009.10	日本昆虫学会第69回大会講演要旨集	*, 85

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
83	性的共食いによって雄カマキリが得るものはあるのか?	渡辺衛介 (広島大) 三浦一芸 安達(萩森) 鉄矢 (大阪府)	2009.10	日本昆虫学会第 69 回大会講演要旨集	*, 102
84	日本産昆虫類の DNA バーコーディング: 寄生蜂への応用を中心に	三浦一芸 前藤 薫 (神戸大)	2010.03	第 57 回日本生態学会大会	*, *
85	日本産捕食性カメムシ Orius 属の Wolbachia の感染状態と水平感染経路推測	三浦一芸 渡部真也 (広島大) 田上陽介 (静岡大)	2010.03	第 54 回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集	54, 33
86	タイリクヒメハナカメムシにおける相加的ではない Wolbachia の細胞質不適合	渡部真也 (広島大) 三浦一芸	2010.03	第 54 回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集	54, 33
87	分子生物学的手法を用いた圃場におけるタバコカスミカメの捕食歴調査	伊藤政雄 (高知農技セ) 三浦一芸 渡部真也 (広島大) 渡辺衛介 (広島大)	2010.03	第 54 回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集	54, 80
88	香川県における流域の地目分率と河川水質の関係	望月秀俊 高橋英博 吉川省子	2009.10	第 51 回土壌物理学会大会講演要旨集	*, 48
89	ヒートパイプ現象としての土壌中の潜熱輸送についての一考察	坂口 巖 (名古屋大) 望月秀俊 粕渕辰昭 (山形大) 片山新太 (名古屋大)	2009.10	第 51 回土壌物理学会大会講演要旨集	*, 68
90	β -グルカンを欠失したビールオオムギの開発	五月女敏範 (栃木農試) 大関美香 (栃木農試) 春山直人 (栃木農試) 長嶺 敬 石川直幸 高山敏之 (栃木農試) 渡邊浩久 (栃木農試) 沖山毅 (栃木農試)	2010.03	育種学研究	12(別 1), 197
91	オオムギリポキシゲナーゼ (LOX) -2 の簡易選抜法の開発	大関美香 (栃木農試) 五月女敏範 (栃木農試) 春山直人 (栃木農試) 長嶺 敬	2010.03	育種学研究	12(別 1), 198
92	中国地方中山間地におけるはだか麦栽培と地産加工販売に関する実証調査研究	長嶺 敬 山下裕作 齊木雄次 (宝田工業) 野方洋一 柳沢貴司	2010.03	日本作物学会紀事	79(別 1), 202-203
93	シソ青枯病の二次伝染を防止する加熱装置組み込み収穫機の開発—電動台車利用収穫機の検討—	長崎裕司 松崎健文	2009.04	農作業研究平成 21 年度春季大会号	44(別 1), 27-28
94	トマト栽培における省力管理技術の開発—誘引作業の省力化—	長崎裕司 畔柳武司	2009.04	農作業研究平成 21 年度春季大会号	44(別 1), 35-36
95	ロボット収穫に対応したイチゴの高密植栽培技術の開発—可動ベッドと連動したロボット等を搭載して走行するプラットフォームの考案—	長崎裕司 畔柳武司 田中宏明 中元陽一 林 茂彦 河野 靖 (愛媛農水研)	2009.09	農業環境工学関連学会 2009 年合同大会講演要旨	*, K23
96	建設足場資材利用園芸ハウスの施工実証と課題	長崎裕司	2009.09	農業環境工学関連学会 2009 年合同大会講演要旨	*, D41
97	ネギ栽培低棟ハウスに対応した無人防除機の開発	長崎裕司 畔柳武司 越智資泰 (広島農技セ)	2009.09	農業環境工学関連学会 2009 年合同大会講演要旨	*, G75
98	温暖地における超多収水稻の収量性と変動の品種間差	長田健二 佐々木良治 大平陽一	2010.03	日本作物学会紀事	79(別 1), 258-259
99	トルコギキョウにおける FLC, FT および SOC1 相同遺伝子の特性解析	中野善公 川嶋浩樹 木下真文 吉川弘恭	2010.03	園芸学研究 (園芸学会平成 22 年度春季大会)	9(別 1), 401
100	オオムギ中の不溶性フェノール性有機酸含量について	吉田淳子 (中村学園大) 園田啓介 (中村学園大) 野方洋一 高木大雅 (中村学園大) 橋本俊二郎 (中村学園大) 太田英明 (中村学園大)	2009.09	第 56 回日本食品科学工学会大会講演要旨集	*, 138

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
101	Recent restructuring of the Japan-Australia beef trade : evolution of a global value chain	Kohei Oro Bill Pritchard (シドニー大)	2009.09	Institute of Australian Geographers Conference	*, *
102	地域資源を活用した堆肥づくりシステムの形成と課題—京都府南丹市美山町を事例として—	尾島一史 大八木秀一(南丹農業改良普及セ)	2009.10	第 59 回地域農林経済学会大会講演要旨	*, 45
103	Evaluation of soybean(Glycine max) genetic resources in Northeast China and establishment of the database	Akinori Okabe Naoki Yamanaka (国際農研) Taizan Adachi (国際農研) Chunming Yang (吉林省大豆研) Guangyu Yang (吉林省大豆研) Zhenyu Yang (吉林省大豆研) Xiaoping Ma (吉林省大豆研) Lei Cai (吉林省大豆研) Zhifeng Song (吉林省大豆研)	2009.08	World Soybean Research Conference VIII	*, 48
104	Selection of soybean cultivars for narrow row spacing and non-molding cultivation	Akinori Okabe Yoshitake Takada Masayasu Saruta	2009.08	World Soybean Research Conference VIII	*, 55
105	ダイズの結実後期における水分含有率低下の推移と青立ちの関係	岡部昭典 高田吉丈 猿田正恭	2009.09	日本作物学会紀事	78(別 2), 88-89
106	黒ダイズにおける裂皮発生要因の解析	岡部昭典 高田吉丈 猿田正恭	2009.12	日本作物学会四国支部会報	*(46), 54-55
107	ダイズの倒伏に及ぼす狭畦密植の影響	岡部昭典 高田吉丈 猿田正恭	2010.03	日本作物学会紀事	79(別 1), 56-57
108	自律走行トラクタに向けた施肥播種機の機能	奥野林太郎 窪田 潤	2009.09	農業環境工学関連学会 2009 年合同大会	*, *
109	黒毛和種雌ウシの連続した産次における分娩後早期の胚回収による生産性について	大島一修 落合寿成 小島孝敏 山本直幸	2010.03	第 112 回日本畜産学会大会	*, 89
110	生分解性シートを用いた植栽におけるグラウンドカバープランツの生育と雑草の発生	大谷一郎 伏見昭秀	2009.04	雑草研究	54(別), 144
111	みかんの箱色と商品名に対するインターネットユーザーの評価	齋藤仁藏	2010.03	2010 年度日本農業経済学会大会報告要旨	*
112	稲・麦・大豆水田輪作における乾田直播の経営的評価—北海道南空知地域を対象とした経営シミュレーション分析—	坂本英美	2010.03	2010 年度日本農業経済学会大会個別ポスター報告	*
113	Studies of resistance to Peanut Stunt Virus in Soybean	Masayasu Saruta Yoshitake Takada Akinori Okabe	2009.08	World Soybean Research Conference VIII	*
114	ダイズのインゲンマメ南部モザイクウイルスに対する抵抗性の遺伝解析	猿田正恭 高田吉丈 岡部昭典	2009.09	育種学研究	11(別 2), 277
115	ダイズの褐斑抵抗性に関する QTL 解析	猿田正恭 高田吉丈 岡部昭典	2010.03	育種学研究	12(別 2), 326
116	作物に付着した水滴の乾燥過程を遠隔からモニタリングするシステムの開発	佐藤恵一	2009.12	平成 21 年度農業気象学会中国・四国支部大会講演要旨集(中国・四国の農業気象)	22, 20-23
117	脂肪細胞分化及び核内受容体 PPARs に影響を及ぼすショウガ成分	関谷敬三 吉田隆一(富士フレーバー(株)) 齋藤 武 阿部大吾	2009.07	日本動物細胞工学会 2009 年度大会	*, 67
118	脂肪細胞分化を促進する生姜成分	関谷敬三 吉田隆一(富士フレーバー(株)) 齋藤 武 阿部大吾	2009.08	第 26 回和漢医薬学会学術大会	*, 89
119	脂肪細胞分化に及ぼすショウガ成分の影響	関谷敬三 吉田隆一(富士フレーバー(株)) 齋藤 武 阿部大吾	2009.09	日本食品科学工学会第 56 回大会講演集	*, 105

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
120	ショウガ超臨界抽出物による PPAR γ 活性化と脂肪細胞分化促進	関谷敬三 吉田隆一 (富士フレイバー (株)) 齋藤 武 阿部大吾	2009.10	第 30 回日本肥満学会	*, 244
121	産地の異なるショウガによる脂肪細胞分化の促進と PPAR γ の活性化	関谷敬三 吉田隆一 (富士フレイバー (株)) 齋藤 武 阿部大吾	2009.11	第 42 回日本栄養・食糧学会 中国・四国支部大会	*, 19
122	系統間交配を利用した飛ばないナミテントウの品質維持管理法	世古智一	2009.07	第 14 回農林害虫防除研究会 報告 (京都大会)	*, 42
123	ナミテントウ個体群における飛翔能力の遺伝的変異	世古智一	2009.10	個体群生態学会第 25 回年次 大会講演要旨集	*, 32
124	キュウリ株上における飛ばないナミテントウの機能の反応	世古智一	2009.11	第 19 回天敵利用研究会 (千葉大会) 講演要旨集	*, 26
125	殺虫剤の使用が飛ばないナミテントウの生存に及ぼす影響	安達鉄矢 (大阪府) 柴尾 学 (大阪府) 田中 寛 (大阪府) 伊藤健司 ((株) アグリ総研) 手塚俊行 ((株) アグリ総研) 世古智一	2009.11	第 19 回天敵利用研究会 (千葉大会) 講演要旨集	*, 27
126	ナミテントウの飛翔距離と歩行活動量は同じ遺伝的要因に支配されるのか?	宮竹貴久 (岡山大学) 世古智一 中山 慧 (岡山大学) 高月淳一 (岡山大学) 三浦一芸	2009.11	日本動物行動学会第 28 回大会 講演要旨集	*, 50
127	飛ばないナミテントウの利用法の開発: 天敵能力の評価・解析	世古智一 三浦一芸	2010.03	第 54 回日本応用動物昆虫学会 大会講演要旨集	*, 216
128	遺伝的に飛ばないナミテントウが生態系攪乱をもたらす可能性の検証	世古智一 三浦一芸	2010.03	第 54 回日本応用動物昆虫学会 大会講演要旨集	*, 228
129	粗飼料多給牛肉における骨格筋形成関連遺伝子の発現	柴田昌宏 曳野泰子 (契約研究員) 松本和典 大江美香 中島郁世 尾嶋孝一 室谷 進 千国幸一	2009.09	日本畜産学会第 111 回大会 講演要旨	*, 65
130	Estimation of the Meteorological Environment and the Potential Productivity of alfalfa (Medicago sativa L.) under the Effect of Micro Topography in the Upper Loess Plateau Region	Shohei Shibata Mitsuru Tsubo (鳥取大) Reiji Kimura (鳥取大) Nobuhiro Matsuoka (千葉大)	2009.09	CAS-JSPS Core University Program Japan-China Joint Open Seminar on Combating Desertification and Development in Inland China of Year 2009	*, 7-8
131	細霧冷房や地中熱交換を利用した施設環境制御による夏秋トマト生産性への効果	柴田昇平 日高輝雄 (山口県) 吉村美沙子 (山口県)	2009.12	平成 21 年度農業気象学会中国・四国支部大会講演要旨集 (中国・四国の農業気象)	22, 36-37
132	カンキツの新しい栽培技術「マルドリ方式」の技術と効果	島崎昌彦	2009.08	農業農村工学会大会講演要旨集	*, 34-35
133	Soil carbon storage due to the abandonment of paddy fields	Seiji Shimoda	2009.08	International Congress of Ecology (Abstract)	http://www.intecol10.org/abstracts/pdf/0908015_S H I M O - DA00644.pdf
134	湛水管理休耕田の雑草制御と土壌炭素量	下田星児 櫻井雄二 (愛媛大)	2009.09	日本土壌肥料学会講演要旨集	55, 195
135	休耕田の根量抑制技術と炭素循環への影響	下田星児 櫻井雄二 (愛媛大)	2009.12	平成 21 年度農業気象学会中国・四国支部大会講演要旨集 (中国・四国の農業気象)	22, 46-47
136	耕作放棄に伴う地上部・地下部炭素量の推移	下田星児	2010.03	日本農業気象学会 2010 年全国大会講演要旨	*, 39
137	水稲穂肥による光合成・蒸散量向上の品種間差	下田星児 佐々木良治 荒川市郎 (福島農総七)	2010.03	日本農業気象学会 2010 年全国大会講演要旨	*, 47
138	農業気象から近隣分野の研究への参画と死角	下田星児	2010.03	日本農業気象学会 2010 年全国大会講演要旨	*, 173

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
139	Seasonal variations in leaf carbon isotope discrimination and transpiration efficiency in rice as affected by soil water conditions and N	Seiji Shimoda	2010.03	The International Symposium on Agricultural Meteorology (ISAM2009), (講演要旨集)	*, 138
140	飼料稲水田の窒素収支と冬作による溶脱抑制の有効性	志村もと子	2009.09	日本土壌肥料学会 2009 年京都大会講演要旨集	55, 175
141	大阪湾流域の農業用ため池を含む集水域の窒素流出負荷量予測モデル	志村もと子 望月秀俊 森 達摩 (大阪府食みセ) 相子伸之 (大阪府食みセ) 矢吹芳教 (大阪府食みセ) 柴原藤善 (滋賀県農技セ)	2010.03	第 44 回日本水環境学会年會要旨集	*, *
142	大規模 DNA マイクロアレイデータの解析とオーキシン生合成阻害剤の発見	郷田秀樹 (理研 PSC) 添野和雄 小倉岳彦 (理研 PSC) 佐々木江理子 (理研 PSC) 吉田茂男 (理研 PSC) 藤岡昭三 (理研 ASI) 浅見忠男 (東大院・農生科・応生化) 嶋田幸久 (理研 PSC)	2009.10	植物化学調節学会第 44 回大会	44(別), 20
143	オーキシン生合成阻害剤の同定と機能解析	添野和雄 石井貴広 (理研 PSC) 立川 巴 (理研 PSC) 吉田茂男 (理研 PSC) 藤岡昭三 (理研 ASI) 浅見忠男 (東大院・農生科・応生化) 嶋田幸久 (理研 PSC)	2009.10	植物化学調節学会第 44 回大会	44号(別), 21
144	シコクビエの植付け方法と栽植密度の検討	杉浦 誠	2009.11	日本作物学会四国支部会報	(46), 48-49
145	四国地域でのサトウキビ栽培と高知県黒潮町でのサトウキビ栽培の取り組み	杉浦 誠 森下昌三 (高知県黒潮町産業振興課)	2009.11	日本作物学会四国支部会報	(46), 50-51
146	シコクビエ在来系統における湛水栽培下での生育量の年次変動	杉浦 誠	2010.03	熱帯農業研究	3(1), 35-36
147	湛水栽培におけるシコクビエ在来系統の収量性に及ぼす植付け密度と窒素施用の影響	杉浦 誠	2010.03	日本作物学会紀事	79(1), *
148	Processing and utilization of soybeans modified saponin and isoflavone characteristics for functional soy-based foods.	Chigen Tsukamoto (岩手大) Yoshitake Takada Akio Kikuchi Masao Ishimoto Kazuko Shimada (山口県立大) Keisuke Kitamura (北大)	2009.08	Proceeding CD for World Soybean Research Conference VIII	*, *
149	Processing and utilization of soybeans modified saponin and isoflavone characteristics for functional soy-based foods.	Chigen Tsukamoto (岩手大) Yoshitake Takada Akio Kikuchi Masao Ishimoto Kazuko Shimada (山口県立大) Keisuke Kitamura (北大)	2009.08	Proceeding CD for World Soybean Research Conference VIII	*, 112-113
150	Effects of the genes controlling saponin composition polymorphism on saponin contents in soybean seed hypocotyls.	Nana Tatsuzaki (岩手大) Ippei Tayama (岩手大) Yoshitake Takada Akio Kikuchi Masao Ishimoto Keisuke Kitamura (北大) Chigen Tsukamoto (岩手大)	2009.08	Proceeding CD for World Soybean Research Conference VIII	*, 119-120
151	ダイズ種子サポニンの C-3 位結合糖鎖組成に関する遺伝的変異の解析	高田吉丈 田山一平 (岩手大院農) 佐山貴司 (特別研究員等) 笹間博子 (特別研究員等) 猿田正恭 岡部昭典 菊池彰夫 塚本知玄 (岩手大) 石本政男	2010.03	日本育種学会第 117 回講演会	*, *
152	オオムギ穀粒硬度関連遺伝子 Hina,Gsp の品種・系統間における変異	高橋飛鳥 池田達哉 長嶺 敬 柳沢貴司	2009.09	育種学研究	11(別2), 384

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
153	オオムギ蒴萎縮病の発生と特徴	高山敏之 (栃木農試) 高橋飛鳥 野見山孝司 柳沢貴司 石川浩一	2010.03	育種学研究	*, *
154	分布型モデルによる土器川と吉井川流域の水収支解析	高橋英博 吉川省子 小野寺真一 (広島大)	2009.05	日本地球惑星科学連合 2009 年大会講演要旨集	H211-P009
155	香川県丸亀平野における地下水流動および水質分布特性	齋藤光代 (愛媛大) 小野寺真一 (広島大) 清水裕太 (広島大) 高橋英博 吉川省子	2009.05	日本地球惑星科学連合 2009 年大会講演要旨集	H211-P005
156	Rn トレーサーを用いた流域スケールでの河川-地下水交流の推定	加藤愛彬 (広島大) 小野寺真一 (広島大) 清水裕太 (広島大) 平山恭之 (広島大) 高橋英博 小寺浩二 (法政大)	2009.05	日本地球惑星科学連合 2009 年大会講演要旨集	H211-P004
157	岡山県における河川水質と面源負荷の関係解析	高橋英博 望月秀俊 吉川省子	2009.11	システム農学会 2009 年度秋季大会	25(別)1, 57-58
158	現地転作水田におけるヒマワリへの取り組み	高橋仁康 窪田 潤 亀井雅浩 奥野林太郎 藤本 寛 安武正史	2009.04	農作業研究平成 21 年度春季大会号	44(別 1), 57-58
159	耕うんによるタニシ殺貝防除技術	高橋仁康	2009.04	農作業研究平成 21 年度春季大会号	44(別 1), 138
160	自走式飼料イネハーベスタ開発に関する調査 - 現行体系調査と比較 -	高橋仁康 寺元郁博 高橋英博 藤本 寛 窪田 潤 奥野林太郎 亀井雅浩	2009.09	農業環境工学関連学会 2009 年合同大会	154
161	野外展示のための刈り取り管理と草原性植物の開花状況との関係	井上雅仁 (三瓶自然館) 高橋佳孝 堤 道生	2010.03	第 57 回日本生態学会東京大会	57, 446
162	小麦の子実硬度に関する要因について	高田兼則 池田達哉 谷中美貴子 石川直幸 松中 仁	2009.07	第一回中国地域育種談話会講演要旨集	*, 13-14
163	Evaluation of high molecular weight-glutenin subunit of Afghan wheat landraces and identification of a novel Glu-D1 allele	Yohei Terasawa (横浜市大) Kanenori Takata Taihachi Kawahara (京都大) Hisashi Hirano (横浜市大) Tetsuo Sasakuma (横浜市大) Tsuneo sasanuma (山形大)	2009.09	Book of abstract 10th International Gluten workshop	*, 151
164	アフガニスタンのコムギ在来品種の遺伝的多様性 VI (硬軟性の解析)	寺沢洋平 (横浜市大) 高田兼則 河原太八 (京都大) 平野 久 (横浜市大) 笹隈哲夫 (横浜市大) 笹沼恒男 (山形大)	2009.09	育種学研究	11(別 2), 177
165	日本在来カモジグサ類の多型解析マーカー作成の試み	泉沢 葵 (山形大) 高田兼則 川口健太郎 小柳 敦 阿部徳利 (山形大) 笹沼恒男 (山形大)	2009.09	育種学研究	11(別 2), 195
166	オオムギ属の第五群染色体添加によるコムギ子実硬度の低下効果	高田兼則 谷中美貴子 池田達哉	2009.09	育種学研究	11(別 2), 373

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
167	中国雲南省のコムギ在来品種における耐湿性の評価	高田兼則 吉田朋史 (愛知農試) 野々山利博 (愛知農試) 久野智香子 (愛知農試) 加藤謙司 (岡山大) 辻本 壽 (鳥取大) 龍 春林 (昆明植物研) 露崎 浩 (秋田県立大) 田中裕之 (鳥取大) 西田秀隆 (岡山大)	2009.11	第4回ムギ類研究会	*,*
168	フザリウム菌 nit 変異株の選択分離培地上における野生株からの変異	竹原利明	2009.08	第7回フザリウム研究会講演要旨	*,*
169	瀬戸内海沿岸気候におけるブルーベリーの収穫期, 収量, 果粒重の品種間差	瀧下文孝 根角博久 國賀 武	2009.07	園芸学会平成21年度中四国支部大会	48, 11
170	カンキツ'はるみ'の枝径による葉面積推定	瀧下文孝 馬場明子 (静岡農技研果樹研セ) 星 典宏 根角博久 國賀 武 島崎昌彦	2010.03	園芸学研究 (園芸学会平成22年度春季大会)	9(別1), 263
171	集落営農法人の広域的連携による地域支援システムに関する一考察—広島県・島根県における大豆作での取組事例を対象として—	棚田光雄	2009.09	平成21年度日本農業経営学研究大会報告要旨	*, 138-139
172	Development of a Mechanical Model for Cohesive, Plastic Behavior of Soil by the Distinct Element Method	Hiroaki Tanaka Shrini K. Upadhyaya (カリフォルニア大デービス校) Vasu Udompetaikul (カリフォルニア大デービス校) Rajat Saha (カリフォルニア大デービス校) Leroy O. Garciano (カリフォルニア大デービス校) Mir S. Shafi (カリフォルニア大デービス校)	2009.06	2009 ASABE Annual International Meeting	Paper No. 095946
173	Simulation of Wedge Penetration Tests with Cohesive, Plastic DEM Model	Hiroaki Tanaka Shrini K. Upadhyaya (カリフォルニア大デービス校) Vasu Udompetaikul (カリフォルニア大デービス校) Leroy O. Garciano (カリフォルニア大デービス校)	2009.09	農業環境工学関連学会2009年合同大会	H2j
174	周囲土壌との力学的な接触相互作用を考慮した根の肥大成長シミュレーションの試み	藤田穂人 (京都大) 中嶋 洋 (京都大) 田中宏明 清水 浩 (京都大)	2009.09	農業環境工学関連学会2009年合同大会	H2k
175	On Development of DEM model	田中宏明	2009.09	Meeting on DEM and Elasto-Plastic Soil Mechanics (カリフォルニア大デービス校)	10名
176	離散要素法に関する基礎的な検討	藤田穂人 (京都大) 中嶋 洋 (京都大) 田中宏明 宮坂寿朗 (京都大) 大土井克明 (京都大) 清水 浩 (京都大)	2009.11	テラメカニクス研究会	**,*
177	基盤地図情報25000WMS配信サービスの開発	寺元郁博 二宮正士	2009.05	システム農学会2009年度春季大会講演要旨	25(別1), 48-49
178	基盤地図情報を用いた地図画像配信サービスの開発と利用	寺元郁博 二宮正士	2009.07	日本国際地図学会平成21年度定期大会	*, 56-57
179	秋吉台地域における105年間の草原の変遷: 面積縮小と分断化	堤 道生 太田陽子 (NPO 法人緑と水の連絡会議) 高橋佳孝	2009.05	システム農学会2009年度春季大会一般研究発表会	25(別1), 82-83

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
180	耕作放棄地における TDN および CP の簡易推定法	堤 道生 高橋佳孝 惠本茂樹 (山口農総技研畜技部) 伊藤直弥 (山口農総技研畜技部) 佐原重行 (広島総技研畜技セ) 吉村知子 (広島総技研畜技セ) 渡邊貴之 (家畜改良センター十勝牧場)	2010.03	日本草地学会誌	56(別), 136
181	イノシシの 2 種類の寒地型牧草への嗜好性	上田弘則 井上雅央 江口祐輔	2009.11	日本哺乳類学会 2009 年度大会 (要旨集)	*, 124
182	牧草によるイノシシの餌付け実態	上田弘則	2009.11	農研機構 シンポジウム「ヒューマンエラーが引き起こす鳥獣害の実態と被害防止対策の新たな展開」講演要旨	*, 22-25
183	過疎高齢化農山村におけるリーダーの存在構造—相互認知関係と分布状態に関する 3 地域間の比較分析—	渡部博明	2010.03	2010 年度日本農業経済学会大会報告要旨	*
184	トマト隔離土耕栽培への極微量灌水の適用	渡邊修一 笠原賢明 吉川弘恭 吉川省子	2009.09	日本土壌肥料学会講演要旨集	55, 154
185	極微量灌水を用いたトマト隔離床栽培におけるリン減肥が養分吸収に与える影響	渡邊修一 笠原賢明 吉川弘恭	2009.12	日本土壌肥料学会関西支部講演会関西土壌肥料協議会講演要旨集	105, 33
186	環境に配慮した小規模移動放牧における繁殖和牛の飼養管理技術	山本直幸	2009.12	平成 21 年度中国四国地域マッチングフォーラム「水田における省力的な草地管理と和牛の小規模移動放牧の構築」	*, 20
187	夏季放牧における褐毛和種と黒毛和種の行動	伊藤秀一 (東海大) 岩下祐輔 (東海大) 萩原慎太郎 (東海大) 作本亮介 (生物研) 岡本智伸 (東海大) 山本直幸 矢用健一 (生物研)	2010.03	応用動物行動学会・日本家畜管理学会合同 2010 年度春季研究発表会 (講演要旨集)	46(1), 42
188	ウシにおける急性ストレス反応と抹消血中オキシトシン濃度との関係	矢用健一 (生物研) 伊藤秀一 (東海大) 山本直幸 北川紗雪 (宇都宮大) 岡村裕昭 (生物研)	2010.03	日本畜産学会第 112 回大会 (講演要旨集)	*, *
189	定植後の培地温度が促成イチゴの連続出蓄性と収量性に及ぼす影響	山崎敬亮 熊倉裕史 浜本 浩	2009.09	日本生物環境工学会 2009 年福岡大会講演要旨	*, 236-237
190	土壌の残存窒素量がセル成型苗を利用した促成栽培イチゴの成育に及ぼす影響	山崎敬亮 熊倉裕史 浜本 浩	2009.09	園芸学研究 (園芸学会平成 21 年度秋季大会)	8(別 2), 465
191	Effect of light quality for supplemental lighting during runner-cooling treatment on flowering of strawberry in forcing culture	Keisuke Yamazaki Hiroshi Kumakura Hiroshi hamamoto	2009.11	6th International Symposium on Light in Horticulture, Scientific Program.	*, 138
192	Recent breeding objectives of hulled and hull-less barley for food in Japan	Takashi Yanagisawa	2009.06	6th International Triticeae Symposium	*, 29
193	炊飯後に褐変しにくく、食味に優れる二条裸麦新品種「四国裸糯 119 号」	柳澤貴司 長嶺 敬 高橋飛鳥 高山敏之 (栃木県) 土井芳憲 (退職) 松中 仁 藤田雅也	2010.03	育種学研究	12(別 1), 163
194	農産物における DNA 鑑定の現状と展望	矢野 博	2009.11	DNA 鑑定	1, 9-16
195	パンコムギのアミロース含量変異系統とその特性	安井 健	2009.11	日本穀物科学研究会 第 140 回例会 (日本穀物科学研究会)	*, 50

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
196	中国圏・四国圏広域地方計画への提言	清水夏樹 (特別研究員等) 上野裕士 (内外エンジニアリング (株)) 小田切徳美 (明治大) 清水 庸 (東京大) 日鷹一雅 (愛媛大) 山路永司 (東京大) 吉田晋一	2009.04	農村計画学会 2009 年度春期 シンポジウム広域地方計画へ の農村計画学会からの提言－ 農村からみた国土形成計画Ⅲ －	*, 79-82
197	農産物直売所における需要量変動要因 の分析	吉田晋一	2009.07	日本農業市場学会大会 2009 年度大会報告要旨	*, 63
198	圃場地図ベース作業計画管理支援ソフト の機能概要	吉田智一 高橋英博 寺元郁博	2009.05	農業情報学会 2009 年度年次 大会講演要旨集	*, 67-68
199	精密管理による営農支援システムの開発 (第7報)－GPX 拡張形式による 作業軌跡データ対応－	吉田智一 高橋英博 寺元郁博	2009.09	農業環境工学関連学会 2009 年合同大会講演要旨集	**, *
200	収穫前日および収穫当日の日射量がホ ウレンソウのアスコルビン酸含量に及 ぼす影響	吉田祐子 浜本 浩	2009.09	園芸学研究 (園芸学会平成 21 年度秋季大会)	8(別2), 514
201	遮光栽培したホウレンソウの遮光除去 後の株重および葉色の変動	吉田祐子 浜本 浩	2010.03	園芸学研究 (園芸学会平成 22 年度春季大会)	9(別1), 391
202	日射制御型拍動自動灌水装置による灌 水と施肥がクワの収量、品質に及ぼす 影響	水田泰徳 (兵庫農技総セ) 真野隆司 (兵庫農技総セ) 吉川弘恭	2009.09	園芸学研究 (園芸学会平成 21 年度秋季大会)	8(別2), 430
203	瀬戸内海備讃瀬戸の栄養塩環境改善へ のアプローチⅡ－流況の季節変動－	高橋 暁 (産総研中国セ) 湯浅一郎 (産総研中国セ) 吉川省子	2009.04	2009 年度日本海洋学会春季 大会講演要旨集	*, 237
204	地下水流出型海域と河川流出型海域の 栄養塩の違い－丸亀平野沿岸域と岡山 平野沿岸域の比較－	小野寺真一 (広島大院) 齊藤光代 (愛媛大沿岸科研セ) 清水裕太 (広島大院) 北岡豪一 (岡山理科大) 吉川省子	2009.05	日本地球惑星科学連合 2009 年大会講演要旨集	H211-001
205	児島湾の栄養塩分布特性と地下水・河 川流出の関係	清水裕太 (広島大院) 小野寺真一 (広島大院) 北岡豪一 (岡山理科大) 吉川省子	2009.05	日本地球惑星科学連合 2009 年大会講演要旨集	H211-P001
206	香川県の浅層地下水水質と土地利用の 関係	吉川省子 高橋英博 笹田康子 (香川環保研セ) 小野寺真一 (広島大院)	2009.05	日本地球惑星科学連合 2009 年大会講演要旨集	H211-P007
207	富栄養化地下水の農業再利用技術の検 討－低流量灌水同時施肥法による茶園 での実証試験	吉川省子 岩井正直 (香川西讃農改普セ) 吉田正則 渡邊修一 吉川弘恭	2009.09	日本土壌肥料学会講演要旨集	55,10
208	瀬戸内海備讃瀬戸の栄養塩環境改善へ のアプローチⅢ－クロロフィル a 分布－	高橋 暁 (産総研中国セ) 三好順也 (産総研中国セ) 湯浅一郎 (産総研中国セ) 吉川省子	2009.09	2009 年度日本海洋学会秋季 大会講演要旨集	*, 227
209	備讃瀬戸海域での水産業被害に係わる 環境因子について	三好順也 (産総研中国セ) 高橋暁 (産総研中国セ) 三島康史 (産総研中国セ) 湯浅一郎 (産総研中国セ) 吉川省子	2009.09	瀬戸内海研究フォーラム in 大阪	*, 45
210	Effect of land fill on the groundwater flow and nutrient supply in the coastal area	小野寺晋一 (広島大院) 齋藤光代 (愛媛大) 加藤愛彬 (広島大院) 清水裕太 (広島大院) 吉川省子	2009.12	2009AGU Fall Meeting in SF US	*, H53D-0968
211	直売所の持続的運営のためのネット ワーク化の効果－愛媛県 K 町での事例 から－	吉村亜希子 島 義史 石田憲治	2009.04	2009 年度農村計画学会春期 大会学術研究発表会要旨集	*, 41-42
212	中山間地域における新規就農者支援の 課題	吉村亜希子 細川雅敏 内田晴夫 松田 周 石田憲治	2009.10	第 64 回農業農村工学会中国 四国支部講演会講演要旨集	*, 89-91

3) 著書

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号), 頁
1	傾斜地特有の資源を活用した低コスト施設栽培—四国傾斜地農業の経営改善に向けた総合研究— 第V章 軽労化技術、情報処理技術 第2節 土揚げ作業の軽労化	大黒正道 猪之奥康治 伊吹俊彦	2009.11	近畿中国四国農業研究センター叢書	2, 219-226
2	傾斜地特有の資源を活用した低コスト施設栽培—四国傾斜地農業の経営改善に向けた総合研究— 第II章第2節 貯水型水路による雨水の安全な排水方法	井上久義	2009.11	近畿中国四国農業研究センター叢書	2, 47-77
3	傾斜地特有の資源を活用した低コスト施設栽培—四国傾斜地農業の経営改善に向けた総合研究— 第IV章第1節 セルリーの栽培技術	木下貴文	2009.11	近畿中国四国農業研究センター叢書	2, 166-176
4	傾斜地特有の資源を活用した低コスト施設栽培—四国傾斜地農業の経営改善に向けた総合研究— シミュレーションによる自然換気設計	畔柳武司	2009.11	近畿中国四国農業研究センター叢書	2, 102-112
5	私こう見えてもびなんです	三浦一芸	2009.05	原色植物ダニ検索図鑑 (全国農村教育協会)	*, 194
6	傾斜地特有の資源を活用した低コスト施設栽培—四国傾斜地農業の経営改善に向けた総合研究— 第V章 軽労化技術、情報処理技術 第1節 モノレール対応型クローラ運搬車の開発	中元陽一	2009.11	近畿中国四国農業研究センター叢書	2, 209-218
7	傾斜地特有の資源を活用した低コスト施設栽培—四国傾斜地農業の経営改善に向けた総合研究— 天窗と簡易細霧冷房による平張型傾斜ハウスの暑熱緩和法	柴田昇平	2009.11	近畿中国四国農業研究センター叢書	2, 78-100
8	第1章—1 半自然草地の植生持続をはかる修復・管理法	高橋佳孝	2010.03	草地科学シリーズ2 (日本草地学会)	*, 2-19
9	第1章—4 三瓶山の半自然草地における草原性生物の保護と生物多様性保全	内藤和明 (兵庫県立大) 高橋佳孝 井上雅仁 (三瓶自然館)	2010.03	草地科学シリーズ2 (日本草地学会)	*, 56-70
10	第1章—5 阿蘇千年の草原の現状と市民参加による保全へのとりくみ	山内康二 (阿蘇グリーン ンストック) 高橋佳孝	2010.03	草地科学シリーズ2 (日本草地学会)	*, 1-87
11	傾斜地特有の資源を活用した低コスト施設栽培—四国傾斜地農業の経営改善に向けた総合研究— 第V章 軽労化技術、情報処理技術 3 農作業を簡易に記録するソフトウェア	寺元郁博	2009.11	近畿中国四国農業研究センター叢書	2, 228-244
12	傾斜地特有の資源を活用した低コスト施設栽培—四国傾斜地農業の経営改善に向けた総合研究— 第III章付論 有機質培地を利用した養液栽培	吉川弘恭	2009.11	近畿中国四国農業研究センター叢書	2, 155-160

4) その他

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号), 頁, 参加者数
1	ハーブ牛乳の生産の背景と将来	安藤 貞	2010.03	臨床獣医	28(3), 20-23
2	小規模移動放牧のひ陰による暑熱対策	安藤 哲	2009.12	平成 21 年度中国四国地域マッチングフォーラム(農林水産省農林水産技術会議事務局、(独)農研機構近畿中国四国農業研究センター)	*, 32
3	米粉で作る新しい食品	荒木悦子	2009.08	農業者大学校サイエンスカフェ in おおさか(農研機構)	約 30 名
4	米粉食品の原料米の品種について	荒木悦子	2009.08	広島県米粉利用推進連絡協議会研修会(広島県米粉利用推進連絡協議会)	約 40 名
5	米粉の適性利用を考える	荒木悦子	2009.09	島根県米粉加工研修会(島根県農業技術センター)	約 40 名
6	米粉の適性利用を考える	荒木悦子	2009.10	兵庫県米粉加工研修会(兵庫県農業技術センター)	約 20 名
7	米粉パンなどの利用に適する米粉の特性は何か?	荒木悦子 芦田かなえ 青木法明	2009.11	農研機構シンポジウム「米粉で進める豊かな食事～パンや麺、洋菓子から家庭料理まで～」(農研機構)	約 260 名
8	米粉の種類と特性について ～米粉の利用を高めるために～	荒木悦子	2009.11	岡山県米粉活用シンポジウム(岡山県農山漁村生活交流グループ協議会・岡山県)	約 120 名
9	米粉利用の現状と米粉研究	荒木悦子	2009.11	近畿作物・育種研究会公開シンポジウム(近畿作物・育種研究会)	約 50 名
10	米粉パンなどの利用に適する米粉の特性は何か(第1回)	荒木悦子	2010.01	週刊農林((株)農林出版社)	2072, 4-5
11	米粉パンなどの利用に適する米粉の特性は何か(第2回)	荒木悦子	2010.01	週刊農林((株)農林出版社)	2073, 6-7
12	近年の米粉関連技術の概要と期待される今後の方向性	荒木悦子	2010.02	米粉食品セミナー in しまね(島根県米粉推進協議会、中国四国農政局島根農政事務所)	約 80 名
13	「米粉パン」に向く米粉の特性と製粉しやすい米の特徴	芦田かなえ 荒木悦子	2009.08	グリーンレポート(JA全農)	482, 12-13
14	イノシシの行動と被害対策	江口祐輔	2009.05	平成 21 年度第 1 回大分県鳥獣害対策アドバイザー研修(大分県農林水産部 森との共生推進室)	150 名
15	鳥獣害対策について	江口祐輔	2009.06	鳥獣害対策研修(和歌山県)	150 名
16	やさしい豚の行動学—動物行動学とは	江口祐輔	2009.07	養豚界(緑書房)	7月号, 40-41
17	野生動物(イノシシ他)の行動と被害防止対策 ～生態を学び、今後の被害拡大を防ぐ～	江口祐輔	2009.07	鳥獣害対策研修会(NOSAI 魚沼魚沼農業共済組合)	80 名
18	深刻化する獣害対策(イノシシ・シカ・サル)について	江口祐輔	2009.07	共済部長支部長女性部代議員研修会(大分県中西部農業共済組合)	300 名
19	イノシシ・カモシカの習性解説及び対策他	江口祐輔	2009.07	鳥獣害対策研修会(国府町糠塚町内会)	40 名
20	効果的なイノシシ防護柵の設置方法について	江口祐輔	2009.07	福井地区広域鳥獣害対策協議会研修会(福井農林総合事務所)	140 名
21	やさしい豚の行動学 —尾かじりはなぜおこる	江口祐輔	2009.08	養豚界(緑書房)	8月号, 24-25
22	イノシシ農作物被害対策	江口祐輔	2009.08	岡山市地域鳥獣被害防止対策協議会	200 名
23	イノシシ農作物被害対策	江口祐輔	2009.08	岡山市地域鳥獣被害防止対策協議会	120 名
24	イノシシの生態と被害防止	江口祐輔	2009.08	鳥獣害防止対策研修会～「敵を知り、己を知る」イノシシに負けない地域づくり～(富山県)	200 名
25	イノシシの生態・生活史等を知りイノシシから里山や農作物の被害を防ぐ方法について	江口祐輔	2009.08	イノシシから里山を守ろう(瀬戸内流域森林整備センター)	180 名
26	やさしい豚の行動学 —排泄行動からわかること	江口祐輔	2009.09	養豚界(緑書房)	9月号, 40-41
27	野生動物の行動と被害対策について	江口祐輔	2009.09	農作物鳥獣害防止指導者育成研修(埼玉農林部長)	50 名
28	イノシシの行動と被害対策	江口祐輔	2009.09	玖珠町鳥獣被害対策協議会	20 名
29	やさしい豚の行動学 —豚の育児ストレス	江口祐輔	2009.10	養豚界(緑書房)	10月号, 36-37

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号), 頁, 参加者数
30	イノシシの防除について	江口祐輔	2009.10	川崎町鳥獣被害防止対策協議会	50名
31	イノシシの生態について・農作物被害の対策について	江口祐輔	2009.10	野生鳥獣被害対策検討会(土佐清水市農林振興課)	80名
32	やさしい豚の行動学 ―豚はどんなものが好き?	江口祐輔	2009.11	養豚界(緑書房)	11月号, 38-39
33	イノシシの行動と被害対策	江口祐輔	2009.11	獣害対策研修会「敵(サル・シカ・イノシシ)を知って被害を防ぐ」(伊勢志摩地域農業改良普及センター)	80名
34	野生動物の行動を被害対策の考え方	江口祐輔	2009.11	平成21年度鳥獣被害対策研修会(福岡県農林水産部)	10名
35	イノシシによる農林作物被害防止対策	江口祐輔	2009.11	大分県鳥獣被害対策シンポジウム(豊肥)(大分県農林水産部)	50名
36	やさしい豚の行動学 ―豚の記憶力	江口祐輔	2009.12	養豚界(緑書房)	12月号, 40-48
37	イノシシ被害状況診断手法の習得及びイノシシの生態と被害防止対策のポイントについて	江口祐輔	2009.12	獣種別被害対策研修会(静岡県農業協同組合中央会)	180名
38	イノシシの行動と被害対策	江口祐輔	2009.12	平成21年度鳥獣被害対策優良活動の審査について(農林水産省生産局)	20名
39	イノシシによる農林作物被害防止対策	江口祐輔	2009.12	大分県鳥獣被害対策シンポジウム(北部)(大分県農林水産部)	200名
40	やさしい豚の行動学 ―おいしさにかかわる要素	江口祐輔	2010.01	養豚界(緑書房)	1月号, 36-37
41	イノシシの行動と被害対策	江口祐輔	2010.01	嘉飯桂地区鳥獣被害防止対策協議会	100名
42	イノシシの行動と被害対策	江口祐輔	2010.01	土庄町鳥獣被害対策協議会・小豆島町鳥獣被害防止対策協議会	150名
43	イノシシの生態及び被害防止対策	江口祐輔	2010.01	平成21年度東北地域鳥獣被害防止対策フォーラム(東北農政局)	60名
44	やさしい豚の行動学―豚の鳴き声	江口祐輔	2010.02	養豚界(緑書房)	2月号, 54-55
45	北陸地域における環境の変化に伴う鳥獣害の動向について	江口祐輔	2010.02	平成21年度関東東海北陸農業試験研究推進部会(中央農業総合研究センター北陸研究センター)	60名
46	集落における鳥獣被害対策	江口祐輔	2010.02	三次鳥獣被害対策研修会	50名
47	やさしい豚の行動学 ―豚の癖、意地悪な行動	江口祐輔	2010.03	養豚界(緑書房)	3月号,50-51
48	乾田条播直播栽培による飼料用米の生産技術体系	藤本 寛	2009.08	近畿中国四国地域における新技術(近畿中国四国農業研究推進会議)	8,*
49	近畿・中国・四国地域の飼料用米栽培.イ. 直播栽培	藤本 寛	2009.12	飼料用米の生産・技術マニュアル(農研機構)	*,31-32
50	飼料イネの栽培	藤本 寛	2010.02	飼料イネパンフレット	**,
51	乾田直播栽培による飼料イネの生産技術体系	藤本 寛	2010.03	機械化農業(新農林社)	*,13-16
52	飼料イネ生産技術	遠藤憲明(東部コントラクター) 藤本 寛	2010.03	農研機構シンポジウム	**,
53	小麦における DNA 多型研究の現状と展望	藤田由美子	2009.07	平成21年度「社会連携研究推進事業」産官学連携(PJ2)「化学・生物総合管理学の社会連携教育研究」テーマ(3)「食糧の安全とトレーサビリティ」(a) 集団学習会(福山大学)	約30名
54	小麦加工食品の使用品種名表示の確認を目的とした品種判別技術の開発	藤田由美子	2010.02	米麦改良(全国米麦改良協会)	2,2-8
55	新規畦畔におけるシバ(Zoysia japonica)の被覆能力の解明および二重ネット工法の紹介	伏見昭秀 長沼和夫(ゾイシアンジャパン)	2009.04	農業技術(農業技術協会)	64(4),165-168
56	「二重ネット工法」、「法面作業道の設置」および「二人作業用の広幅レシプロ式草刈機」による農村の畦畔管理技術の紹介	伏見昭秀 三谷誠次郎(鳥取県農林総合研究所農業試験場)	2009.08	圃場と土壌(日本土壌協会)	41(8),42-47
57	物理的手法とBT剤を組み合わせた害虫防除によるアブラナ科野菜の環境保全型露地栽培	萩森 学	2009.11	グリーンレポート(全農)	485,10-11

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
58	光質変換フィルムの持つ可能性を探る	浜本 浩	2009.07	近中四農研ニュース	33, 5
59	光質変換被覆資材と野菜生産	浜本 浩	2010.01	施設と園芸((社)日本施設園芸協会)	148, 14-17
60	光質制御被覆資材 試験よもやま話	浜本 浩	2010.02	平成21年度近畿中国四国農業試験 研究推進会議花き推進部会資料	*, 28-31
61	カンキツ樹の簡易な水分状態判別法の実用 化について	星 典宏	2009.05	和歌山の果樹	*, 12-16
62	高品質果実を生産するための樹体の水分ス トレスをどのように評価するか -そのア イデアと検討課題-	星 典宏	2009.09	平成21年度シンポジウム「瀬戸内 における高収益型カンキツ生産体系 を考える」	*, 13-16
63	棚田地域における施設栽培のための水供給 施設を探る	細川雅敏	2009.12	近中四農研ニュース	(35), 4
64	水稲新品種「みずほのか」の育成	飯田修一	2009.06	米麦改良(全国米麦改良協会)	6, 17-20
65	米の新規需要に関する研究の現況について	飯田修一	2009.11	日本作物学会四国支部・日本育種学 会四国談話会共催公開シンポジウム 「新規需要米の開発と需要拡大への 取組について」(日本作物学会四国 支部、日本育種学会四国談話会)	約100名
66	低グルテリン米の酒米品種「みずほのか」	飯田修一	2009.12	新しい米を創る09パンフレット(農 研機構)	*, 35
67	代表的研究成果「はいいぶき」	飯田修一	2010.03	代表的研究成果(品種)(農研機構)	*, 6
68	近畿中国四国地域の土壌肥料研究成果概要	池田順一	2009.06	季刊肥料(肥料協会新聞部)	113, 39-45
69	鉄コーティングで病気からイネ苗を守る	井上博喜	2010.03	近畿中国四国農業研究センター 2009年研究開発ターゲット成果	*, 12
70	麦作跡ヒマワリ作における土壌・雑草管理 技術開発 ~排水対策について~	井上久義 花野義雄	2010.03	斐川町バイオマス資源循環利用モデ ル構築研究会資料	*, 1-19
71	鳥獣害対策について	井上雅央	2009.04	大分県鳥獣害対策研修(大分県)	90名
72	鳥獣害対策研修	井上雅央	2009.04	鳥根県鳥獣害対策研修(鳥根県中山 間地域研究センター)	2名
73	イノシシ被害対策の仕方について	井上雅央	2009.04	NHK	3名
74	猿落君設置指導	井上雅央	2009.04	美郷町鳥獣害対策研修(吾郷婦人会)	30名
75	鳥獣被害に負けない畑づくり講習	井上雅央	2009.04	美郷町鳥獣害対策研修(吾郷婦人会)	90名
76	獣害弱者生み出さな	井上雅央	2009.04	日本農業新聞中国版コラム	4月21日,*
77	鳥の生態について	井上雅央	2009.05	社外研修(タイガー(株))	2名
78	獣害柵・獣害のとりくみについて	井上雅央	2009.05	社外研修(積水樹脂(株))	2名
79	猿落君設置指導	井上雅央	2009.05	鳥獣害対策研修(大田市立高山小学 校)	20名
80	野生獣被害の検証	井上雅央	2009.05	鳥獣害対策研修(美郷町役場)	7名
81	果樹・野菜の剪定の仕方	井上雅央	2009.05	美郷町鳥獣害対策研修(吾郷婦人会)	35名
82	イノシシ対策について	井上雅央	2009.05	鳥獣害対策研修(前田工織(株))	2名
83	防除柵の効果的な使い方・効果のあがる防 除資材の使い方を考える	井上雅央	2009.06	丹後地域鳥獣被害対策研修会(丹後 地区農業共済組合)	60名
84	鳥獣被害対策について これなら出来る獣 害対策~なぜ増える?どう防ぐ~	井上雅央	2009.06	平成21年鳥獣被害対策シンポジウ ム及び鳥獣被害防止技術現地研修会 (鹿児島県農政部)	120名
85	獣害対策は集落ぐるみで	井上雅央	2009.06	鳥獣害対策研修(三重県南牟婁郡御 浜町役場)	30名
86	イノシシの生態及び被害対策の方法等	井上雅央	2009.06	イノシシ被害対策講演会(広島県江 田島市産業部)	40名
87	獣害対策に取り組むにあたっての心構えと 防護柵の設置・メンテナンス等に関する講 義	井上雅央	2009.06	兵庫県但馬県民局豊岡農林水産振興 事務所	90名
88	鳥獣害対策について	井上雅央	2009.06	和歌山県鳥獣害対策研修(和歌山県)	200名
89	鳥獣害対策について	井上雅央	2009.06	愛媛県鳥獣害対策研修(愛媛県)	10名
90	鳥獣害・守れる畑と守れぬ畑	井上雅央	2009.06	日本農業新聞中国版コラム	6月23日,*
91	被害防止の視点と実践技術	井上雅央	2009.07	さぬき市鳥獣害対策研修(さぬき市 鳥獣害対策協議会)	120名
92	主要加害獣の行動特性と対策の講義、 防護柵設置の現地実習	井上雅央	2009.07	平成21年度静岡県鳥獣被害対策総 合アドバイザー養成研修(静岡県産 業部)	79名
93	集落指導の進め方や被害対策のポイント	井上雅央	2009.07	京都府鳥獣害対策研修(京都府農林 水産部)	35名

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
94	野生鳥獣による農林作物被害防止対策(サル対策を中心に)	井上雅央	2009.07	平成21年度第4回大分県鳥獣害対策アドバイザー研修会(大分県農林水産部)	230名
95	鳥獣害対策について	井上雅央	2009.07	鳥獣害対策研修(江田島市役所)	80名
96	鳥獣害対策について	井上雅央	2009.07	鳥獣害対策研修(積水樹脂(株))	2名
97	高速道路、鳥獣害対策について	井上雅央	2009.07	鳥獣害対策研修(西日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋)	2名
98	鳥獣害対策について	井上雅央	2009.07	鳥獣害対策研修(広島市地域農業集団連絡協議会)	30名
99	サル防除について	井上雅央	2009.07	鳥獣害対策研修(大森地区協議会)	30名
100	イノシシから飼料畑を守るには	井上雅央	2009.07	酪農ジャーナル(酪農学園大学)	7,53-55
101	イノシシ	井上雅央	2009.07	難問解決ご近所の底力(NHK)	7月19日放送
102	獣害対策の進め方と行政・JAがやるべきこと	井上雅央	2009.08	鳥獣害対策研修(和歌山県農業協同組合中央会)	50名
103	効果的な対策	井上雅央	2009.08	平成21年度日本まんなか獣害対策シンポジウム in みえ～鳥獣被害防止対策をより効果的にするために～(東海農政局生産経営流通部)	240名
104	イノシシの行動・生態・イノシシに有効な防除方法	井上雅央	2009.08	鳥獣害対策研修(伊予市鳥獣害防止総合対策協議会)	60名
105	地域で取り組む鳥獣害対策	井上雅央	2009.08	鳥獣害対策研修(江田島農家)	15名
106	イノシシの生態と被害防止対策について	井上雅央	2009.08	鳥獣害対策研修(蒲刈町柑橘振興協議会)	10名
107	猿落君改修のしかた	井上雅央	2009.08	鳥獣害対策研修(大代町自治会)	15名
108	集落環境診断法と鳥獣被害対策の進め方	井上雅央	2009.09	平成21年度静岡県鳥獣被害対策総合アドバイザー養成研修会(静岡県農業協同組合中央会)	30名
109	イノシシ被害・なぜ増える?どう防ぐ!	井上雅央	2009.09	農作物野生鳥獣被害対策研修会(宮崎県東臼杵農林振興局)	150名
110	イノシシ被害・なぜ増える?どう防ぐ!	井上雅央	2009.09	有害鳥獣対策総決起集会(大分県南部振興局)	200名
111	鳥獣害対策について	井上雅央	2009.09	鳥獣害対策研修((株)アンテック)	3名
112	鳥獣害対策について	井上雅央	2009.09	鳥獣害対策研修(久利町まちづくりセンター)	25名
113	モグラ対策	井上雅央	2009.09	現代農業(農文協)	9,236-239
114	最新 鳥獣害対策マニュアル総論編 1	井上雅央	2009.09	全国農業新聞	*
115	最新 鳥獣害対策マニュアル総論編 2 緩衝帯を活かす	井上雅央	2009.09	全国農業新聞	*
116	最新 鳥獣害対策マニュアル総論編 3 追い払いを活かす	井上雅央	2009.09	全国農業新聞	*
117	柵設置事業の有効活用	井上雅央	2009.09	日本農業新聞中国版コラム	9月1日,*
118	集落をエサ場にしないための第一歩	井上雅央	2009.10	第16回ふるさと水と土基金全国研修会(全国土地改良事業連合会)	150名
119	イノシシ被害・なぜ増える?どう防ぐ!	井上雅央	2009.10	獣害対策に係る「関係職員研修会」及び地域研修会(三重県熊野農林商工環境事務所)	30名
120	みんなで取り組む獣害対策	井上雅央	2009.10	鳥獣害対策研修(東牟婁振興局)	70名
121	イノシシ被害・なぜ増える?どう防ぐ!	井上雅央	2009.10	鳥獣害対策研修(白浜町鳥獣害防止対策協議会)	40名
122	効果的な防除対策	井上雅央	2009.10	伊根町有害鳥獣被害対策現地研修会(伊根町地域担い手育成総合支援協議会)	60名
123	鳥獣害対策について	井上雅央	2009.10	鳥獣害対策研修(東京農工大)	5名
124	鳥獣害対策について	井上雅央	2009.10	鳥獣害対策研修(大屋町婦人部)	20名
125	鳥獣害対策について	井上雅央	2009.10	鳥獣害対策研修(三木特種製紙)	4名
126	有効な鳥獣害対策の調査	井上雅央	2009.10	三重県県議会鳥獣害対策研修(三重県議会事務局)	10名
127	被害対策について	井上雅央	2009.10	真庭市鳥獣害対策研修(岡山県真庭市役所)	2名
128	鳥獣害対策について	井上雅央	2009.10	宮崎市鳥獣害対策研修(宮崎市議会事務局)	9名

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
129	最新 鳥獣害対策マニュアル総論編 4 駆除を活かす	井上雅央	2009.10	全国農業新聞	*
130	イノシシ被害・なぜ増える?どう防ぐ!	井上雅央	2009.11	公開講座「急増するイノシシ被害とかしこい防ぎ方」(千葉県農林水産部)	450名
131	野生鳥獣による農林作物被害防止対策	井上雅央	2009.11	大分県鳥獣害対策シンポジウム(中部)(大分県農林水産部)	150名
132	鳥獣害対策について	井上雅央	2009.11	鳥獣害対策講演会(敦賀市鳥獣害対策協議会)	200名
133	サル農林作物被害防止について	井上雅央	2009.11	平成21年度鳥獣害対策地域検討会(熊本県農林水産部)	60名
134	鳥獣害対策について	井上雅央	2009.11	川合町鳥獣害対策研修(大田市川合町町づくりセンター)	15名
135	鳥獣害対策 行政の関わり方	井上雅央	2009.11	宮崎県鳥獣害対策研修(宮崎県)	4名
136	深刻な獣害を逆に山里を元気づける	井上雅央	2009.11	21世紀の日本を考える	*, 66-71
137	ヒューマンエラーが引き起こす鳥獣害の実態と被害防止対策の新たな展開	井上雅央	2009.11	農研機構シンポジウム「ヒューマンエラーの複合としてみた鳥獣害対策の展開」(近畿中国四国農業研究センター)	約300名
138	最新 鳥獣害対策マニュアル各論編 3 シカ	井上雅央	2009.11	全国農業新聞	*
139	獣害対策と安全対策	井上雅央	2009.11	日本農業新聞中国版コラム	11月10日,*
140	イノシシ被害・なぜ増える?どう防ぐ!	井上雅央	2009.12	獣害対策担当者向け研修(三重県熊野農林商工環境事務所)	30名
141	これならできる獣害対策~なぜ増える・どう防ぐ!~	井上雅央	2009.12	松阪地域獣害対策研修会(松阪地域農業振興協議会)	50名
142	猪・鹿・猿による農作物被害を軽減するための指導	井上雅央	2009.12	(和歌山県東牟婁郡那智勝浦町鳥獣害防止対策協議会)	90名
143	鳥獣害の考え方	井上雅央	2009.12	鳥獣害対策研修(普通寺)	1名
144	獣害のおかげでみんな元気になったよ	井上雅央	2009.12	グリーンレター	31, 12-15
145	鳥獣害対策について	井上雅央	2010.01	鳥獣害対策研修(宮城県大河原地方振興事務所)	3名
146	イノシシ等の行動・生態及び有効な防除方法	井上雅央	2010.01	鳥獣害対策研修(勝北地域活動組織)	60名
147	サル・イノシシの行動・生態・有効な防除・追い払い方法	井上雅央	2010.01	鳥獣害対策研修(真庭市鳥獣被害防止対策協議会)	62名
148	獣害対策の進め方	井上雅央	2010.01	一斉捕獲研究会(茨城県笠間市産業経済部)	60名
149	新春の鳥獣対策	井上雅央	2010.01	日本農業新聞中国版コラム	*
150	鳥獣を誘引しない営農管理とは?	井上雅央	2010.02	「営農管理的アプローチによる鳥獣害防止技術の開発」成果発表会(農林水産省)	*
151	獣害対策は集落ぐるみで	井上雅央	2010.02	獣害研修会(御浜町鳥獣害防止総合対策協議会)	*
152	目からうろこの鳥獣害対策	井上雅央	2010.02	奈良県農業総合センター成果発表会(奈良県農業総合センター)	*
153	獣害対策に強い集落づくりについて	井上雅央	2010.02	鳥獣被害対策研修会(能勢町有害鳥獣対策協議会)	*
154	事例から学ぶ鳥獣被害対策について	井上雅央	2010.02	鈴鹿市地域住民獣害対策研修会(鈴鹿市鳥獣被害防止対策協議会)	*
155	イノシシ被害・なぜ増える?どう防ぐ!	井上雅央	2010.02	獣害対策研修会(東近江農業農村振興事務所)	*
156	地域あげての被害防止対策について	井上雅央	2010.02	イノシシ被害防止対策研修会(佐賀市鳥獣害対策協議会)	*
157	イノシシ被害・なぜ増える?どう防ぐ!	井上雅央	2010.03	大分県中部振興局	*
158	イノシシ被害・なぜ増える?どう防ぐ!	井上雅央	2010.03	大分県	*
159	イノシシ被害・なぜ増える?どう防ぐ!	井上雅央	2010.03	獣害対策講演会(群馬県沼田市)	*
160	イノシシ被害・なぜ増える?どう防ぐ!	井上雅央	2010.03	和歌山県	*
161	効率的な被害防止対策とは	井上雅央	2010.03	自治創造塾(三重県自治会館組合)	*
162	イノシシ被害・なぜ増える?どう防ぐ!	井上雅央	2010.03	野生鳥獣被害対策講演会(京都府農林水産部)	*
163	イノシシ被害・なぜ増える?どう防ぐ!	井上雅央	2010.03	静岡県伊豆の国市	*

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号), 頁, 参加者数
164	サル対策	井上雅央	2010.03	静岡県	*
165	イノシシ被害・なぜ増える? どう防ぐ!	井上雅央	2010.03	栃木県	*
166	野生鳥獣被害対策の進め方	井上雅央	2010.03	野生鳥獣被害対策講演会(京都府農 林水産部)	*
167	イノシシ被害・なぜ増える? どう防ぐ!	井上雅央	2010.03	静岡県伊豆の国市	*
168	サル対策	井上雅央	2010.03	静岡県	*
169	有害鳥獣を寄せ付けないより効果的な集落 づくり	井上雅央	2010.03	鳥獣対策研修会(豊後高田市有害 鳥獣被害防止対策協議会)	*
170	被害の原因について	井上雅央	2010.03	鳥獣対策研修会(紀北町鳥獣害防止 総合対策協議会)	*
171	農家が地域で実践できる鳥獣害対策につい て	井上雅央	2010.03	和海地方鳥獣害対策研修会(和歌山)	*
172	そうめん用小麦新品種「ふくはるか」	石川直幸	2009.09	平成22年版農業日誌	*, 156-157
173	日本における麦の生産と品種-近畿中国四 国地域的小麦を中心として-	石川直幸	2009.10	平成21年度米麦改良現地研修会(全 国米麦改良協会)	約50名
174	温暖地における小麦の品種と栽培技術	石川直幸	2010.03	平成21年度麦・大豆生産振興研修 会(岐阜県)	約120名
175	サトウキビと窒素	石川葉子	2009.07	飼料キビ会議(徳之島生涯学習セン ター)	*
176	世界のさとうきび栽培管理技術について~ ISSCTの第8回栽培分野ワークショップ参 加報告~	石川葉子 安藤泰太郎	2009.10	砂糖類情報	157, 18-25
177	飼料としてのサトウキビとその研究	石川葉子	2010.03	近中四農研ニュース	36, 6
178	新たな窒素肥効分析法に基づいた家畜ふん 堆肥の施用支援ツール	石岡 巖	2009.04	平成21年度関東東海土壌肥料技術 連絡協議会春季研究会	約120名
179	施用当分の窒素肥効を考慮した家畜ふん堆 肥の利用	石岡 巖	2009.07	たい肥適正利用講習会(新潟県新潟 地域振興局巻普及指導センター・新 潟西部地域農業振興協議会園芸部 会)	約20名
180	施用当分の窒素肥効を考慮した家畜ふん堆 肥の利用	石岡 巖	2009.08	平成21年度家畜排せつ物たい肥の 新窒素肥効評価法研修会(愛知県農 林水産部畜産課)	約30名
181	家畜ふん堆肥抽出の肥料成分を利用した減 化学肥料栽培	石岡 巖	2009.09	日本農民新聞	9月15日, 4
182	家畜ふん堆肥の窒素肥効の遅速に基づく評 価法 第13報 普及現場に対応した家畜ふ ん堆肥施用支援ツール	石岡 巖 村上圭一(三重農研) 加藤直人 棚橋寿彦(岐阜農技) 小柳渉(新潟畜研) 平柳恵子(新潟畜研) 柴田正貴(畜環機構)	2009.09	日本土壌肥料学会2009年京都大会 ポスター賞	*
183	新たな窒素肥効分析法に基づいた家畜ふん 堆肥の施用支援ツール	石岡 巖	2009.09	NARO RESEARCH PRIZE 2009	*
184	病害虫図鑑「キクしろサビ病」	伊藤陽子	2009.10	日本農業新聞	*, 14
185	野菜・花の病気あれこれ	伊藤陽子	2009.10	近畿中国四国農業研究センター綾部 研究拠点一般公開講演会	約50名
186	数学を活かして養液栽培技術を開発する	笠原賢明	2009.07	近中四農研ニュース	33, 3
187	数学を使って養液栽培技術を開発する~装 置の設計から培養液の管理まで~	笠原賢明 川嶋浩樹	2009.07	サマー・サイエンスキャンプテキス ト~地域に根ざした農業について学 ぶ~	*
188	トマト栽培のための傾斜地用養液栽培装置 の培養液管理技術-理論と実際-	笠原賢明	2009.09	平成21年度農政課題解決研修「施 設野菜の省力・低コスト生産技術」 研修資料	*
189	「農」に関連するNPO法人の特徴	加藤克明	2009.07	平成21年度営農部会・問題別研究 会(口頭報告)	*
190	農作業体験を促進する組織の解明	加藤克明	2009.09	近中四農研ニュース	34, 4
191	原色植物ダニ検索図鑑23 トマトツメナシ コハリダニ	芝 実(松山東雲短大) 河合 章	2009.05	全国農村教育協会	*, 105-106
192	地域資源を生かした中山間農業の活性化	河合 章	2009.12	明日を開く四経連	567, 2
193	近中四農研センターにおける社会科学系研 究への期待	川上秀和	2009.07	近中四農研ニュース	33, 2
194	自由回答アンケート結果の分析手法	川上秀和	2009.11	近畿中国四国農業経営研究	20, 1-7

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
195	豆腐の正体に迫る ～その性質を知る～	川瀬眞市朗	2009.10	平成21年度近畿中国四国農業研究センター市民フォーラム公開講座(近畿中国四国農業研究センター)	20名
196	被覆資材の基礎知識	川嶋浩樹	2009.05	第11回施設園芸技術初級講座	*
197	被覆資材	川嶋浩樹	2009.09	第4回施設園芸技術中級講座	*
198	平成20年度施設花き省エネ技術緊急導入促進総合事業-事業成果「省エネルギーにつながる被覆資材導入の手引き」の紹介	川嶋浩樹	2009.10	施設と園芸((社)日本施設園芸協会)	147, 76-77
199	「施設園芸用」生分解性資材への期待	川嶋浩樹	2009.11	農業用生分解性資材の手引き	*, 28-29
200	赤外線反射・吸収被覆資材(遮熱フィルム)の利用	川嶋浩樹	2010.01	農業技術大系花卉編(農山漁村文化協会)	3(486), 16-20
201	水稲の害虫防除のポイント	菊地淳志	2009.06	農業共済新聞	6月3日, 8
202	みんなの農業広場 農作業便利帖 大豆編 虫害防除	菊地淳志	2009.07	全国農業改良普及協会	http://www.jeinou.com/benri/wheat/2009/07/150937.html
203	病害虫図鑑 ミナミアオカメムシ	菊地淳志	2009.07	日本農業新聞	7月16日, 14
204	大豆の虫害対策	菊地淳志	2009.08	平成21年度農政課題解決研修「大豆の高品質、安定生産増収技術」	約20名
205	マルカメムシの加害が大豆の生育に与える影響	菊地淳志	2010.03	近中四農研ニュース	36, 4
206	各種培地による夏秋トマト栽培への取り組みについて	木下貴文	2009.09	第3回産学官連携新産業創出研究会「防根給水紐」による果菜類の省力・環境負荷低減型栽培手法の確立」研究会	約15名
207	農研機構シンポジウム「地域資源活用による低コスト・省エネを目指した施設園芸生産の新たな展開	木下貴文	2009.09	ハイドロポニックス(日本養液栽培研究会)	23(1), 4-5
208	イタリアンライグラスを用いた冬季放牧	小林英和 松本和典 高橋佳孝 山本直幸	2009.12	平成21年度中国四国地域マッチングフォーラム(農林水産省農林水産技術会議事務局、(独)農研機構近畿中国四国農業研究センター)	*, 16
209	ウシ初期妊娠関連遺伝子群の解析を通じた繁殖性向上の展開	小島孝敏	2010.02	平成21年度畜産草地分野研究交流会	*, 13
210	中耕ロータリを利用した簡易な不耕起播種機	窪田 潤	2009.04	NARO 代表的研究成果(2009)(農研機構)	*, 8
211	飼料イネ乾田直播栽培の取り組み	窪田 潤	2009.07	水稲直播研究会(鳥取県水稲直播研究会)	約30名
212	温暖地湿田における不耕起栽培の課題と対策	窪田 潤	2009.08	平成21年度農林水産省委託プロジェクト研究「担い手の育成に資するIT等を活用した新しい生産システムの開発-超低コスト土地利用型作物生産技術の開発(温暖地乾田型水田輪作地帯、温暖地湿田型水田輪作地帯)」合同現地検討会(農研機構)	約50名
213	不耕起播種機及び密条無中耕無培土栽培(担い手プロ)の開発状況	窪田 潤	2010.02	平成21年度近畿中国四国農業試験研究推進会議作物生産部会(農研機構)	約80名
214	体に役立つカンキツの成分を探る	國賀 武	2009.07	サマー・サイエンスキャンプ地域に根ざした農業について学ぶテキスト	IV, 1-10
215	カンキツ類はどこから来たか? (一)	國賀 武	2009.11	香川の果樹(香川県果樹研究同志会)	23(1), 27-30
216	カンキツ類はどこから来たか? (二)	國賀 武	2009.11	香川の果樹(香川県果樹研究同志会)	23(2), 27-30
217	カンキツ類はどこから来たか? (三)	國賀 武	2009.11	香川の果樹(香川県果樹研究同志会)	23(4), 19-23
218	カンキツ類はどこから来たか? (四)	國賀 武	2010.01	香川の果樹(香川県果樹研究同志会)	23(5), 27-30
219	カンキツ類はどこから来たか? (五)	國賀 武	2010.03	香川の果樹(香川県果樹研究同志会)	23(6), 22-25
220	農耕地における微気象の把握方法と調査事例の報告	黒瀬義孝	2009.11	野菜茶業課題別研究会	*, 22-29
221	温暖化の現状と暖地温暖化研究チームでの取り組み	黒瀬義孝	2010.03	平成21年度中国四国病害虫防除所職員等研修会	*
222	安定生産につなげる環境制御技術～換気と気流制御について～	畔柳武司	2009.09	平成21年度農政課題解決研修「施設野菜の省力・低コスト生産技術」	*

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
223	放牧を活用した経産牛の高付加価値化技術	松本和典	2009.05	第19回西日本食品産業創造展	10,000名以上
224	牛肉の色はなぜ赤い?	松本和典	2009.11	元気の出る地域ブランドセミナー(大田市)	約80名
225	放牧を活用した経産牛の高付加価値化技術1～放牧経産牛肉の機能性～	松本和典	2009.12	中国四国地域アグリビジネス	*
226	放牧を活用した経産牛の高付加価値化技術2～放牧経産牛肉のおいしさ～	松本和典	2009.12	中国四国地域アグリビジネス	*
227	放牧で仕上げた黒毛和種経産牛の食味性	松本和典	2009.12	平成21年度中国四国地域マッチングフォーラム(農林水産省農林水産技術会議事務局、(独)農研機構近畿中国四国農業研究センター)	*, 18
228	特集:放牧効果を再確認黒毛和種経産牛の放牧仕上げ肥育	松本和典	2010.03	養牛の友(日本畜産振興会)	*, 18-21
229	飼料用稲「中国飼198号」開発 もみ少なく高栄養	松下 景	2009.05	日本農業新聞	5月21日, 16
230	茎葉の糖含量が高く、耐倒伏性が強い飼料イネ有望系統「中国飼198号」	松下 景	2009.10	平成21年度津山地域飼料稲生産利用研究会第2回研修会(津山地域飼料稲生産利用研究会)	約60名
231	飼料イネの品種について	松下 景	2009.11	津和野町農業担い手育成総合支援協議会視察研修(近畿中国四国農業研究センター)	約20名
232	飼料用米・稲WCS用イネ品種育成の現状と「中国飼198号」について	松下 景	2009.12	山口県草地研究会平成21年度第2回研究会(山口県草地研究会)	約30名
233	稲WCS・飼料用米に適したイネ品種育成の現状について	松下 景	2009.12	飼料イネ作付・利用に関する研修会(社団法人広島県畜産協会)	約50名
234	昆虫の研究に対する細胞内共生微生物感染の問題点	三浦一芸 渡部真也(広島大)	2009.12	植物防疫((社)日本植物防疫協会)	*, 765-769
235	病害虫図鑑 イネ苗立枯細菌病	宮川久義	2009.04	日本農業新聞	4月2日, 14
236	農作物病害防除への新たな甘草抽出物(甘草抽出物MZ-1)の利用	宮川久義	2009.11	月刊フードリサーチ((株)食品研究社)	*, 36-39
237	流域からの水・栄養塩負荷推定モデルー土地利用モデルー	望月秀俊	2010.03	水と栄養塩の動きを探り、役立てる	*, 9
238	II 備讃地域陸海域の水・栄養塩動態解明 2 備讃地域陸域からの負荷量推定技術 3) 土地利用モデル	望月秀俊	2010.03	実用技術開発事業1947最終報告書	*
239	作物を育てて、育つ心～子どもの農業体験学習～	室岡順一	2009.10	平成21年度近畿中国四国農業研究センター市民フォーラム公開講座(近畿中国四国農業研究センター)	*
240	テキストマイニングによる集団意識の把握	室岡順一	2009.11	近畿中国四国農業経営研究	20, 19-32
241	作物を育てて、育つ心～子どもの作文からみた「食」と「農」～	室岡順一	2010.02	食の大切さを考える!食育実践者向け勉強会inなら	*
242	換気性に優れた低コスト高強度ハウスを作る	長崎裕司	2009.04	平成22年版農業日誌(財団法人農林統計協会)	*, 94-95
243	平張型ハウス構造概要と設計・施工方法	長崎裕司	2009.09	平成21年度農政課題解決研修「施設野菜の省力・低コスト生産技術」	約20名
244	近畿中国四国地域における加工・業務用野菜に関する取り組み	長崎裕司	2009.09	平成21年度九州沖縄農業試験研究推進会議農業機械・土木研究会	約50名
245	オーダーメイド化を可能にする平張型ハウス施工法	長崎裕司	2009.10	農耕と園芸((株)誠文堂新光社)	*, 57-59
246	(独)農研機構 近畿中国四国農業研究センターにおける研究開発事例と産学官連携	長崎裕司	2010.02	平成21年度産学官連携コーディネーションセミナー(岡山)	*
247	特集「地域特産物に対応した農業機械・作業技術開発」によせて	長崎裕司	2010.03	農作業研究	45(1), 50-51
248	胴割れ米の発生要因と品種間差異	長田健二	2009.07	交付金プロ「温暖化適応」平成21年度現地研究会(農研機構)	約40名
249	温暖化が水稻生産におよぼす影響と適応策	長田健二	2009.08	平成21年度近畿地域稲作中間検討会(近畿農政局)	約20名
250	近年の気象変動下における米作りの基本課題	長田健二	2009.11	京都・米あじインブルーヴメント研究会(KKIK)秋の定期研究会(京都・米あじインブルーヴメント研究会)	約10名
251	高温登熟障害ー米の胴割れについてー	長田健二	2009.12	植調(財団法人日本植物調節剤研究協会)	43(3), 373-379

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
252	温暖化が水稲生産におよぼす影響と適応策	長田健二	2009.12	農業者大学校専修科水田コース(農業者大学校)	約10名
253	高温化による胴割れ米の発生とその軽減技術	長田健二	2009.12	平成21年度滋賀県農業技術振興センターゼミナール(滋賀県農業技術振興センター)	約60名
254	水稲高温登熟障害対策について	長田健二	2010.01	JAあずみ食糧専門委員会研修(JAあずみ)	14名
255	高温期における水稲栽培での品質向上対策	長田健二	2010.02	えひめ南農業協同組合南宇和営農センター稲作部会研修(えひめ南農業協同組合南宇和営農センター)	約20名
256	西日本における超多収稲の栽培法の基本	長田健二	2010.02	みんなの農業広場 農作業便利帳((社)全国農業改良普及支援協会、(株)クボタ)	http://www.jeinou.com/benri/rice/2009/04/220955.html
257	1,100g/m ² を超える水稲多収事例とその生育および乾物生産特性	長田健二 佐々木良治 大平陽一	2010.03	平成21年度近畿中国四国農業試験研究推進会議 作物生産推進部会 問題別研究会 育種栽培検討会 栽培研究会	約50名
258	傾斜地柑橘園の機械化の可能性	中元陽一	2009.09	09 四国・中国地域農業フォーラム	約30名
259	話題のカンキツ品種「かんきつ中間簿本農6号」	根角博久	2009.07	柑橘(静岡県経済農業協同組合連合会みかん園芸部)	*, 18-21
260	話題のカンキツ品種「かんきつ中間簿本農5号」	根角博久	2009.08	柑橘(静岡県経済農業協同組合連合会みかん園芸部)	*, 12-15
261	新品種・地域資源の活用による地域ブランドの確立	根角博久	2009.09	新ブランド品「たまみ」の産地化に向けた取り組み(愛媛県越智郡上島町産業振興課)	*
262	話題のカンキツ品種「スイートスプリング」	根角博久	2009.11	柑橘(静岡県経済農業協同組合連合会みかん園芸部)	*, 22-24
263	小麦ふすまの食品素材化へのアプローチー 血圧降下ペプチドの簡易製造法の開発ー	野方洋一	2009.09	近中四農研ニュース	34, 3
264	糠から血圧降下ペプチドを生成	野方洋一	2009.09	食と農の研究メールマガジン	9月1日, http://www.afftis.or.jp/IP/special/090831.pdf
265	血圧降下ペプチド 小麦殻で製造 商品化へ	野方洋一	2009.11	中国新聞	11月12日, 27
266	小麦に血圧降下物質 廃棄ふすまから生成	野方洋一	2009.12	日本農業新聞	12月5日, 1
267	小麦の種皮からペプチド、血圧降下に作用	野方洋一	2009.12	YOMIURI ON LINE 科学	12月7日, http://www.yomiuri.co.jp/science/news/20091207-OYT1T00384.htm
268	ふすまからペプチド 簡便で安価 血圧降下に作用	野方洋一	2009.12	読売新聞	12月7日, 30
269	小麦殻から血圧降下ペプチド	野方洋一	2009.12	GO! GO! ビンゴー!(エフエム福山)	12月9日 放送
270	レタスビッグベイン病の媒介菌を検出できる抗体の作製	野見山孝司	2009.09	近中四農研ニュース	34, 5
271	レタスビッグベイン病の土壌診断の展望	野見山孝司	2009.12	レタスビッグベイン病研究成果報告会	約170名
272	飼料イネ種子の越冬後の発芽・出芽能力と飼料イネ種子に由来する漏生イネの発生抑制について	大平陽一	2009.12	植調(財団法人日本植物調節剤研究協会)	43(9), 18-23
273	落下種子対策	大平陽一	2009.12	飼料用米の生産・給与技術マニュアル	http://nilgs.naro.affrc.go.jp/project/esaapro/esa-data/r-manual.htm
274	食用イネ移植圃場における除草剤散布による飼料イネ種由来の漏生イネの防除	大平陽一 佐々木良治 長田健二	2010.03	平成21年度近畿中国四国農業試験研究推進会議 作物生産推進部会 問題別研究会 育種栽培検討会 栽培研究会	*, 15-16
275	飼料イネ品種「クサノホシ」の漏生イネの出芽率は冬や春よりも秋の耕起によって低下する	大平陽一	2010.03	近畿中国四国農業研究センター 2009年研究開発ターゲット成果	*, 2

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
276	海外で見たことーオーストラリアの農業技術開発の現場からー	大呂興平	2010.03	近中四農研ニュース	36, 10
277	オーストラリアの農業技術開発・普及システムの日本への適用可能性に関する研究	大呂興平	2010.03	所特定研究成果発表会	*
278	単収が向上しない要因と対策について	岡部昭典	2009.07	近畿産大豆新技術導入・定着、需要拡大協議会(近畿農政局)	約30名
279	大豆300A研究における不耕起栽培技術の開発	岡部昭典	2009.10	近畿産大豆新技術導入・定着、需要拡大協議会	*, 17-27
280	畝立て・施肥・マルチの同時作業を対象とした速度連動施肥制御システム	奥野林太郎 窪田潤 亀井雅浩 池田順一	2009.08	近畿中国四国地域における新技術(近畿中国四国農業研究推進会議)	8, *
281	車両内ネットワークを用いた速度連動施肥システム	奥野林太郎	2009.09	平成21年度近畿中国四国地域農業試験研究推進会議 農業環境工学部会 問題別研究会(作業技術)会議資料	34名
282	農業用車両用CANバスシステムの概略と近中四農研での取り組み事例	奥野林太郎	2009.11	第4回「農業ロボット開発研究会」会議資料	約20名
283	簡易摩砕法を用いたRIPAによるトマト黄化葉巻病の診断	大崎秀樹 野見山孝司 石川浩一	2010.03	平成21年度近畿中国四国・生産環境推進部会問題別研究会	*
284	繁殖と飼養管理	大島一修	2009.07	社団法人高知県畜産会研修会	30名程度
285	分娩後早期の過剰排卵処置・胚回収による1年1産を基にした繁殖効率の向上	大島一修	2009.12	平成21年度中国四国地域マッチングフォーラム(農林水産省農林水産技術会議事務局、(独)農研機構近畿中国四国農業研究センター)	100名程度
286	防草シートを利用した畦畔法面及び道路法面の緑化技術	大谷一郎	2009.04	農業技術(農業技術協会)	64(4), 161-164
287	緑地場面で使われるグラウンドカバープランツの特性と現場での利用状況	大谷一郎	2010.01	平成21年度緑地管理研究会(財団法人日本植物調節剤研究協会)	148名
288	グラウンドカバープランツの植栽におけるジュートのシートの適用	大谷一郎 伏見昭秀	2010.03	カバークロープ研究	4, 65-67
289	新技術導入と高品質果実のブランド化による産地づくりのための課題ー和歌山県有田地域におけるマルドリ方式導入の取り組みを対象としてー	齋藤仁蔵	2009.09	平成21年度シンポジウム・現地検討会「瀬戸内における高収益カンキツ生産体系を考える」	*, 5-8
290	マルドリ方式(周年マルチ点滴かん水同時施肥法)	齋藤仁蔵	2010.01	農業経営通信	242, 9
291	ガン、ウィルス感染を防御する免疫系を賦活する食品成分の探索	齋藤 武 阿部大吾 関谷敬三	2010.03	所特定研究成果発表会	*
292	水田輪作新技術の導入効果ー中国中山間地域の労働力の特徴を反映した経営計画モデルによるー	坂本英美	2009.12	平成21年度近畿農業経営研究会報告要旨	*
293	水稻の高温登熟障害研究の現在と高温登熟性の高い品種の育成について	佐々木良治	2009.07	JAえひめ南三間支所稲作部会研修会	約20名
294	2. 飼料米生産における栽培管理。(2) 地域別栽培法. ⑤近畿・中国・四国地域の飼料用米栽培. ア. 移植栽培.	佐々木良治	2009.11	飼料用米の生産・給与技術マニュアル	*, 29-30
295	水稻高温登熟障害対策について	佐々木良治	2010.02	筑後地区水稻育苗連絡協議会	約10名
296	水稻の高温登熟障害対策技術	佐々木良治	2010.02	東予農業共済組合稲作研修会	30名
297	脂肪細胞分化と生薬・食品成分	関谷敬三	2009.08	第26回和漢医薬学会学術大会	26(suppl.), 17
298	メタボ予防食品の開発ー大小の脂肪細胞ー	関谷敬三	2009.10	平成21年度近畿中国四国農業研究センター市民フォーラム公開講座(近畿中国四国農業研究センター)	*
299	小さな脂肪細胞を作るカンキツ成分	関谷敬三	2010.03	財団法人食生活情報サービスセンター 野菜等健康食生活協議会 野菜等健康機能調査小委員会報告書およびホームページ	*
300	オリーブの効能成分と働きについて	関谷敬三	2010.03	日経ヘルスブルミエ(2010年4月号、日経BP社)	*, 43-55
301	農作物成分による脂肪細胞機能改善とメタボリックシンドロームの予防	関谷敬三	2010.03	2009年度第5回農研機構産学官連携交流セミナー資料	24, 42-43
302	飛ばないテントウムシで害虫駆除	世古智一	2009.04	広島お好みワイド(NHK)	4月7日放送

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
303	飛ばないテントウムシで害虫駆除	世古智一	2009.04	地域発!ぐるっと日本(NHK)	4月19日 放送
304	飛ばないナミテントウ交配 生物農薬可能性探る	世古智一	2009.06	中国新聞	6月8日
305	飛ばないナミテントウを利用したアブラムシ防除技術の開発	世古智一	2009.06	桑原しおりの基町こまち(RCCラジオ)	6月18日 放送
306	飛翔能力を欠くナミテントウについて	世古智一	2009.10	おはようときめきタイム(FMふくやま)	10月13日 放送
307	遺伝的に飛ばないナミテントウを利用したアブラムシ防除技術の開発	世古智一	2009.12	近中四農研ニュース	35, 3
308	香川県立農業大学校農業気象学講義(計8回)	柴田昇平	2009.09-10	農業気象学講義資料	*
309	地中熱交換空気を局所施用した夏秋トマトの生産性	柴田昇平	2009.11	地球温暖化と農林水産業—環境・食卓の現在と未来—	*, 48
310	領域気象モデルを用いた気象シミュレーションによる太陽電池発電量分布の予測	柴田昇平	2010.03	近畿中国四国農業研究センター2009年研究開発ターゲット成果	*, 15
311	マルドリ導入におけるかん水施設の計画・設計	島崎昌彦	2009.09	シンポジウム・瀬戸内における高収益型カンキツ生産体系を考える	*, 9-12
312	カンキツの新しい栽培技術「マルドリ方式」の開発と普及	島崎昌彦	2009.09	ハイドロポニックス(日本養液栽培研究会)	23(1), 14-15
313	果樹園におけるかん水施設の設計・施工技術	島崎昌彦	2009.09	平成21年度新技術活用研修(果樹)(兵庫県)	*
314	高品質みかんを連年安定生産できる技術体系	島崎昌彦	2010.01	グリーンレポート	26(1), 6-7
315	粗飼料多給牛肉で何が起きているのか? ~その特徴を牛肉の発現タンパク質の網羅的解析から検討する~	柴田昌宏	2009.11	農林水産省委託プロジェクト研究「粗飼料多給による日本型家畜飼養技術の開発」(えさプロ)研究成果発表会	*, 6-9
316	緩和策(温室効果ガス削減)に関するコメント	下田星児	2009.11	第6回北農研研究会	約30名
317	肥培管理の異なる暖地野菜畑における土壌生物相の解析	須賀有子 佐藤恵利華	2009.09	eDNAシンポジウム(ポスター発表)	*
318	温暖化に伴う中山間地の中小規模ハウスにおける暑熱対策	菅谷 博	2009.06	平成21年度中国四国農業気象協議会(大阪管区気象台&中国四国農政局)	約40名
319	日本で初めての二条裸麦実用品種「ユメサキボシ」の育成	高橋飛鳥 長嶺 敬 柳沢貴司	2009.06	米麦改良(全国米麦改良協会)	2009.06, 21-26
320	HINb-2欠失変異を判別するDNAマーカーにより穀粒硬度が高い系統を選抜できる	高橋飛鳥 池田達哉 高山敏之(栃木農試) 長嶺 敬 柳沢貴司	2010.03	近畿中国四国農業研究センター2009年研究開発ターゲット成果	*, 14
321	一級河川における栄養塩流出量の長期変動解析 - SWAT モデルの適用	清水裕太(広島大) 小野寺真一(広島大) 高橋英博	2009.09	瀬戸内海研究フォーラム in 大阪	*
322	備讃瀬戸流域における水・栄養塩流出モデル解析	高橋英博	2009.12	平成21年度第6回陸域環境研究会(広島大学)	約20名
323	水と栄養塩の動きを探り、農業に役立てる	高橋英博	2010.02	実用技術開発事業広報パンフレット	*, 7
324	水田転換畑に対応したヒマワリの播種技術	高橋仁康 窪田 潤 藤本 寛 亀井雅浩 奥野林太郎	2009.08	近畿中国四国地域における新技術(近畿中国四国農業研究推進会議)	8, *
325	知っておきたい放牧の効果(6)	高橋佳孝	2009.05	養牛の友(日本畜産振興会)	*, 65-67
326	知っておきたい放牧の効果(7)	高橋佳孝	2009.07	養牛の友(日本畜産振興会)	*, 66-69
327	地域資源を有効活用した放牧の新たな展開	高橋佳孝	2009.07	平成21年度肉用牛中央研修会(全国肉用牛振興基金協会)	約50名
328	知っておきたい放牧の効果(8)	高橋佳孝	2009.09	養牛の友(日本畜産振興会)	*, 72-75
329	森の国で、野原を守る 一人の営みが育む里山の草原環境と多様な生態系サービス	高橋佳孝	2009.09	平成21年度近畿中国四国農業試験研究推進会議作物生産部会問題別研究会「畦畔における草原環境の保全と省力管理」(近農研)	約20名
330	「肉用牛放牧の手引き」改訂版~荒れた農地牛が草刈り 飼料費減らし 景観保全~	高橋佳孝	2009.09	畜産技術(畜産技術協会)	2009.09, 30

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
331	地域資源を活用した肉用牛放牧の奨め	高橋佳孝	2009.10	平成21年度中央畜産技術研修会肉用牛(農林水産省生産局)	約60名
332	知っておきたい放牧の効果(9)	高橋佳孝	2009.11	養牛の友(日本畜産振興会)	*,62-65
333	国立公園の管理運営について	高橋佳孝	2009.11	平成21年度自然保護官研修Ⅲ(環境省環境調査研修所)	約30名
334	阿蘇の草原は世界の宝	高橋佳孝	2009.11	阿蘇世界文化遺産シンポジウム(阿蘇世界文化遺産登録推進協議会)	約250名
335	地域資源を活用した肉用牛放牧の奨め	高橋佳孝	2009.11	肉用牛繁殖基盤強化総合対策事業(新規参入円滑推進事業)の新規中央畜産会)	約15名
336	三瓶山地域における絶滅危惧植物ムラサキセンブリの衰退と保全	井上雅仁(三瓶自然館) 高橋佳孝	2009.11	第12回自然系調査研究機関連絡会議(NORNAC)調査研究・事例発表会(環境省自然環境局生物多様性センター)	約40名
337	小規模移動放牧の指導普及マニュアル「よくわかる移動放牧Q&A」の刊行について	高橋佳孝	2009.12	平成21年度中国四国地域マッチングフォーラム(農林水産省農林水産技術会議事務局、(独)農研機構近畿中国四国農業研究センター)	約100名
338	放牧を活用した肉用牛振興についてー地域資源を活用した肉用牛放牧の奨めー	高橋佳孝	2009.12	平成21年度長崎県肉用牛振興ビジョン21研修大会(長崎県畜産協会)	約140名
339	知っておきたい放牧の効果(10)	高橋佳孝	2010.01	養牛の友(日本畜産振興会)	*,60-63
340	耕作放棄地を活用した和牛放牧について	高橋佳孝	2010.01	遊休地解消研修会(現地実演会)(淡路市担い手育成総合支援協議会)	約100名
341	里山草原環境の再生に向けー草本バイオマスの循環利用がキーワードー	高橋佳孝	2010.01	ワークショップ「里山バイオマスの地域循環に向けてー針葉樹も広葉樹も竹も草もー」(NPO法人緑と水の連絡会議・NPO法人もりふれ倶楽部)	約70名
342	牛放牧が創り出す豊かな世界を見てみようー放牧も水田作目の一つにー	高橋佳孝	2010.02	平成21年大分県水田・里山放牧推進大会(大分県)	約500名
343	いのちあふれる阿蘇の草原を未来へー阿蘇草原再生協議会の活動ー	高橋佳孝	2010.02	生物多様性EXPO2010(環境省)	約40名
344	知っておきたい放牧の効果(11)	高橋佳孝	2010.03	養牛の友(日本畜産振興会)	**,*
345	草原再生への挑戦ー生態系サービスの再評価と草本バイオマスの循環利用ー	高橋佳孝	2010.03	科学研究費助成金・特定領域研究「持続可能な発展のための環境ガバナンス」2009年度全体研究会(京都大学地球環境学堂)	約40名
346	地域資源活用型放牧が創り出す豊かな世界ー和牛放牧も水田作目の一つにー	高橋佳孝	2010.03	平成21年度畜産生産性向上促進総合対策に係る畜産生産性向上促進対策研究会(兵庫県畜産協会)	約40名
347	パンづくりの科学	高田兼則	2009.08	山口大学公開講座小麦栽培から始めるパンづくり(山口大学)	約30名
348	国産大豆 さらなる高品質へ 栽培管理のポイント	竹田博之	2009.05	農業共済新聞	*,4
349	地下水水位調節システム(FOEAS)の活用・導入事例	竹田博之	2010.01	平成21年度近畿中国四国農業研究推進会議(近畿中国四国農業研究センター作物生産推進部会)	約50名
350	FOEASを利用した大豆栽培	竹田博之	2010.02	生産性向上セミナー(中国四国農政局)	約50名
351	トマト萎凋病	竹原利明	2009.04	日本農業新聞	4月30日,14
352	地域資源と生物機能を活かした土壌消毒技術	竹原利明	2009.10	平成21年度近畿中国四国農業試験研究推進会議 生産環境推進部会(病害虫分科会)問題別研究会:都市近郊における省力型・環境保全型病害虫管理技術ー野菜栽培の生産安定に向けた新技術現地検討会ー(農研機構)	75名
353	集落営農法人における「麦ー大豆作」導入の条件と方策	棚田光雄	2009.10	グリーンレポート	10,6-7
354	近畿中国四国地域における地域農業の構造展望と農業経営の発展方向	棚田光雄	2010.02	平成21年度全国農業経営研究会	*,43-48
355	一斉開花に対応した小ギクの機械収穫技術の開発	田中宏明 仲 照史(奈良農総セ) 中元陽一 長崎裕司 松崎健文	2009.11	アグリビジネス創出フェア(VTR展示)	**,*

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
356	一斉開花に対応した小ギクの機械収穫技術の開発	田中宏明	2010.03	中四国の花き情報	**
357	基盤地図情報 WMS 配信サービスの開発と FOSS4G での活用	寺元郁博	2009.10	第 18 回地理情報システム学会学術研究発表大会特別セッション	**
358	Finds.jp で公開している地理空間所法関連サービス	寺元郁博	2009.11	FOSS4G 2009 Osaka	**
359	「簡易逆ジオコーディングサービス」の作り方 - PostGIS と無償データと地図の知識少々	寺元郁博	2009.11	PostgreSQL Conference 2009 Japan	**
360	自然を読み、稲と語り、心を耕す	鳥越洋一	2009.12	丹後産コシヒカリ 50 周年記念セミナー「これからの丹後産コシヒカリを考える」	約 120 名
361	耕作放棄地における野草の飼料価値	堤 道生 高橋佳孝 西口靖彦 惠本茂樹 (山口農総技研セ畜技部) 伊藤直弥 (山口農総技研セ畜技部) 佐原重行 (広島総技研畜技セ) 吉村知子 (広島総技研畜技セ) 渡邊貴之 (家畜改良センター十勝牧場)	2009.12	平成 21 年度中国四国地域マッチングフォーラム (農林水産省農林水産技術会議事務局、(独) 農研機構近畿中国四国農業研究センター)	*, 27
362	耕作放棄地における草量の簡易推定法	堤 道生 高橋佳孝 惠本茂樹 (山口農総技研セ畜技部) 伊藤直弥 (山口農総技研セ畜技部) 佐原重行 (広島総技研畜技セ) 吉村知子 (広島総技研畜技セ)	2009.12	平成 21 年度中国四国地域マッチングフォーラム (農林水産省農林水産技術会議事務局、(独) 農研機構近畿中国四国農業研究センター)	*, 28
363	日本草地学会研究奨励賞 (放牧草地における草地生態学的評価手法の開発)	堤 道生	2010.03	日本草地学会誌	56(別), 8-9
364	第 8 章 資源としての水と災害-恵みとしての洪水	内田晴夫	2009.11	バン格拉デシュを知るための 60 章 (第 2 版) (明石書店)	*, 49-54
365	第 9 章 ベンガル湾の凶暴な台風-サイクロン	内田晴夫	2009.11	バン格拉デシュを知るための 60 章 (第 2 版) (明石書店)	*, 55-60
366	イノシシ・シカ等による農作物への獣害対策	上田弘則	2009.04	中播農業共済事務組合損害評価委員会視察研修 (島根県大田市)	40 名
367	牧草の獣害対策	上田弘則	2009.06	平成 21 年度革新的農業技術習得研修委託事業高度先進技術研修 (島根県大田市)	30 名
368	主要加害獣の行動特性と対策 I (イノシシ)	上田弘則	2009.07	静岡県鳥獣被害対策総合アドバイザー養成研修 (静岡市)	30 名
369	主要加害獣の行動特性と対策 III (ニホンジカ)	上田弘則	2009.07	静岡県鳥獣被害対策総合アドバイザー養成研修 (静岡市)	30 名
370	イノシシの被害対策	上田弘則	2009.07	三原市大和地域農業振興部会視察研修会 (島根県大田市)	10 名
371	イノシシの生態と被害対策	上田弘則	2009.08	伊都地方鳥獣被害防止対策連絡協議会視察研修会 (島根県大田市)	20 名
372	イノシシの生態と被害対策	上田弘則	2009.08	三原市イノシシ被害防止講演会 (広島県三原市)	100 名
373	イノシシ・シカを中心とした被害対策	上田弘則	2009.09	世羅水田農業推進部会イノシシ・シカ被害対策講演会 (広島県世羅郡)	50 名
374	野生鳥獣から暮らしを守る	上田弘則	2009.09	鳥獣被害対策研修会 (島根県大田市)	80 名
375	イノシシの生態と被害対策	上田弘則	2009.10	石川県鳥獣被害対策防止研修会 (石川県金沢市)	100 名
376	有害鳥獣の現状と対策	上田弘則	2009.11	高梁市農業委員会視察研修会 (島根県大田市)	20 名
377	シカ・イノシシの生態と被害対策	上田弘則	2009.11	姫路市農業委員会視察研修会 (島根県大田市)	50 名

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
378	寒地型牧草は冬期にイノシシの餌になる	上田弘則	2009.12	平成21年度中国四国地域マッチングフォーラム(農林水産省農林水産技術会議事務局、(独)農研機構近畿中国四国農業研究センター)	*, 15
379	集落での被害対策	上田弘則	2009.12	広島県東部農業技術指導所視察研修会(島根県大田市)	5名
380	イノシシ・シカの生態と被害防止技術について	上田弘則	2009.12	京都府与謝野町視察研修会(島根県大田市)	15名
381	イノシシによる農作物被害対策について	上田弘則	2010.01	地域課題解決研修会(広島県福山市)	40名
382	野生獣の生態と被害対策	上田弘則	2010.01	土庄町・小豆島町鳥獣害対策協議会講演会(香川県小豆郡)	200名
383	イノシシ・サルの被害対策	上田弘則	2010.01	備中県民局鳥獣害対策研修会(岡山県井原市)	50名
384	鳥獣害に強い地域づくりを目指して	上田弘則	2010.01	東予東部地域鳥獣害防止対策研修会(愛媛県西条市)	80名
385	集落ぐるみで行う鳥獣害対策	上田弘則	2010.02	西予市鳥獣害防止対策研修会(愛媛県西予市)	150名
386	イノシシ、シカ、サルによる被害対策について	上田弘則	2010.02	高山市鳥獣害対策研修会(岐阜県高山市)	40名
387	野生動物の生態と農作物被害対策	上田弘則	2010.02	矢掛町鳥獣害対策講習会(岡山県矢掛町)	80名
388	地域住民主体のイノシシ、シカ、サルによる獣害対策について	上田弘則	2010.02	豊川市農作物鳥獣害対策講演会(愛知県豊川市)	100名
389	イノシシの農作物被害対策	上田弘則	2010.03	尾道市鳥獣害対策研修会(広島県御調町)	*
390	野生動物による農作物被害対策	上田弘則	2010.03	東みよし町鳥獣害現地検討会(徳島県みよし町)	*
391	シカ、サルの農作物被害対策	上田弘則	2010.03	阿佐地域鳥獣害防止広域対策協議会研修会(高知県香美市)	*
392	シカによる農作物被害対策	上田弘則	2010.03	鳥獣害対策現地研修会(徳島県那賀町)	*
393	シカによる農作物被害対策	上田弘則	2010.03	鳥獣害対策現地研修会(高知県香美町)	*
394	空気熱源式ヒートポンプを利用したハイブリッド暖房方式による投入エネルギーおよびCO2排出量の削減効果	川嶋浩樹	2009.06	農業技術(農業技術協会)	64(6), 252-258
395	ミュー灌水を用いたトマト隔離土耕栽培におけるリン減肥の検討	渡邊修一	2009.12	平成21年度拍動自動灌水の利用と発展的活用方向を模索する合同検討会議	64名
396	よくわかる移動放牧 Q&A	山本直幸 高橋佳孝 堤 道生 安藤 哲 井上雅央 上田弘則 小迫孝実(畜草研) 深澤 充(畜草研) 恵本茂樹(山口畜技) 島田芳子(山口畜技) 川崎友子(山口畜技) 伊藤直弥(山口畜技) 引田久美子(山口畜技) 秋友一郎(山口畜技) 菅原健介(山口畜技) 岡村由香(山口畜技) 須田 涉(広島畜技) 吉村知子(広島畜技) 沖山恒明(広島畜技) 佐原重行(広島畜技) 吉岡秀美(広島畜技) 新出昭吾(広島畜技) 岸本一郎(広島畜技) 長尾かおり(広島畜技) 熊谷周一郎(鳥取牧場) 浅田正嗣(鳥取牧場) 渡邊貴之(十勝牧場)	2009.12	よくわかる移動放牧 Q&A	*, 1-116
397	小規模移動放牧の指導普及マニュアル「よくわかる移動放牧 Q&A」	山本直幸	2010.03	近畿中国四国農業研究センター2009年研究開発ターゲット成果	*, 3

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号), 頁, 参加者数
398	環境に配慮した小規模移動放牧における繁殖和牛の飼養管理技術	山本直幸	2010.03	平成21年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業(旧先端技術を活用した農林水産研究高度化事業)事後評価報告書	*, 1-19
399	排液循環型イチゴ高設栽培における培地の昇温抑制技術	山崎敬亮	2009.09	平成21年度農政課題解決研修「施設野菜の省力・低コスト生産技術」	*, 17
400	イチゴ高設栽培法と温暖化に適応した簡易な培地冷却技術の紹介	山崎敬亮	2009.10	京滋有機農業研究会	約20名
401	「打ち水」効果で高温によるイチゴの収穫時期の遅れを軽減	山崎敬亮	2009.11	研究成果発表会「地球温暖化と農林水産業—環境・食卓の現在と未来—」(農林水産省農林水産技術会議事務局)	*, 49
402	いちご高設栽培のポイント	山崎敬亮	2009.11	平成21年度「農のスペシャリスト講座(いちごトマト栽培講座)」(鳥取県農林水産部農業大学校)	*, 27
403	イチゴ高設栽培における温暖化に適応した簡易培地冷却技術	山崎敬亮	2009.11	奈良県都市農林連絡協議会	12名
404	気化潜熱を利用した培地冷却によるイチゴ高設栽培における収穫の中休み軽減技術	山崎敬亮	2010.03	(社)全国農業改良普及支援協会ホームページ「農業温暖化ネット」	https://www.ondanka-net.jp/index.php?category=measure&view=detail&article_id=148
405	鉄コーティング種子製造と利用	山内 稔	2009.04	飼料イネ鉄コーティング種子作製研修会(津山地域飼料稲生産利用研究会)	約70名
406	水稲直播技術に関する最近の情報	山内 稔	2009.04	水稲直播(鉄コーティング)多目的田植機条播実演会・研修会(J A尾道市水稲部会およびJ A尾道市世羅営農センター)	約34名
407	技術研修および鉄コーティング種子づくりの技術説明と実演	山内 稔	2009.04	鉄コーティング湛水直播実証展示圃研修会(JAめぐみの)	約40名
408	水稲湛水直播 鉄コーティング種子を大量に製造 一層の省力・効率化へ	山内 稔	2009.04	農業共催新聞	4月15日, 11
409	水稲の湛水直播栽培—省力化をおすすめる鉄コーティング種子の大量製造技術—	山内 稔	2009.05	圃場と土壌((財)日本土壌協会)	41(5), 18
410	鉄コーティング湛水直播の技術説明と実演	山内 稔	2009.05	鉄コーティング湛水直播実演会(全農栃木県本部およびJAしおのや)	約46名
411	コーティング作業および播種作業の技術説明と実演	山内 稔	2009.05	鉄コーティング湛水直播技術実証展示圃(全農宮城県本部)	約40名
412	鉄コーティング湛水直播 技術説明と播種実演会	山内 稔	2009.05	飼料稲栽培・直播現地検討会(全農広島県本部)	約20名
413	稲の種子をじかまきできる“鉄稲”が高齢化農家を救う!	山内 稔	2009.06	Forbes フォーブス日本版	*, 60
414	鉄粉で稲作革命 湛水直播技術の取り組み 環境・省力化に効果	山内 稔	2009.06	日刊産業新聞	6月12日, 5
415	鉄コーティング湛水直播—発案、技術の概要、普及—	山内 稔	2009.07	近畿土壌肥料研究協議会第28回研究会	約30名
416	水稲栽培における低コスト・省力化技術について—鉄コーティング湛水直播技術の概要と導入—	山内 稔	2009.07	食糧栽培技術研修会(全国農業協同組合連合会愛媛県本部、J A愛媛食糧指導員会、J A愛媛米麦生産者組織協議会)	約100名
417	育苗省き生産に弾み 水稲の鉄コーティング湛水直播栽培 鳥害防げ、安価で導入しやすく	山内 稔	2009.07	全国農業新聞	7月10日, 1
418	水稲の鉄コーティング湛水直播における種子の大量製造と栽培のポイント	山内 稔	2009.10	米麦改良(全国米麦改良協会)	*, 2
419	鉄コーティング湛水直播の省力安定栽培	山内 稔	2009.10	きらめきほくりく夢農業における直播栽培講習会(クボタ農業機械、北陸地区クボタグループ)	約600名
420	鉄コーティング湛水直播技術	山内 稔	2009.11	飼料用米の生産・給与技術マニュアル((独)農業・食品産業技術総合研究機構)	*, 41
421	JA 育苗センターにおける大量製造機の利用	山内 稔	2009.11	鉄コーティング水稲直播栽培技術普及検討会(全農宮農総合対策部)	約79名

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
422	鉄コーティング直播栽培の全国的なこれからの流れ	山内 稔	2009.12	鉄コーティング直播栽培検討会(株式会社五十嵐商会)	約 70 名
423	全国取り組み状況と技術のポイントについて	山内 稔	2009.12	鉄コーティング直播栽培報告会(株式会社南関東クボタ)	約 30 名
424	鉄コーティング湛水直播と種子の大量製造技術による稲作の省力・規模拡大	山内 稔	2010.01	農業および園芸(養賢堂)	85(1), 70
425	鉄コーティング種子湛水直播による省力安定栽培のポイント	山内 稔	2010.02	鉄コーティング講習会及び作業実演(株式会社福井クボタ)	約 220 名
426	鉄コーティング種子湛水直播による省力安定栽培のポイント	山内 稔	2010.02	夢農業「ルネッサンス 2010」(東海地区クボタグループ)	約 340 名
427	鉄コーティング種子湛水直播による省力安定栽培のポイント	山内 稔	2010.02	グリーンレポート	2, 2
428	炊飯後に褐変しにくい極低ポリフェノールはだか麦の育成	柳澤貴司 高橋飛鳥	2009.04	「加工プロ」3系(畑作物)現地研究会(農研機構)	約 60 名
429	大粒で主要病害に強い日本初の二条裸麦品種「ユメサキボシ」の育成	柳澤貴司	2009.06	実需者のニーズに応える北関東麦生産システムの確立 成果発表会よい麦は『北関東』にあり!(埼玉県)	約 100 名
430	はったい粉 立ち上る、大地の香り	柳澤貴司	2009.06	毎日新聞東京朝刊	6 月 1 日, http://mainichi.jp/life/food/again/archive/news/2009/20090601ddm013100030000c.html
431	二条裸麦品種「ユメサキボシ」の育成	柳澤貴司	2009.09	農業日誌	*, 88-89
432	最近の大麦品種育成の動向	柳澤貴司	2009.09	農産物検査とくぼん((財)全国瑞穂食糧検査協会)	172, 32-34
433	代表的研究成果(品種)	柳澤貴司	2010.03	代表的研究成果(品種)	*, 10
434	農産物・加工品の品種判別技術の現状と展望	矢野 博	2009.05	第 97 回日本食品衛生学会学術集会シンポジウム「今後発展が期待される食品検査技術」	*, 14
435	「日本・中国・韓国 DNA 品種識別技術専門家会合」に出席して	矢野 博	2009.08	敷物新聞	暑中特集号
436	農産物・加工品における品種判別技術	矢野 博	2009.12	平成 21 年度 食農連携促進技術対策事業-食農連携促進技術モデル地区ワークショップ(石川) -ブランド化に向けた品種・産地判別の現状と展望	*, 91-101
437	DNA 鑑定(品種識別)技術の開発のあり方	矢野 博	2010.01	敷物新聞	新年特集号
438	II. 食品のたんぱく質量等の新たな算出法と海外事例の比較	安井 健	2009.08	新たなたんぱく質量推定に関わるアミノ酸組成に対する検証分析調査中間報告書(平成 21 年度 文部科学省委託調査中間報告書)(日本食品分析センター)	*, 6-23
439	6) 成分値についての留意点 7) 食品群別留意点	安井 健	2009.08	五訂増補日本食品標準成分表準拠日本食品糖質推定成分表(平成 21 年度 文部科学省委託調査中間報告書別冊)(日本食品分析センター)	*, 7-9
440	パンコムギ澱粉のアミロペクチンには超長鎖は存在しない	安井 健	2010.03	近中試農研ニュース	36, 5
441	環境保全型農業の取組による環境負荷低減効果の定量評価	吉田正則	2010.03	先端技術を活用した農林水産研究高度化事業 1727 研究成果報告書	*, 101-104
442	原単位モデル	吉田正則	2010.03	新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 1947 研究成果報告書	*
443	原単位モデル	吉田正則	2010.03	「水と栄養塩の動きを探り役立てる」研究成果集	*

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号), 頁, 参加者数
444	中国圏広域地方計画(計画原案)に対する意見	清水夏樹(特別研究員等) 上野裕士(内外エンジニアリング株式会社) 小田切徳美(明治大学) 清水 庸(東京大学) 日鷹一雅(愛媛大学) 山路永司(東京大学) 吉田晋一	2009.07	国土交通省中国圏広域地方計画推進室	*
445	農産物直売所における需要量の時系列変動要因の分析	吉田晋一	2009.07	近畿中国四国農業試験研究推進会議 平成20年度「営農推進部会」問題別研究会	約40名
446	中国・四国圏広域地方計画への提言	清水夏樹(特別研究員等) 上野裕士(内外エンジニアリング株式会社) 小田切徳美(明治大学) 清水 庸(東京大学) 日鷹一雅(愛媛大学) 山路永司(東京大学) 吉田晋一	2009.09	農村計画学会誌	28(2), 96-97
447	「作業計画・管理支援システム」について	吉田智一	2009.05	集落営農法人の経営管理支援のためのシステム検討会(山口研農林総合技術センター)	約10名
448	圃場地図上で農作業の管理を支援する「作業計画・管理支援システム」	吉田智一	2009.08	平成21年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「GAP導入促進のための経営支援ナビゲーションシステムの開発」検討会(国立大学法人九州大学)	約20名
449	ほ場地図上で農作業の管理を支援する「作業計画・管理支援システム」	吉田智一	2009.10	平成21年度近畿地域マッチングフォーラム(農林水産省農林水産技術会議事務局、(独)農研機構近畿中国四国農業研究センター)	約100名
450	ほ場地図上で農作業の管理を支援するシステム「作業計画・管理支援システム」について	吉田智一	2009.12	IT活用による営農を支援するための作業計画・管理支援システム説明会(JA尾道市)	約20名
451	GIS互換の圃場地図を使用した作業計画管理支援システム	吉田智一	2009.12	担い手プロ成果発表会(農研機構)	約100名
452	ハウレンソウの高温下品質向上・抽台抑制技術の開発	吉田祐子 岡田邦彦	2009.11	研究成果発表会「地球温暖化と農林水産業—環境・食卓の現在と未来—」	*, 50
453	灌水装置利用による増収効果や補助事業活用が可能	吉川弘恭	2009.07	岩手日日新聞	7月3日,*
454	拍動かん水装置の効用 天候に応じ自動化	吉川弘恭	2009.08	日本農業新聞	8月8日,*
455	園芸作での日射制御型拍動自動灌水装置の利用 —その実際と利用に当たっての注意—	吉川弘恭	2009.09	平成21年度農政課題解決研修「施設野菜の省力・低コスト生産技術」	約20名
456	自動かん水収量2割増	吉川弘恭	2009.09	読売新聞	9月5日,*
457	但馬ピーマン復活へ一歩 灌水装置但馬ピーマンの取り組み	吉川弘恭	2009.09	神戸新聞	9月7日,*
458	露地栽培でも点滴灌水を使ってみよう 低コストな肥料で減肥料・増収を	吉川弘恭	2009.11	平成22年版農業日誌	*, 342-343
459	拍動灌水施肥の新しい展開に向けて	吉川弘恭 笠原賢明 吉川省子 渡邊修一	2009.12	平成21年度産学官連携経営革新技術普及強化促進事業「露地栽培への日射制御型拍動自動灌水装置の導入による省力・低コスト・環境保全型生産技術の普及」に係る事業検討会	約30名
460	「露地栽培への日射制御型拍動自動灌水装置の導入による省力・低コスト・環境保全型生産技術の普及」達成状況概略	吉川弘恭	2009.12	平成21年度拍動自動灌水の利用と発展的活用方向を模索する合同検討会議	63名
461	「露地野菜における根域酸制御による土壌蓄積リン利用技術の開発と減肥の実証」プロジェクト概要説明	吉川弘恭	2009.12	平成22年度拍動自動灌水の利用と発展的活用方向を模索する合同検討会議	64名
462	ピーマン栽培を合理化	吉川弘恭	2010.01	全国農業新聞	1月1日,*
463	拍動自動灌水の普及による農作物の減化学肥料・省力・安定生産栽培を目指して	吉川弘恭	2010.03	農業改良普及推進事業 産学官連携経営革新技術普及強化促進事業「露地栽培への日射制御型拍動自動灌水装置の導入による省力・低コスト・環境保全型生産技術の普及」報告書	*, PP.141

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名, イベント名, 対象者等	巻(号),頁, 参加者数
464	農業から水質保全を考える	吉川省子 渡邊修一	2009.07	サマーサイエンスキャンプテキスト	*, III -1-23
465	中山間傾斜地水田における水田の維持管理 保全対策事業	吉村亜希子	2010.03	平成 21 年度計画基準基礎調査報告 書(香川地区報告)	*, 1-28
466	中山間地域における地元の資源を活かした 地域づくり	吉村亜希子	2010.03	平成 19-21 年度科学研究費補助金 (基礎基盤 B) 平成 21 年度成果報 告書	*, 167-176

3. 知的財産権

1) 産業財産権の登録及び出願

【国内特許】

特許権等の名称	発明者 (共同発明者)	出願年月日	登録年月日及び 登録番号
植物病害防除剤、農薬及び肥料	宮川久義、(丸善製薬(株))	H17.04.25	
植物体の重量測定方法	森永邦久、草場新之助、 村松 昇、島崎昌彦、 星 典宏	H17.05.23	
切り花の開花程度判断方法及び開花程度判断装置	仲 照史、香川将志、 渡辺修一、藤野雅丈、 竹崎あかね、 (香川県産業技術センター、 香川県農業試験場)	H17.08.23	
気温推定方法及び気温推定システム	植山秀紀	H17.10.20	
低水分領域における土壌水分測定方法および測定装置	黒瀬義孝	H18.01.18	
脂肪細胞分化促進剤(1)	関谷敬三、(富士産業(株))	H18.02.02	
脂肪細胞分化促進剤(2)	関谷敬三、(富士産業(株))	H18.02.02	
植物用体内水分ストレス表示シートと植物水分ストレス計測方法	森永邦久、星 典宏、 草場新之助、 (ライフケア技研(株))	H18.03.01	
コムギのグルテニン・サブユニットを発現するトランスジェニックイネ	池田達哉、荒木悦子、 藤田由美子、矢野 博、 (理化学研究所、萩原保成)	H18.03.28	
牛の優良産肉形質判定方法	相川勝弘、柴田昌宏、 松本和典、(兵庫県)	H18.05.19	
歩行型動力運搬車	田中宏明、中元陽一、 松崎健文、岡 信光、 角川 修、畔柳武司	H18.10.24	
小麦ふすま、大麦糠、米糠からの新規血圧降下ペプチドとその製造方法	野方洋一	H19.07.27	
小麦の穀粒硬度及び小麦粉の粒径を低下させる方法	谷中美貴子、池田達哉、 高田兼則	H20.01.22	
高設栽培装置と、高設栽培装置における透湿防水シートの施行方法	山崎敬亮、熊倉裕史、 浜本 浩、岩本辰弘	H20.12.24	
遺伝的に飛行能力を欠くテントウムシの作出方法	世古智一、三浦一芸、 (国)岡山大学)	H21.01.13	
播種ロール及び播種機	窪田 潤、佐藤達也、 高橋仁康、亀井雅浩、 藤本 寛、奥野林太郎	H21.02.10	
大麦粉の製造方法	高田兼則、柳澤貴司、 池田達哉、谷中美貴子	H21.06.02	
神経突起伸展促進剤	川瀬眞市朗、池田達哉、 高田兼則	H21.09.14	
植物からのシアル酸含有化合物の抽出法	川瀬眞市朗	H21.10.06	

特許権等の名称	発明者 (共同発明者)	出願年月日	登録年月日及び 登録番号
切り花収穫機及び切り花収穫方法	田中宏明、中元陽一、 松崎健文、長崎裕司、 香川将志、大黒正道、 岡 信光、畔柳武司、 (みのる産業(株)、奈良県)	H21.10.13	
灌水装置	根角博久、平岡潔志、 星 典宏、(島根県、 キョーワガス産業(株)、 (国) 山口大学)	H21.11.02	
リン脂質及び／又はリゾリン脂質の抽出方法	川瀬眞市朗	H22.03.25	

【外国特許】

特許権等の名称	発明者 (共同発明者)	出願年月日	登録年月日及び 登録番号
天敵昆虫を飼育するための給餌方法および給餌装置 (米国、欧州)	長坂幸吉、安部順一郎、 ((国) 京都大学、 (株) 四国総合研究所、 曾田香料(株))	H17.11.24	
遊離アミノ酸を富化した食品素材及びその製造法 (米国、カナダ、豪州)	野方洋一、堀野俊郎、 長嶺 敬	H18.08.11	

2) 新品種の登録及び出願

【品種登録】

種類名	品種名	育成者（共同育成者）	出願年月日	登録年月日及び登録番号
大麦	トヨノカゼ	柳澤貴司、高山敏之、高橋飛鳥、伊藤昌光、石川直幸、土門英司、藤田雅也、土井芳憲、杉浦 誠、松中 仁	H17.11.30	H21.07.31 第 18336 号
小麦	ふくほのか	石川直幸、高田兼則、渡邊美貴子、長嶺 敬、高山敏之、田谷省三、甲斐由美、谷尾昌彦、佐藤淳一	H17.11.30	H21.09.28 第 18496 号
稲	はいいぶき	飯田修一、春原嘉弘、前田英郎、松下 景、根本 博、石井卓朗、吉田泰二、中川宣興、坂井 真	H18.08.22	H21.09.28 第 18472 号
稲	みずほのか	飯田修一、春原嘉弘、出田 収、松下 景、前田英郎、根本 博、石井卓朗、吉田泰二、中川宣興、坂井 真	H19.09.11	H22.03.17 第 19409 号

【出願品種】

種類名	品種名	育成者（共同育成者）	出願年月日	登録年月日及び登録番号
小麦	ふくはるか	石川直幸、高田兼則、渡邊美貴子、長嶺 敬、高山敏之、田谷省三、甲斐由美	H20.10.22	
大麦	ユメサキボシ	柳澤貴司、長嶺 敬、高橋飛鳥、高山敏之、伊藤昌光、石川直幸、土門英司、藤田雅也、土井芳憲、杉浦 誠、松中 仁	H20.10.28	
大麦	キラリモチ	柳澤貴司、長嶺 敬、高橋飛鳥、高山敏之、藤田雅也、土井芳憲、松中 仁	H21.11.27	
稲	姫ごのみ	飯田修一、出田 収、松下 景、春原嘉弘、根本 博、前田英郎、石井卓朗、田村泰章	H22.03.31	
稲	たちずずか	飯田修一、出田 収、松下 景、春原嘉弘、前田英郎、田村泰章	H22.03.31	

4. 広報活動

1) 記者発表（資料配付含む）

年月日	発表内容
H21.05.15	「近畿中国四国農業研究センター 2008 年研究開発ターゲット成果」の公開
H21.05.26	パンフレット「開放型研究施設「オープンラボ」のご利用案内」の公開
H21.07.21	「サマー・サイエンスキャンプ 2009」を開催
H21.09.15	シンポジウム・現地検討会開催のお知らせ
H21.09.24	近畿中国四国農業研究センター綾部研究拠点一般公開のご案内
H21.09.24	近畿中国四国農業研究センター「市民フォーラム」開催のご案内
H21.10.16	平成 21 年度農研機構シンポジウム開催のご案内
H21.10.19	平成 21 年度四国研究センター一般公開のご案内
H21.10.20	平成 21 年度近畿地域マッチングフォーラム開催のご案内
H21.11.20	平成 21 年度中国四国地域マッチングフォーラム開催のご案内
H22.03.23	二条裸麦新品種「キラリモチ」のプレスリリース

2) 近畿中国四国農業研究センター刊行物（会議資料等除く）

刊行物名	発行年月	印刷数
要覧（和文）	H21.05	2,000
平成 20 年度 近畿中国四国農業研究成果情報	H21.06	720
近中四農研ニュース No.33	H21.07	1,800
要覧（和文）	H21.08	3,000
近畿中国四国地域における新技術 第 8 号	H21.08	580
近中四農研ニュース No.34	H21.09	900
近畿中国四国農業研究叢書 第 2 号 傾斜地特有の資源を活用した低コスト施設栽培 －四国傾斜地農業の経営改善に向けた総合研究－	H21.11	400
平成 21 年度 近畿地域マッチングフォーラム講演要旨	H21.11	150
平成 21 年度 中国四国地域マッチングフォーラム講演要旨	H21.12	250
近畿中国四国農業研究センター業務科年報 平成 20 年度（第 6 号）	H21.12	300
近中四農研ニュース No.35	H21.12	900
近畿中国四国農業研究センター研究資料 第 7 号	H22.02	630
近畿中国四国農業研究センター研究報告 第 9 号	H22.02	750
近畿中国四国農業研究センター年報 平成 20 年度	H22.02	web
近中四農研ニュース No.36	H22.03	900
近畿中国四国農業研究センター 2009 年研究開発ターゲット成果	H22.03	1,000

3) 一般公開、イベント、講演会、シンポジウム等の開催

一般公開・市民フォーラム

一般公開のテーマ名	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
市民フォーラム なるほど、発見！身近な農業研究	近畿中国四国農業研究センター	H21.10	広島県立ふくやま産業交流館（ビッグローズ）	688
人と環境にやさしい野菜づくり	近畿中国四国農業研究センター	H21.10	綾部研究拠点	424
来て、見て、体験！夢のある地域農業	近畿中国四国農業研究センター	H21.10	四国研究センター	893

イベント

イベント名	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
近畿地域マッチングフォーラム	農林水産省農林水産技術会議事務局、 近畿中国四国農業研究センター	H21.10	兵庫県 加古川市	105
中国四国地域マッチングフォーラム	農林水産省農林水産技術会議事務局、 近畿中国四国農業研究センター	H21.12	岡山県 岡山市	108

科学技術離れ対策の協力状況（サイエンスキャンプ、出前レクチャー等）

イベント名	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
総合的学習 （裸麦育種試験全般について学習）	善通寺市（小学校）	H21.05	四国研究センター	48
総合的学習 （裸麦育種試験全般について学習）	丸亀市（小学校）	H21.05	四国研究センター	80
総合的学習 （裸麦育種試験全般について学習）	善通寺市（小学校）	H21.05	四国研究センター	45
総合的学習（野菜の観察）	綾部市（小学校）	H21.05	綾部研究拠点	120
総合的学習（野菜の観察・苗の定植）	綾部市（小学校）	H21.05	綾部研究拠点	120
総合的学習（野菜の観察）	綾部市（小学校）	H21.06	綾部研究拠点	70
総合的学習（野菜の観察）	綾部市（小学校）	H21.06	綾部研究拠点	120
総合的学習（野菜の観察）	綾部市（小学校）	H21.06	綾部研究拠点	120
総合的学習（野菜の観察・苗の定植）	綾部市（小学校）	H21.06	綾部研究拠点	120
総合的学習（野菜の観察・苗の定植）	綾部市（小学校）	H21.06	綾部研究拠点	90
総合的学習（職場視察）	広島県（小学校）	H21.07	本所	2
総合的学習（水稻の育種に関する研修）	愛媛県（大学校）	H21.07	本所	11
サマー・サイエンスキャンプ （科学技術体験合宿）	（独）科学技術振興機構	H21.07	四国研究センター	10
総合的学習（野菜の観察）	綾部市（小学校）	H21.07	綾部研究拠点	120
総合的学習（野菜の観察）	綾部市（小学校）	H21.07	綾部研究拠点	120
職場体験学習（労働体験学習）	福山市（中学校）	H21.08	本所	8
総合的学習（サツマイモの観察）	綾部市（小学校）	H21.09	綾部研究拠点	25
職場体験学習（労働体験学習）	大田市（中学校）	H21.09	大田研究拠点	5

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

イベント名	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
総合的学習 (ウシ精子、胚の観察、妊娠診断の見学、 直腸検査)	出雲市（高校）	H21.09	大田研究拠点	2
職場体験学習（研究業務）	福山市（中学校）	H21.11	本所	3

科学技術離れ対策以外のイベントへの協力および参画状況

イベント名	主催者（共催）	開催年月	開催場所
第5回シバザクラ祭り	広島県豊栄町乃美地区	H21.04	広島県豊栄町乃美
第19回西日本食品産業創造展	日刊工業新聞社	H21.05	福岡県福岡市
麦に関する研究成果発表会	埼玉県農林総合研究センター	H21.06	埼玉県さいたま市
バイオフェューエルワールド2009	IDG ジャパン	H21.07	神奈川県横浜市
外食・中食設備機器フェア2009	(社)大阪国際見本市委員会	H21.09	大阪府大阪市
知財ビジネスマッチングフェア2009	特許庁、近畿経済産業局、 近畿知財戦略本部	H21.10	大阪府大阪市
びわ湖環境ビジネスメッセ2009	滋賀環境ビジネスメッセ実行委員会	H21.10	滋賀県長浜市
食のブランドニッポン2009	農研機構、森林総合研究所、 水産総合研究センター、 国際農林水産業研究センター	H21.11	東京都港区
アグリビジネス創出フェア2009	農林水産省	H21.11	千葉県千葉市
消費者の部屋	中国四国農政局	H21.12	岡山県岡山市
中国四国地域アグリビジネス創出フェア2009	NPO 法人中国四国農林水産・食品先進技術研究会（中国四国農政局、中国経済産業局ほか）	H21.12	広島県広島市
消費者の部屋	近畿農政局	H22.02	京都府京都市
水田を活用した飼料用イネフォーラム	近畿農政局、 (社)日本草地畜産種子協会 (近畿中国四国農業研究センター)	H22.02	京都府京都市

シンポジウム・セミナー

シンポジウム・セミナー等名	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
「瀬戸内における高収益型カンキツ生産体系を考える」シンポジウム	近畿中国四国農業研究センター	H21.09	広島県尾道市	87
平成21年度農研機構シンポジウム	近畿中国四国農業研究センター	H21.11	岡山県岡山市	298
レタスビッグベイン病研究成果報告会	近畿中国四国農業研究センター、 兵庫県立農林水産技術総合センター	H21.12	兵庫県南あわじ市	173
「平成21年度 農研機構業務活性化に資する取り組み」講演会	近畿中国四国農業研究センター	H22.03	広島県福山市	84
新規需要米に関するシンポジウム	中国四国農政局、 (社)日本草地畜産種子協会、 近畿中国四国農業研究センター	H22.03	岡山県岡山市	278

4) 技術相談および見学

生産者：農協、農業関係公益法人なども「生産者」に含める

消費者：消費者団体も含める

青少年：幼稚園児～高校生

行政：国行政、県行政

研究機関：大学、公立試、国研、独法

民間：民間企業、民間団体、民間の試験研究機関

(1) 技術相談

相談方法	生産者	消費者	青少年	マスコミ	行政	研究機関	民間	海外	その他	合計
インターネットによる相談件数	8	0	0	0	11	21	11	0	1	52
電話による相談件数	86	11	2	31	71	32	45	1	20	299
面談による相談件数	31	17	3	4	20	31	43	0	2	151
その他の手段による相談件数	21	0	2	1	37	18	18	1	2	100
合計	146	28	7	36	139	102	117	2	25	602

(2) 見学者

	生産者	消費者	青少年	マスコミ	行政	研究機関	民間	海外	その他	合計
外部からの見学者数(人)	810	0	1,057	1	192	77	64	0	194	2,395

5. 図書資料の収集・受入、サービス

1) 収書数

① 単行書

単位：冊

	和 書			洋 書			合 計
	購入	寄贈・交換	計	購入	寄贈・交換	計	
本所（福山）	308	0	308	21	0	21	329
四国研究センター	278	243	521	29	0	29	550
綾部研究拠点	71	0	71	2	0	2	73
大田研究拠点	55	0	55	3	0	3	58
合 計	712	243	955	55	0	55	1,010

② 逐次刊行物

単位：種

	和 書			洋 書			合 計
	購入	寄贈・交換	計	購入	寄贈・交換	計	
本所（福山）	122	639	761	58	35	93	854
四国研究センター	106	547	653	33	28	61	714
綾部研究拠点	139	147	286	1	5	6	292
大田研究拠点	122	199	321	16	10	26	347
合 計	489	1,532	2,021	108	78	186	2,207

③ その他の資料

単位：冊

	和 書			洋 書			合 計
	購入	寄贈・交換	計	購入	寄贈・交換	計	
本所（福山）	23	126	149	2	0	2	151
四国研究センター	113	89	202	0	0	0	202
綾部研究拠点	0	19	19	0	0	0	19
大田研究拠点	0	27	27	0	0	0	27
合 計	136	261	397	2	0	2	399

2) 除籍数

単位：冊

	和 書			洋 書			合 計
	単行書	逐次刊行物	計	単行書	逐次刊行物	計	
本所（福山）	0	47	47	0	0	0	47
四国研究センター	0	0	0	0	0	0	0
綾部研究拠点	0	0	0	0	0	0	0
大田研究拠点	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	47	47	0	0	0	47

(注) 逐次刊行物は、製本に換算した冊数

3) サービス

	文献複写（件）		相互貸借（件）		貸出（冊）
	依 頼	提 供	依 頼	提 供	
本所（福山）	404	206	112	66	283
四国研究センター	55	6	41	24	498
合 計	459	212	153	90	781

V 研究交流

1. 研究員等の受入・研修

1) 国際農林水産業研究センター (JIRCAS) 研究員

国名	受入者所属機関名	受入先研究チーム	期 間
該当なし			

2) 国際協力機構 (JICA) 研究員

国名	受入者所属機関名	受入先研究チーム	期 間
該当なし			

3) 日本学術振興会 (JSPS) 研究員

国 名	受入者所属機関名	受入先研究チーム	期 間
該当なし			

4) 科学技術振興機構 (JST) 研究員

国 名	受入者所属機関名	受入先研究チーム	期 間
該当なし			

5) その他の制度等による海外研究員の受入

国 名	受入者所属機関名	受入先研究チーム	期 間
中華人民共和国	中国新疆農業科学院	パン用小麦研究近中四サブチーム	H22.03.10 ~ H22.03.24

6) 流動研究員

受入者所属機関名	受入先研究チーム	期 間
該当なし		

7) 依頼研究員

受入者所属機関名	受入先研究チーム	期 間
高知県農業技術センター	特命チーム員 (総合的害虫管理研究チーム)	H21.06.01 ~ H21.08.28
静岡県農林技術研究所 果樹研究センター	次世代カンキツ生産技術研究チーム	H21.06.29 ~ H21.09.25

8) 技術講習生

受入者所属機関名	受入先研究チーム	期 間
大分県農林水産部	鳥獣害研究チーム	H21.04.14 ~ H21.04.15
大分県農林水産部	鳥獣害研究チーム	H21.04.14 ~ H21.04.15
川崎医療福祉大学医療技術学部	パン用小麦研究近中四サブチーム	H21.05.01 ~ H21.12.15
川崎医療福祉大学大学院 医療技術学研究科	パン用小麦研究近中四サブチーム	H21.05.01 ~ H22.03.31
新居浜工業高等専門学校 生物応用化学科	環境保全型野菜研究チーム	H21.07.27 ~ H21.08.07
鳥取大学大学院連合農学研究科	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	H21.08.01 ~ H22.03.31
大分県農林水産研究センター 安全農業研究所	環境保全型野菜研究チーム	H21.08.04 ~ H21.08.07
広島大学生物生産学部	品種識別・産地判別研究チーム	H21.08.24 ~ H21.08.28
福山大学生命工学部	米品質研究近中四サブチーム	H21.09.01 ~ H21.09.07
福山大学生命工学部	米品質研究近中四サブチーム	H21.09.01 ~ H21.09.07
福山大学生命工学部	特命チーム員 (総合的害虫管理研究チーム)	H21.09.01 ~ H21.09.07
広島大学生物生産学部	カバークロップ研究近中四サブチーム	H21.09.07 ~ H21.09.11

受入者所属機関名	受入先研究チーム	期 間
島根県立大田高等学校	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	H22.03.09 ~ H22.03.11
—	研究支援センター業務第3科	H22.03.08 ~ H22.03.12
日本製粉(株)中央研究所	めん用小麦研究近中四サブチーム	H22.03.09 ~ H22.03.12

9) 国内留学

区 分	受入者所属機関名	研究課題	受入先研究チーム	期 間
長期留学	該当なし			
短期留学	該当なし			

10) 連携大学院

受入者所属機関	研究課題	受入先研究チーム	期 間
国立大学法人 広島大学大学院	施設栽培野菜における微小害虫の施設侵入防止技術と土着天敵利用技術による総合防除に関する研究	特命チーム員(総合的害虫管理研究チーム)	H20.04.01 ~ H23.03.31
国立大学法人 広島大学大学院	ヒメハナカメムシ科 Anthocoridae と細胞内共生細菌 Wolbachia の相互作用における進化生物学のおよび保全遺伝子学的研究	特命チーム員(総合的害虫管理研究チーム)	H20.04.01 ~ H23.03.31
国立大学法人 広島大学大学院	オオカマキリ Tenodera aridifolia の採餌戦略に関する研究	特命チーム員(総合的害虫管理研究チーム)	H20.04.01 ~ H22.03.31

2. 研究員の派遣

1) 流動研究員

所 属	研究課題	派遣先	期 間
該当なし			

2) 国内留学

区 分	所 属	氏 名	研究課題	派遣先	期 間
長期留学	該当なし				
短期留学	大麦・はだか麦研究チーム	高橋飛鳥	高β-グルカン含量を有した低穀粒硬度の大麦新系統開発のための研究手法の取得	岡山大学資源生物科学研究所	H21.11.27 ~ H22.02.26

3) 海外派遣・出張

制度・事業等区分	所 属	氏 名	目 的	派遣先	期 間
長期在外研究員	企画管理部企画チーム	大呂興平	オーストラリアの農業技術開発・普及システムの日本への適用可能性に関する研究	オーストラリアシドニー大学	H19.11.01 ~ H21.10.31
要請出張	次世代カンキツ生産技術研究チーム	田中宏明	H20 パートギャランティー研究において開発した土・機械系相互作用解析モデルの検証	アメリカ合衆国カリフォルニア大学デービス校	H21.08.24 ~ H21.09.07
	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	川嶋浩樹	山東省農業研究視察	中華人民共和国	H21.11.02 ~ H21.11.06
国際研究集会	広域農業水系保全研究チーム	石川葉子	国際甘蔗糖技術者会議栽培分野ワークショップ	ブラジル	H21.05.23 ~ H21.06.01
国際研究集会	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	畔柳武司	国際会議(Greensys2009)	カナダ	H21.06.13 ~ H21.06.19
国際研究集会	次世代カンキツ生産技術研究チーム	田中宏明	国際研究集会(ASA-BE2009)	アメリカ合衆国	H21.06.17 ~ H21.06.28

制度・事業等 区分	所 属	氏 名	目 的	派遣先	期 間
国際研究集会	大豆育種研究近中 四サブチーム	岡部昭典	第8回世界大豆研究会議	中華人民共和国	H21.08.09～ H21.08.16
国際研究集会	大豆育種研究近中 四サブチーム	猿田正恭	第8回世界大豆研究会議	中華人民共和国	H21.08.09～ H21.08.17
国際研究集会	暖地温暖化研究近 中四サブチーム	下田星児	第10回国際生態学会会議	オーストラリア	H21.08.17～ H21.08.22
国際研究集会	特命チーム員（食 肉プロテオーム研 究チーム）	柴田昌宏	国際食肉学会（55 t h I C o m S T）	デンマーク	H21.08.14～ H21.08.24
国際研究集会	中山間耕畜連携・ 水田輪作研究チー ム	安藤 貞	第11回国際反芻生理学会	フランス	H21.09.04～ H21.09.11
国際研究集会	パン用小麦研究近 中四サブチーム	池田達哉	国際グルテン研究会	フランス	H21.09.05～ H21.09.12
国際研究集会	中山間傾斜地域施 設園芸研究チーム	柴田昇平	拠点大学交流事業日中合 同セミナー	中華人民共和国	H21.09.13～ H21.09.17
国際研究集会	鳥獣害研究チーム	江口祐輔	日本哺乳類学会 2009 年 度台北大会	台湾	H21.11.20～ H21.11.27
国際研究集会	鳥獣害研究チーム	上田弘則	日本哺乳類学会 2009 年 度台北大会	台湾	H21.11.20～ H21.11.27

3. 技術協力・指導

1) 連携大学院への派遣

氏 名	所 属	派遣先	期 間
山内 稔	産学官連携推進センター	(国) 広島大学大学院 生物圏科学研究科客員教授	平成 21 年度
三浦一芸	特命チーム員 (総合的害虫管理研究チーム)	(国) 広島大学大学院 生物圏科学研究科客員教授	平成 21 年度
黒瀬義孝	暖地温暖化研究近中四サブチーム	(国) 広島大学大学院 生物圏科学研究科客員准教授	平成 21 年度

2) 他機関主催研修会等への講師派遣

氏 名	講師所属	研修会等名	依頼者	期 間
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	平成 21 年度第 1 回大 分県鳥獣害対策アド バイザー研修会	大分県農林水産部森 との共生推進室	H21.05.13 ～ H21.05.15
川嶋浩樹	中山間傾斜地域施設 園芸研究チーム	第 11 回施設園芸技術 初級講座	(社) 日本施設園芸協 会	H21.05.20 ～ H21.05.21
井上雅央	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対 策アドバイザー	丹後地区農業共済組 合	H21.06.03 ～ H21.06.04
井上雅央	鳥獣害研究チーム	平成 21 年度鳥獣被害 対策シンポジウム	鹿児島県庁農政部農 村振興課	H21.06.08 ～ H21.06.11
井上雅央	鳥獣害研究チーム	獣害研修会	三重県南牟婁郡御浜 町	H21.06.14 ～ H21.06.16
井上雅央	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対 策アドバイザー	島根県土地改良事業 団体連合会	H21.06.16 ～ H21.06.16
井上雅央	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対 策アドバイザー	江田島市農業活性化 推進協議会	H21.06.24 ～ H21.06.25
井上雅央	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対 策アドバイザー	兵庫県但馬県民局	H21.06.26 ～ H21.06.26
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	魚沼地域における獣 害対策研修会	魚沼農業共済組合	H21.07.09 ～ H21.07.11

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

氏名	講師所属	研修会等名	依頼者	期間
井上雅央	鳥獣害研究チーム	猿害対策講習会	さぬき市鳥獣害対策協議会	H21.07.12 ~ H21.07.12
井上雅央	鳥獣害研究チーム	平成21年度静岡県鳥獣被害対策総合アドバイザー養成研修	静岡県産業部	H21.07.12 ~ H21.07.14
上田弘則	鳥獣害研究チーム	平成21年度静岡県鳥獣被害対策総合アドバイザー養成研修	静岡県産業部	H21.07.12 ~ H21.07.14
井上雅央	鳥獣害研究チーム	平成21年度鳥獣害対策研修	京都府農林水産部	H21.07.14 ~ H21.07.15
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	共済部長支部長及び女性部代議員研修会	大分県中西部農業共済組合	H21.07.14 ~ H21.07.15
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	獣害対策講習会	岐阜県高山市国府町糠塚町内会	H21.07.25 ~ H21.07.26
山内 稔	産学官連携推進センター	食糧栽培技術研修会	全国農業協同組合連合会愛媛県本部	H21.07.27 ~ H21.07.27
大島一修	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	地域研修会(勉強会)	(社)高知県畜産会	H21.07.29 ~ H21.07.30
井上雅央	鳥獣害研究チーム	平成21年度大分県鳥獣害対策アドバイザー研修会	大分県農林水産部森との共生推進室	H21.07.29 ~ H21.07.31
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	福井県福井農林総合事務所	H21.07.31 ~ H21.08.01
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	岡山市地域鳥獣被害防止対策協議会	H21.08.03 ~ H21.08.03
井上雅央	鳥獣害研究チーム	平成21年度和歌山県農作物鳥獣害対策アドバイザー第4回研修会	和歌山県農業協同組合中央会	H21.08.04 ~ H21.08.05
井上雅央	鳥獣害研究チーム	三重県獣害対策研修会	国立大学法人岐阜大学応用生物科学部獣医学講座野生動物医学研究室	H21.08.06 ~ H21.08.07
井上雅央	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	伊予市鳥獣害防止総合対策協議会	H21.08.10 ~ H21.08.12
吉田智一	生産支援システム研究近中四サブチーム	「GAP導入促進のための経営支援ナビゲーションシステムの開発」検討会	国立大学法人九州大学大学院農学研究院	H21.08.11 ~ H21.08.12
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	岡山市地域鳥獣被害防止対策協議会	H21.08.19 ~ H21.08.19
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	鳥獣害防止対策研修会	富山県農林水産部	H21.08.20 ~ H21.08.21
上田弘則	鳥獣害研究チーム	イノシシ被害防止に関する講演会	大和地域農業振興部会	H21.08.25 ~ H21.08.25
高田兼則	パン用小麦研究近中四サブチーム	山口大学公開講座	国立大学法人山口大学エクステンションセンター	H21.08.26 ~ H21.08.26
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	瀬戸内流域森林整備センター	H21.08.27 ~ H21.08.27
柴田昇平	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	農業気象に関する講演	香川県立農業大学校	H21.09.01 ~ H21.09.01
上田弘則	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	世羅郡水田農業推進協議会	H21.09.02 ~ H21.09.02
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	農作物鳥獣害防止指導者育成研修	埼玉県農林部	H21.09.02 ~ H21.09.04

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

氏名	講師所属	研修会等名	依頼者	期間
根角博久	次世代カンキツ生産技術研究チーム	たまみの上島町普及活動に伴う講演	愛媛県越智郡上島町産業振興課	H21.09.04 ~ H21.09.04
柴田昇平	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	農業気象に関する講演	香川県立農業大学校	H21.09.08 ~ H21.09.08
島崎昌彦	次世代カンキツ生産技術研究チーム	平成21年度新技術活用研修(果樹)	兵庫県立農林水産技術総合センター	H21.09.08 ~ H21.09.08
鳥越洋一	所長	岡山大学大学院自然科学研究科教育改革委員会素案作成WG	国立大学法人岡山大学大学院自然科学研究科	H21.09.08 ~ H21.09.08
川嶋浩樹	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	第4回施設園芸技術中級講座	(社)日本施設園芸協会	H21.09.09 ~ H21.09.10
井上雅央	鳥獣害研究チーム	平成21年度静岡県鳥獣被害対策総合アドバイザー養成研修会	静岡県農業協同組合中央会	H21.09.09 ~ H21.09.11
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	イノシシ被害対策	玖珠町鳥獣被害対策協議会	H21.09.11 ~ H21.09.12
井上雅央	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣被害対策研修会	日向市有害鳥獣対策協議会	H21.09.23 ~ H21.09.25
井上雅央	鳥獣害研究チーム	有害鳥獣対策総決起大会の基調講演	佐伯地区林業研究グループ連絡協議会	H21.09.25 ~ H21.09.27
柴田昇平	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	農業気象に関する講演	香川県立農業大学校	H21.09.29 ~ H21.09.29
荒木悦子	米品質研究近中四サブチーム	米粉加工研修会	島根県農業技術センター	H21.09.30 ~ H21.09.30
山内 稔	産学官連携推進センター	北陸地区クボタグループ「きらめきほくりく夢農業」機械化実演及び営農研修会	(株)クボタ	H21.10.05 ~ H21.10.07
井上雅央	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー	全国土地改良事業団体連合会	H21.10.06 ~ H21.10.07
井上雅央	鳥獣害研究チーム	獣害対策に係る「関係職員研修会」及び「地域研修会」	三重県熊野農林商工環境事務所	H21.10.08 ~ H21.10.09
井上雅央	鳥獣害研究チーム	新技術活用優良農地利用高度化支援事業に係る鳥獣害防止対策研修会	東牟婁振興局産業振興部	H21.10.09 ~ H21.10.09
井上雅央	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー	白浜町鳥獣害防止対策協議会	H21.10.10 ~ H21.10.11
井上雅央	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣被害対策に係る現地講習会	伊根町地域担い手育成総合支援協議会	H21.10.12 ~ H21.10.13
柴田昇平	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	農業気象に関する講演	香川県立農業大学校	H21.10.13 ~ H21.10.13
荒木悦子	米品質研究近中四サブチーム	平成21年度新技術活用研修(農村生活)	兵庫県立農林水産技術総合センター	H21.10.20 ~ H21.10.20
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	イノシシの防除についての講演	川崎町鳥獣被害防止対策協議会	H21.10.21 ~ H21.10.23
上田弘則	鳥獣害研究チーム	平成21年度石川県鳥獣被害防止対策研修会	石川県農林水産部	H21.10.22 ~ H21.10.23
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー	土佐清水市有害鳥獣被害対策協議会	H21.10.26 ~ H21.10.28
石川直幸	めん用小麦研究近中四サブチーム	米麦改良現地研修会	(社)全国米麦改良協会	H21.10.29 ~ H21.10.30

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

氏名	講師所属	研修会等名	依頼者	期間
山内 稔	産学官連携推進センター	鉄コーティング水稲直播栽培技術普及検討会	全国農業協同組合連合会 営農総合対策部	H21.11.05 ~ H21.11.07
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	獣害対策研修会	鳥羽市獣害対策協議会	H21.11.05 ~ H21.11.05
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	獣害対策研修会	南伊勢町鳥獣害防止総合対策協議会	H21.11.06 ~ H21.11.07
山内 稔	産学官連携推進センター	平成21年度土づくり研究会	土づくり肥料推進協議会 大阪・中四国支部	H21.11.10 ~ H21.11.11
井上雅央	鳥獣害研究チーム	イノシシ被害対策に関する公開講座	千葉県農林水産部農村振興課	H21.11.11 ~ H21.11.12
長田健二	稲収量性研究近中四サブチーム	「近年の気象変動に伴う米作りの基本課題」に関する研究会	米味インプルーブメント研究会	H21.11.12 ~ H21.11.12
井上雅央	鳥獣害研究チーム	大分県鳥獣害対策シンポジウム(中部)	大分県農林水産部 森との共生推進室	H21.11.16 ~ H21.11.17
高橋佳孝	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	平成21年度肉用牛繁殖基盤強化総合対策事業(新規参入円滑化推進事業)の新規参入者集合研修会	(社)中央畜産会	H21.11.17 ~ H21.11.18
植山秀紀	企画管理部業務推進室企画チーム	産学官連携共同研究推進等に係る指導	兵庫県立農林水産技術総合センター	H21.11.17 ~ H21.11.17
山崎敬亮	環境保全型野菜研究チーム	平成21年度「農のスペシャリスト講座」	鳥取県農林水産部農業大学校	H21.11.18 ~ H21.11.19
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	平成21年度鳥獣被害対策研修会	福岡県農林水産部園芸振興課	H21.11.18 ~ H21.11.19
荒木悦子	米品質研究近中四サブチーム	米粉活用シンポジウム	岡山県農山漁村生活交流グループ協議会	H21.11.25 ~ H21.11.25
飯田修一	米品質研究近中四サブチーム	公開シンポジウム	日本作物学会四国支部事務局	H21.11.26 ~ H21.11.27
井上雅央	鳥獣害研究チーム	鳥獣害対策講演会	敦賀市鳥獣害対策協議会	H21.11.27 ~ H21.11.28
荒木悦子	米品質研究近中四サブチーム	近畿作物・育種研究会公開シンポジウム	近畿作物・育種研究会	H21.11.28 ~ H21.11.29
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	大分県鳥獣害対策シンポジウム(豊肥)	大分県農林水産部 森との共生推進室	H21.11.30 ~ H21.12.02
井上雅央	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	熊本県農林水産部 農業技術課	H21.11.30 ~ H21.12.02
山内 稔	産学官連携推進センター	水稲鉄コーティング直播栽培研修会	(株)クボタ 機械営業本部	H21.12.01 ~ H21.12.03
井上雅央	鳥獣害研究チーム	獣害対策に係る「関係職員研修会」	三重県熊野農林商工環境事務所	H21.12.03 ~ H21.12.03
小林英和	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	水田・飼料稲活用放牧現地検討会	(社)岡山県畜産協会	H21.12.04 ~ H21.12.04
井上雅央	鳥獣害研究チーム	松阪地域獣害対策研修会	松阪地域農業振興協議会	H21.12.04 ~ H21.12.05
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	獣種別被害対策研修会	静岡県農業協同組合中央会	H21.12.07 ~ H21.12.09
松下 景	低コスト稲育種研究近中四サブチーム	山口県草地研究会平成21年度第2回研究会	山口県草地研究会	H21.12.09 ~ H21.12.09
井上雅央	鳥獣害研究チーム	農作物被害防止対策講演会	那智勝浦町鳥獣害防止対策協議会	H21.12.09 ~ H21.12.10

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

氏名	講師所属	研修会等名	依頼者	期間
長田健二	稲収量性研究近中四サブチーム	研究職員の資質向上のための研修	滋賀県農業技術振興センター	H21.12.10 ~ H21.12.11
鳥越洋一	所長	丹後農業研究所農業セミナー「これからの丹後産コシヒカリを考える」	京都府農林水産技術センター農林センター	H21.12.15 ~ H21.12.15
吉田智一	生産支援システム研究サブチーム	PMS（作業計画・管理支援システム）研修会	J A 尾道市世羅営農センター	H21.12.15 ~ H21.12.15
高橋佳孝	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	平成21年度長崎県肉用牛振興ビジョン21研修会	(社)長崎県畜産協会	H21.12.15 ~ H21.12.16
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	大分県鳥獣害対策シンポジウム（北部）	大分県農林水産部森との共生推進室	H21.12.16 ~ H21.12.18
松下景	低コスト稲育種研究近中四サブチーム	飼料イネ作付・利用に関する研修会	(社)広島県畜産協会	H21.12.22 ~ H21.12.22
安武正史	企画管理部研究調整役	平成21年度中国四国バイオマス発見活用協議会主催「広島県バイオマス利活用地域説明会 in 世羅町」	(株)廃棄物工学研究所	H21.12.25 ~ H21.12.25
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	イノシシの行動と被害対策の講演	嘉飯桂地区鳥獣被害防止対策協議会	H22.01.17 ~ H22.01.18
上田弘則	鳥獣害研究チーム	イノシシによる農作物被害対策の講演	広島県西部農業技術指導所	H22.01.18 ~ H22.01.18
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	動物行動学の講義	麻布大学獣医学部	H22.01.19 ~ H22.01.20
竹田博之	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム	平成21年度「稲・麦・大豆を中心とした土地利用型作物の生産性向上セミナー」	(社)全国農業改良普及支援協会	H22.01.21 ~ H22.01.21
井上雅央	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	勝北地域活動組織	H22.01.21 ~ H22.01.22
高橋佳孝	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	遊休農地解消研修会（現地実演会）	淡路市担い手育成総合支援協議会	H22.01.21 ~ H22.01.22
井上雅央	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	真庭市鳥獣被害防止対策協議会	H22.01.22 ~ H22.01.23
上田弘則	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	土庄町鳥獣害対策協議会	H22.01.22 ~ H22.01.23
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	小豆島町鳥獣被害防止対策協議会	H22.01.22 ~ H22.01.23
井上雅央	鳥獣害研究チーム	「一斉捕獲研究会」に伴う講演会	茨城栃木鳥獣害広域対策協議会	H22.01.24 ~ H22.01.26
上田弘則	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	岡山県備中県民局農林水産事業部	H22.01.26 ~ H22.01.26
上田弘則	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	愛媛県東予地方局	H22.01.26 ~ H22.01.27
長崎裕司	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	平成21年度産学官連携コーディネーションセミナー（岡山）	(社)農林水産先端技術産業振興センター	H22.02.02 ~ H22.02.02
高橋佳孝	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	平成21年度大分県水田・里山放牧シンポジウム	大分県草地飼料協会	H22.02.04 ~ H22.02.06
山内稔	産学官連携推進センター	(株)福井クボタ「鉄コーティング講習会及び作業実演」	(株)クボタ機械営業本部（西日本）中部地区	H22.02.05 ~ H22.02.06

近畿中国四国農業研究センター年報 平成21年度

氏名	講師所属	研修会等名	依頼者	期間
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	鳥獣害対策研修会	下板木郷集落協定組合	H22.02.07 ~ H22.02.07
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	鳥獣害対策学習会	福井県鯖江市	H22.02.11 ~ H22.02.13
井上雅央	鳥獣害研究チーム	獣害対策現地指導及び獣害研修会	御浜町鳥獣害防止総合対策協議会	H22.02.16 ~ H22.02.16
上田弘則	鳥獣害研究チーム	鳥獣害対策研修会	久々野町農業改良組合長会	H22.02.18 ~ H22.02.20
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	鳥獣被害防止技術現地研修会	鹿児島県農政部農村振興課	H22.02.18 ~ H22.02.20
長崎裕司	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	農業機械利用技能者養成研修Ⅲ	香川県立農業大学校	H22.02.19 ~ H22.02.19
井上雅央	鳥獣害研究チーム	鳥獣被害対策研修会	能勢町有害鳥獣対策協議会	H22.02.21 ~ H22.02.21
井上雅央	鳥獣害研究チーム	鈴鹿市地域住民獣害対策研修会	鈴鹿市鳥獣被害防止対策協議会	H22.02.21 ~ H22.02.22
上田弘則	鳥獣害研究チーム	西予市鳥獣害防止対策講演会	西予市鳥獣被害防止対策協議会	H22.02.23 ~ H22.02.25
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	丹後地区農業共済組合	H22.02.23 ~ H22.02.24
矢野 博	品種識別・産地判別研究チーム	セミナー「柿の育種戦略と新規用途開発の展望」	特定非営利活動法人中国四国農林水産・食品先進技術研究会	H22.02.23 ~ H22.02.24
山内 稔	産学官連携推進センター	東海地区クボタグループ夢農業「ルネッサンス 2010」	(株)クボタ 機械営業本部(西日本)中部地区	H22.02.23 ~ H22.02.26
井上雅央	鳥獣害研究チーム	獣害対策研修会	滋賀県東近江農業農村振興事務所	H22.02.23 ~ H22.02.23
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	野生鳥獣被害防止対策研修会	市原市有害鳥獣対策協議会	H22.02.25 ~ H22.02.27
上田弘則	鳥獣害研究チーム	鳥獣害対策講習会	矢掛町有害鳥獣被害対策協議会	H22.02.26 ~ H22.02.26
上田弘則	鳥獣害研究チーム	農作物鳥獣害対策講演会	豊川市鳥獣被害防止対策協議会	H22.02.27 ~ H22.02.28
井上雅央	鳥獣害研究チーム	イノシシ被害防止対策研修会	佐賀市鳥獣害対策協議会	H22.02.27 ~ H22.02.27
井上雅央	鳥獣害研究チーム	大分県中部地区鳥獣害対策集落検討会	中部地区食料・農業・農村振興協議会	H22.02.28 ~ H22.03.01
井上雅央	鳥獣害研究チーム	大分県鳥獣害対策シンポジウム(南部)	大分県農林水産部森との共生推進室	H22.03.01 ~ H22.03.02
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	平成21年度中山間地域等直接支払制度協定代表者研修会	西白杵地域担い手育成総合支援協議会	H22.03.01 ~ H22.03.03
井上雅央	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣被害対策研修会	延岡市野生猿被害対策協議会	H22.03.02 ~ H22.03.03
石川直幸	めん用小麦研究近中四サブチーム	平成21年度麦・大豆生産振興研修会	(社)岐阜県米麦改良協会	H22.03.03 ~ H22.03.03
井上雅央	鳥獣害研究チーム	獣害対策講演会	群馬県沼田市	H22.03.04 ~ H22.03.06
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	平成21年度農林水産省委託「防除技術講習会」	全国農業共済協会	H22.03.04 ~ H22.03.05
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	豊後大野市鳥獣被害対策協議会研修会	豊後大野市鳥獣被害対策協議会	H22.03.08 ~ H22.03.10
井上雅央	鳥獣害研究チーム	鳥獣害防止対策研修会	海草振興局地域振興部	H22.03.10 ~ H22.03.10

氏名	講師所属	研修会等名	依頼者	期間
井上雅央	鳥獣害研究チーム	野生鳥獣被害対策講演会	京都府農林水産部	H22.03.11 ~ H22.03.12
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	イノシシ被害対策研修会	長生地域農林業振興協議会	H22.03.11 ~ H22.03.13
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	平成21年度石川県イノシシ被害対策研修会	石川県環境部自然保護課	H22.03.15 ~ H22.03.16
上田弘則	鳥獣害研究チーム	イノシシ・サル・シカの被害に伴う講師	尾道・御調地域水田農業推進協議会	H22.03.16 ~ H22.03.16
江口祐輔	鳥獣害研究チーム	鳥獣被害防止に関する講習会	今治市鳥獣被害対策協議会	H22.03.17 ~ H22.03.18
高橋佳孝	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	平成21年度畜産生産性向上促進総合対策に係る畜産生産性向上促進対策研究会	(社)兵庫県畜産協会	H22.03.19 ~ H22.03.19
井上雅央	鳥獣害研究チーム	鳥獣害対策研修会	豊後高田市有害鳥獣被害防止対策協議会	H22.03.22 ~ H22.03.24
上田弘則	鳥獣害研究チーム	鳥獣害現地検討会	東みよし町有害鳥獣被害防止対策協議会	H22.03.23 ~ H22.03.24
上田弘則	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー	阿佐地域鳥獣害防止広域対策協議会	H22.03.24 ~ H22.03.26
山内 稔	産学官連携推進センター	(株)富山クボタ「鉄コーティング講習会及び作業実演」	(株)クボタ 機械営業本部(西日本)中部地区	H22.03.25 ~ H22.03.26
井上雅央	鳥獣害研究チーム	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	紀北町鳥獣害防止総合対策協議会	H22.03.25 ~ H22.03.26

3) 当センター主催の技術指導

研修会等名	期間	開催場所	参加者数
【革新的農業技術習得支援研修】 鳥獣害被害の実態と被害防止技術	H21.06.17 ~ H21.06.19	近畿中国四国農業研究センター 大田研究拠点	25名
【革新的農業技術習得支援研修】 施設野菜の省力・低コスト生産技術	H21.09.03 ~ H21.09.04	近畿中国四国農業研究センター 四国研究センター生野地区	16名

4) 依頼分析、試験及び同定

区分	担当研究チーム名	件数
分析	めん用小麦研究近中四サブチーム	9件
分析	大麦・はだか麦研究チーム	4件
同定	該当なし	

4. 共同研究

共同研究相手先	担当研究チーム名	件数
富士産業株式会社	産学官連携推進センター(四国研究センター)	1件
(独)産業技術総合研究所	産学官連携推進センター(四国研究センター)	1件
国立大学法人高知大学	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム	1件
国立大学法人三重大学	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム	1件
愛媛県農林水産研究所	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム	1件
山口県農林総合技術センター	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム	1件
サッポロビール株式会社	大麦・はだか麦研究チーム	1件
長崎県(長崎県総合農林試験場)、(独)理化学研究所	大麦・はだか麦研究チーム	1件
山口県農林総合技術センター	次世代カンキツ生産技術研究チーム	1件
パナソニック電工株式会社	環境保全型野菜研究チーム	1件
兵庫県立農林水産技術総合センター	レタスビッグベイン研究チーム	1件

共同研究相手先	担当研究チーム名	件数
香川県農業試験場	レタスピッグペイン研究チーム	1件
国立大学法人名古屋大学	広域農業水系保全研究チーム	1件
全国農業協同組合連合会	低コスト稲育種研究近中四サブチーム	1件
中央農業総合研究センター、作物研究所、 農業生物資源研究所、茨城県農業総合センター、 愛知県農業総合試験場、宮崎県総合農業試験場	低コスト稲育種研究近中四サブチーム	1件
シバザクラの里乃美振興組合	米品質研究近中四サブチーム	1件
つやま新産業創出機構	米品質研究近中四サブチーム	1件
(財)瀬戸内市振興公社	米品質研究近中四サブチーム	1件
(独)酒類総合研究所、黄桜株式会社	米品質研究近中四サブチーム	1件
タカノフーズ株式会社研究所	大豆育種研究近中四サブチーム	1件
株式会社夢石庵、嘉美心酒造株式会社	大豆育種研究近中四サブチーム	1件
国立大学法人岡山大学	めん用小麦研究近中四サブチーム	1件
日本製粉株式会社	めん用小麦研究近中四サブチーム	1件
国立大学法人岡山大学	パン用小麦研究近中四サブチーム	1件

5. 協定研究

協定研究相手先	担当研究チーム名	件数
学校法人東京農業大学	中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム	1件
株式会社はくばく	大麦・はだか麦研究チーム	1件
アサヒビール株式会社	大麦・はだか麦研究チーム	1件
株式会社フィールテクノロジー	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	1件
島根県畜産技術センター	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	1件
神奈川県農業技術センター	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	1件
国立大学法人京大生学態学センター	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	1件
国立大学法人広島大学	米品質研究近中四サブチーム	1件
山口県農林総合技術センター	めん用小麦研究近中四サブチーム	1件
滋賀県農業技術振興センター	めん用小麦研究近中四サブチーム	1件
京都府農業総合研究所	めん用小麦研究近中四サブチーム	1件
兵庫県立農林水産技術総合センター	めん用小麦研究近中四サブチーム	1件
岡山県農業総合センター	めん用小麦研究近中四サブチーム	1件
広島県立総合技術研究所	めん用小麦研究近中四サブチーム	1件
奈良県農業総合センター	めん用小麦研究近中四サブチーム	1件
愛媛県農林水産研究所	めん用小麦研究近中四サブチーム	1件
中国新疆農業科学院作物品種資源研究所	パン用小麦研究近中四サブチーム	1件
日東富士製粉株式会社	パン用小麦研究近中四サブチーム	1件
ホクレン農業協同組合連合会農業総合研究所	パン用小麦研究近中四サブチーム	1件
国立大学法人鳥取大学	パン用小麦研究近中四サブチーム	1件
広島県立総合技術研究所東部工業センター	カバークローブ研究近中四サブチーム	1件
国立大学法人山口大学	特命チーム員（食肉プロテオーム研究チーム）	1件

6. 開放型研究施設（オープンラボ）の利用状況

施設名	利用件数（人・日）
農産物等解析開放型研究施設	1,042
傾斜地農業開放型研究施設	405
第2共同実験棟	1,631

VI 組織・人事・会計

1. 組織

所 長

— 四国農業研究監		四国地域の農業に関する試験及び研究並びに調査に関する業務
— 企画管理部	— 審 議 役	重要な総務に関する業務を総括整理
	— 研 究 調 整 役	特定の試験及び研究並びに調査の企画、立案及び調整に関する業務
	— 業 務 推 進 室	
	— 調 査 役	予算の要求、配分及び執行に係る計画の立案等に係る調査の業務
	— 企 画 チ ー ム	(企画調整、交流調整)
	— 運 営 チ ー ム	(連絡調整、運営調整、予算管理)
	— 管 理 課	
	— 庶 務 チ ー ム	(労務・職員管理、庶務、厚生)
	— 会 計 チ ー ム	(会計、審査、調達、資産管理)
	— 綾部管理チーム	(庶務、会計)
	— 大田管理チーム	(庶務、会計)
	— 情 報 広 報 課	試験及び研究並びに調査に係る情報の収集、整理、提供及び成果の広報並びに情報システムの管理
	— 四国企画管理室	
	— 調 査 役	四国研究センターにおける総務に関する特定の業務を総括し、及び総務に関する事項についての関係部署との連絡調整の業務
	— 連 絡 調 整 チ ー ム	(企画調整、情報管理、広報)
	— 管 理 チ ー ム	(庶務、厚生、会計、調達、資産管理)
— 研究管理監		試験及び研究並びに調査の重要な企画、立案、推進及び評価に関する業務
— 産学官連携推進センター		産学官の連携のためのコーディネート、産学官の連携による共同研究の推進その他産学官の連携に関する業務
— 地域営農・流通システム研究チーム		近畿・中国・四国地域における中山間・傾斜地の地域資源を活用した多様な主体間のネットワークによる農業活性化方策の策定
— 中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム		近畿・中国・四国地域における中小規模水田利用システムの確立
— 品種識別・産地判別研究チーム		農産物や加工食品の簡易・迅速な品種識別・産地判別技術の開発
— 大麦・はだか麦研究チーム		大麦・はだか麦などの需要拡大のための用途別加工適性に優れた品種の育成と有用系統の開発
— 次世代カンキツ生産技術研究チーム		次世代型マルドリ方式を基軸とするカンキツ等の省力・高品質安定生産技術の確立
— 粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム		中山間地域の遊休農林地等における放牧を活用した黒毛和種経産牛への粗飼料多給による高付加価値牛肉の生産技術
— 中山間傾斜地域施設園芸研究チーム		中山間・傾斜地の立地条件を活用した施設園芸生産のための技術開発

農業・農村のやすらぎ機能研究チーム	農業・農村のもつやすらぎ機能や教育機能等の社会学的解明
環境保全型野菜研究チーム	中山間・傾斜地における環境調和型野菜花き生産技術の開発
鳥獣害研究チーム	野生鳥獣の行動等の解明による鳥獣害回避技術の開発
レタスビッグベイン研究チーム	レタスビッグベイン病抵抗性実用品種の育成及び抵抗性増強技術の開発
広域農業水系保全研究チーム	閉鎖系水系の水質保全をめざした環境負荷推定モデルの構築と負荷低減管理技術の開発
生産支援システム研究近中四サブチーム	生産・流通 I T 化のための農業技術体系 D B 及び意思決定支援システムの開発
低コスト稲育種研究近中四サブチーム	直播適性に優れた高生産性飼料用・低コスト業務用水稲品種の育成
稲収量性研究近中四サブチーム	イネゲノム解析に基づく収量形成生理の解明と育種素材の開発
米品質研究近中四サブチーム	イネゲノム解析に基づく品質形成生理の解明と育種素材の開発
大豆育種研究近中四サブチーム	省力・機械化適性、加工適性、病虫害抵抗性を有する食品用大豆品種の育成と品質安定化技術の開発
めん用小麦研究近中四サブチーム	めん用小麦品種の育成と品質安定化技術の開発
パン用小麦研究近中四サブチーム	実需者ニーズに対応したパン・中華めん用等小麦品種・系統の育成と品質安定化技術の開発
カバークロップ研究近中四サブチーム	カバークロップ等を活用した省資材・環境保全型栽培管理技術の開発
暖地温暖化研究近中四サブチーム	暖地における気候温暖化等環境変動に対応した農業生産管理技術の開発
特命チーム員	
生物的病害制御研究チーム (主査：中央農業総合研究センター)	誘導抵抗性等を活用した生物的病害抑制技術の開発
総合的害虫管理研究チーム (主査：中央農業総合研究センター)	土着天敵等を活用した虫害抑制技術の開発
健康機能性研究チーム (主査：果樹研究所)	カンキツ・リンゴ等果実の健康増進機能性成分の機能解明と高含有育種素材の開発
食肉プロテオーム研究チーム (主査：畜産草地研究所)	牛の肉質形成過程のプロテオーム解析
研究支援センター	試験及び研究並びに調査に供するほ場及び動植物の管理に関する業務
業務第 1 科 (福山)	
" (綾部研究拠点駐在)	
業務第 2 科 (善通寺)	
業務第 3 科 (大田)	

2. 人 事

1) 現在員数

(平成 22 年 3 月 31 日現在)

所 属	指定職員	一般職員	技術専門 職員	研究職員	任期付 研究員	計
所長	1					1
四国農業研究監				1		1
企画管理部		50	2	6		58
研究管理監				5		5
産学官連携推進センター				4		4
地域営農・流通システム研究チーム				5	1	6
中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム				12		12
品種識別・産地判別研究チーム				2		2
大麦・はだか麦研究チーム				4		4
次世代カンキツ生産技術研究チーム				7		7
粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム				8		8
中山間傾斜地域施設園芸研究チーム				13		13
農業・農村のやすらぎ機能研究チーム				2		2
環境保全型野菜研究チーム				9	2	11
鳥獣害研究チーム				3		3
レタスビッグベイン研究チーム				4		4
広域農業水系保全研究チーム				7		7
生産支援システム研究近中四サブチーム				3		3
低コスト稲育種研究近中四サブチーム				2		2
稲収量性研究近中四サブチーム				3		3
米品質研究近中四サブチーム				3		3
大豆育種研究近中四サブチーム				4		4
めん用小麦研究近中四サブチーム				3		3
パン用小麦研究近中四サブチーム				3		3
カバークロップ研究近中四サブチーム				2		2
暖地温暖化研究近中四サブチーム				3		3
特命チーム						
生物的病害制御研究チーム				2		2
総合的害虫管理研究チーム				2		2
健康機能性研究チーム					1	1
食肉プロテオーム研究チーム				1		1
研究支援センター		1	70	3		74
計	1	51	72	126	4	254

※ 現在員：3月31日付け定年退職、辞職を含む。
 ：派遣職員及び育児休業を含む。
 ：育児休業に伴う任期付職員を除く。

2) 農研機構特別研究員

(平成 22 年 3 月 31 日現在)

研究課題	福 山	善通寺	綾 部	大 田	計
生物系産業創出のための異分野融合研究支援事業 「オオムギ染色体導入コムギのプロテオーム解析と材料調整」	1	0	0	0	1

3) 委員等の就任状況

委員等	依頼元	所属	氏名	任期
バイオマスエネルギー地域システム化検討委員会委員	熊本県阿蘇市長	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	高橋佳孝	H18.03.27 ~ H22.03.31
山口県鳥獣被害防止対策協議会委員	山口県農林水産部長	鳥獣害研究チーム	井上雅央	H19.06.01 ~ H22.03.31
香川県農業技術総合推進検討会委員	香川県知事	四国農業研究監	河合 章	H19.08.01 ~ H21.07.31
先端技術活用型高度生産技術研究会委員	愛媛県西条市長	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	菅谷 博	H19.10.19 ~ H22.02.28
(財)かがわ産業支援財団かがわ中小企業応援ファンド事業審査委員会委員	(財)かがわ産業支援財団理事長	産学官連携推進センター	関谷敬三	H19.12.01 ~ H21.11.19
「京都府農と環境を守る地域協働活動支援委員会」委員	京都府知事	環境保全型野菜研究チーム	熊倉裕史	H20.03.06 ~ H22.03.31
平成20、21年度中国四国農政局むらづくり審査会委員	中国四国農政局長	研究管理監	川上秀和	H20.04.18 ~ H22.03.31
岡山県農業総合センター農業試験場外部評価委員会委員	岡山県農業総合センター所長	所長	鳥越洋一	H20.05.01 ~ H22.03.31
岡山県総合畜産センター外部評価委員会委員	岡山県総合畜産センター所長	研究管理監	相川勝弘	H20.05.01 ~ H21.11.01
滋賀県農林水産関係試験研究外部評価委員会委員	滋賀県農政水産部長	研究管理監	楠田 幸	H20.07.30 ~ H23.03.31
山口県イノシシ対策検討会委員	山口県環境生活部長	鳥獣害研究チーム	上田弘則	H20.07.31 ~ H21.05.31
都市エリア産学官連携促進事業(発展型)における外部評価委員会委員	(財)かがわ産業支援財団理事長	産学官連携推進センター	関谷敬三	H20.08.01 ~ H23.03.31
笠岡市バイオマス利活用推進協議会委員	笠岡市長	企画管理部研究調整役	安武正史	H20.10.03 ~ H22.03.31
中央環境審議会臨時委員	環境省大臣官房長	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	高橋佳孝	H21.01.06 ~ H23.01.05
京都大学東南アジア研究所共同研究員	京都大学東南アジア研究所長	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	内田晴夫	H21.01.26 ~ H22.03.31
科学技術・学術審議会専門委員	文部科学省科学技術・学術政策局長	パン用小麦研究近中四サブチーム	安井 健	H21.02.01 ~ H23.01.31
香川大学公正研究委員会委員	香川大学長	四国農業研究監	河合 章	H21.04.01 ~ H23.03.31
中国四国農政局国営事業地区営農基盤整備等推進委員会委員	中国四国農政局長	企画管理部長	今川俊明	H21.04.27 ~ H23.03.31

委員等	依頼元	所属	氏名	任期
中国四国農政局国営事業地区営農基盤整備等推進委員会幹事会幹事	中国四国農政局長	企画管理部長	今川俊明	H21.04.27 ~ H23.03.31
中国四国農政局国営事業地区営農基盤整備等推進委員会作業部会部会員	中国四国農政局長	企画管理部業務推進室	大黒正道	H21.04.27 ~ H22.03.31
水稲関係除草剤薬効薬害試験委員会専門調査員	(財) 日本植物調節剤研究協会	稲収量性研究近中四サブチーム	佐々木良治	H21.05.01 ~ H22.03.31
水稲関係除草剤薬効薬害試験委員会専門調査員	(財) 日本植物調節剤研究協会	カバークロープ研究近中四サブチーム	大谷一郎	H21.05.01 ~ H22.03.31
緑地管理関係除草剤薬効薬害試験委員会専門調査員	(財) 日本植物調節剤研究協会	カバークロープ研究近中四サブチーム	大谷一郎	H21.05.01 ~ H22.03.31
「四国地域イノベーション創出協議会」地域食品・健康分科会委員	(財) 四国産業・技術振興センター理事長	産学官連携推進センター	関谷敬三	H21.05.07 ~ H22.03.31
食品機械製造中小企業の振興に関する調査委員会委員	(財) 四国産業・技術振興センター理事長	産学官連携推進センター	関谷敬三	H21.05.08 ~ H22.03.31
平成21年度鳥獣害防止総合対策事業審査委員会委員	農林水産省生産局長	鳥獣害研究チーム	井上雅央	H21.05.18 ~ H22.03.31
香川県ふるさと・水と土保全対策推進委員会委員	香川県知事	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	菅谷 博	H21.05.18 ~ H22.06.26
施設園芸省エネ新技術等開発支援事業審査委員	(社) 日本施設園芸協会会長	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	川嶋浩樹	H21.06.01 ~ H22.03.31
平成21年度メイドイン大田創出支援事業審査委員会委員	大田市市長	研究管理監	相川勝弘	H21.06.01 ~ H22.03.31
かがわ糖質バイオ発新商品開発支援事業審査委員会委員	(財) かがわ産業支援財団理事長	産学官連携推進センター	関谷敬三	H21.06.15 ~ H22.03.31
脱石油施設園芸システム協議会及び導入指針検討会委員	(社) 日本施設園芸協会会長	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	川嶋浩樹	H21.06.19 ~ H22.03.31
平成21年度文部科学省委託事業「新たなたんぱく質推定に関わるアミノ酸組成に対する検証分析調査」検討委員	(財) 日本食品分析センター理事長	パン用小麦研究近中四サブチーム	安井 健	H21.07.09 ~ H22.03.31
平成21年度産学官連携による食料産業等活性化のための新技術開発事業推進委員	(社) 食品需給研究センター理事長	産学官連携推進センター	関谷敬三	H21.07.16 ~ H22.03.31
平成21年度鳥獣被害対策優良活動表彰審査委員会委員	農林水産省生産局長	鳥獣害研究チーム	江口祐輔	H21.07.29 ~ H22.03.31

委 員 等	依 頼 元	所 属	氏 名	任 期
大阪府環境農林水産総合研究所研究アドバイザー委員会委員	大阪府知事	所長	鳥越洋一	H21.07.31 ~ H22.03.31
香川県農業技術総合推進検討会委員	香川県知事	四国農業研究監	河合 章	H21.08.01 ~ H22.06.30
「四国地域イノベーション創出協議会」幹事会委員	(財)四国産業・技術振興センター理事長	研究管理監	川上秀和	H21.08.06 ~ H22.03.31
かがわ農商工連携ファンド事業審査委員会委員	(財)かがわ産業支援財団理事長	産学官連携推進センター	関谷敬三	H21.09.07 ~ H23.08.27
外部評価会議委員	山口県農林総合技術センター所長	企画管理部業務推進室	大黒正道	H21.09.28 ~ H22.03.31
中国四国農政局国営土地改良事業地区営農推進功労者表彰審査会審査員	中国四国農政局長	研究管理監	川上秀和	H21.10.01 ~ H23.03.31
香川用水土器川沿岸農業水利事業ワークショップ指導・助言者	中国四国農政局香川用水土器川沿岸農業水利事業所長	中山間傾斜地域施設園芸研究チーム	細川雅敏	H21.11.13 ~ H22.03.31
平成21年度「家畜の快適性に関する研究・評価法委員会」委員	社団法人畜産技術協会副会長	鳥獣害研究チーム	江口祐輔	H21.11.18 ~ H22.03.31
草地管理指標－草地の放牧利用編－改訂調査事業における検討委員会委員	社団法人日本草地畜産種子協会会長	研究管理監	篠田 満	H21.11.18 ~ H22.03.31
兵庫県立農林水産技術総合センター外部評価専門委員会委員	兵庫県知事	企画管理部長	今川俊明	H21.11.25 ~ H22.03.31
兵庫県立農林水産技術総合センター外部評価専門委員会委員	兵庫県知事	研究管理監	篠田 満	H21.11.25 ~ H22.03.31
広島県研究開発評価委員会ワーキングスタッフ	広島県知事	企画管理部長	今川俊明	H21.11.25 ~ H22.03.31
阿蘇文化的景観調査検討委員会委員	阿蘇市教育長	粗飼料多給型高品質牛肉研究チーム	高橋佳孝	H21.12.10 ~ H24.03.31

3. 会 計

1) 決 算 (所在地別内訳)

単位：千円

区 分	福 山	善 通 寺	綾 部	大 田	計
収 入					
1. 運営費交付金収入 (前年度繰越金)	9,470	0	0	0	9,470
2. 事業収入	75	1,675	14	4,383	6,147
(1) 生産物等売払収入	8	1,673	14	4,383	6,078
(2) その他事業収入	67	2	0	0	69
3. 受託収入	122,845	0	0	0	122,845
(1) 受託研究収入	113,479	0	0	0	113,479
ア. 地方公共団体受託研究収入	12,087	0	0	0	12,087
イ. 独立行政法人受託研究収入	78,767	0	0	0	78,767
ウ. 国立大学法人受託研究収入	9,460	0	0	0	9,460
エ. その他受託研究収入	13,165	0	0	0	13,165
(2) 受託調査等収入	0	0	0	0	0
(3) 受託出張収入	9,366	0	0	0	9,366
ア. 地方公共団体受託出張収入	1,971	0	0	0	1,971
イ. 独立行政法人受託出張収入	49	0	0	0	49
ウ. 国立大学法人受託出張収入	249	0	0	0	249
エ. その他受託出張収入	7,097	0	0	0	7,097
4. 補助金等収入	6,800	0	0	0	6,800
5. 事業外収入	3,231	147	0	170	3,548
6. 臨時収入	349	0	0	0	349
7. 通過資金預り金	3,830	0	0	0	3,830
8. 繰越積立金	0	0	0	0	0
計	146,600	1,822	14	4,553	152,989
支 出					
1. 運営費交付金	415,428	236,687	53,165	105,622	810,902
(1) 一般管理費	71,510	46,828	19,028	22,734	160,100
ア. 研究管理費	15,688	6,783	529	594	23,594
イ. 管理諸費	55,822	40,045	18,499	22,140	136,506
(2) 業務経費	343,918	189,859	34,137	82,888	650,802
2. 事業収入経費	2,476	2,249	419	1,002	6,146
3. 受託収入経費	188,179	161,432	25,594	38,267	413,472
(1) 受託研究収入経費	180,110	160,132	25,584	35,193	401,019
ア. 政府受託研究収入 (農水省)	144,419	89,829	6,972	29,893	271,113
イ. 地方公共団体受託研究経費	2,000	8,935	852	300	12,087
ウ. 独立行政法人受託研究経費	31,220	58,315	4,500	0	94,035
エ. 国立大学法人受託研究経費	1,159	0	9,460	0	10,619
オ. その他受託研究経費	1,312	3,053	3,800	5,000	13,165
(2) 受託調査等経費 (革新的農業技術習得研修)	0	966	0	2,121	3,087
(3) 受託出張経費	8,069	334	10	953	9,366
ア. 地方公共団体受託出張経費	1,959	0	0	12	1,971
イ. 独立行政法人受託出張経費	49	0	0	0	49
ウ. 国立大学法人受託出張経費	248	1	0	0	249
エ. その他受託出張経費	5,813	333	10	941	7,097
4. 補助金等経費	1,626	6,800	0	0	8,426
5. 事業外収入経費	1,762	595	542	649	3,548
6. 臨時収入経費	349	0	0	0	349
7. 通過資金預り金	3,670	0	1,500	1,430	6,600
計	613,490	407,763	81,220	146,970	1,249,443

2) 固定資産(所在地別内訳)

平成22年3月31日現在

区 分	福 山	善通寺	綾 部	大 田	計
有形固定資産					
土 地 (㎡)	227,093.05	963,610.29	62,907.89	2,019,455.99	3,273,067.22
建物建面積(㎡)	11,377.62	13,395.72	4,671.15	9,832.39	39,276.88
建物延面積(㎡)	16,231.40	16,673.86	5,275.10	11,308.12	49,488.48
構 築 物 (式)	1	1	1	1	4
樹 木 (本)	492	902	48	256	1,698
立 木 (㎡)	0.00	4,057.28	0.00	6,761.90	10,819.18
機 械 装 置 (点)	72	57	12	19	160
車 輛 運 搬 具 (点)	14	15	8	8	45
工 具 器 具 備 品 (点)	295	228	67	82	672
無形固定資産					
ソフトウェア(点)	24	14	1	0	39
電話加入権(回線)	0	0	0	0	0

Ⅶ 主な会議等

1. 近畿中国四国農業試験研究推進会議

会 議 名	開 催 日	開 催 場 所	参 集 者
近畿中国四国農業試験研究推進会議 評価企画会議	H21.08.07 ～ H21.08.07	福山労働会館	合計 48 名 (内訳) 農林水産技術会議事務局 1 名、 農政局 2 名、府県関係者 29 名、 果樹研 1 名、野茶研 1 名、 近中四農研 14 名
近畿中国四国農業試験研究推進会議 試験研究推進部会	H22.02.01 ～ H21.02.05	福山労働会館、 福山市市民参画センター、 福山市生涯学習プラザ、 福山商工会議所、 広島県民文化センターふくやま、 野菜茶業研究所(金谷)	合計 506 名 (延人数) 生産局 1 名、農政局 11 名、 大学等 15 名、府県関係者 329 名、 機構内 46 名、近中四農研 99 名、 その他 5 名
近畿中国四国農業試験研究推進会議 本会議	H22.02.12 ～ H21.02.12	福山市生涯学習プラザ	合計 56 名 (内訳) 農林水産技術会議事務局 1 名、 農政局 4 名、府県関係者 33 名、 機構本部 1 名、果樹研 1 名、 野茶研 1 名、農工研 1 名、 近中四農研 14 名

2. 近畿中国四国地域問題別研究会

会 議 名	開 催 日	開 催 場 所	参加者数
地域特産花きの生産振興に向けた技術開発戦略	H21.07.09 ～ H21.07.10	奈良県宇陀市	52 名
生産者・消費者に魅力的な研究成果を目指して	H21.07.09 ～ H21.07.10	広島県広島市	98 名
ウシにおける受胎率向上に向けた技術開発	H21.07.10 ～ H21.07.10	広島県福山市	37 名
地域特産茶の機能性と地域再生	H21.07.27 ～ H21.07.28	徳島県三好市	28 名
一次産業の付加価値を高めるための多面的アプローチ	H21.07.30 ～ H21.07.31	高知県南国市	28 名
合意形成・潜在ニーズ把握に向けたテキストマイニングの活用	H21.07.30 ～ H21.07.31	広島県福山市	45 名
ウシの E T 技術と育種改良	H21.09.03 ～ H21.09.03	島根県出雲市	176 名
平成 21 年度温暖地域水稲育成系統立毛検討会 (関東東海北陸農業試験研究推進会議と共同開催)	H21.09.03 ～ H21.09.04	愛知県愛知郡、 滋賀県蒲生郡	37 名
畦畔における草原環境の保全と省力管理	H21.09.07 ～ H21.09.07	広島県福山市	17 名
加工用・業務用野菜生産の現状と今後の戦略	H21.09.08 ～ H21.09.09	愛媛県松山市	44 名
地域特産物の土壌施肥管理技術	H21.09.10 ～ H21.09.11	徳島県徳島市	48 名
大豆および野菜における省力・軽労・安定生産技術	H21.09.10 ～ H21.09.11	滋賀県大津市	34 名
冬作技術研究会	H21.09.17 ～ H21.09.18	香川県善通寺市	37 名

会 議 名	開催日	開催場所	参加者数
都市近郊における省力型・環境保全型病害虫管理技術	H21.10.05 ～ H21.10.06	山口県山口市	75名
食品流通問題別研究会（産総研、産業技術連携推進会議地域部会中国、四国の食品関連会議と合同開催）	H21.11.26 ～ H21.11.27	香川県高松市	52名
地球温暖化時代の地域農業の展望	H21.12.03 ～ H21.12.03	高知県高知市	61名
土壌への有機物施用と環境保全型農業	H22.01.21 ～ H22.01.22	広島県福山市	68名
高度管理手法による作物病害虫制御技術	H22.03.02 ～ H22.03.04	岡山県岡山市	119名
育種栽培検討会（水稻品種・系統検討会、栽培研究会、大豆品種・系統検討会）	H22.03.04 ～ H22.03.05	広島県福山市	68名
農業の作物残留、環境中動態及び生物影響に関する研究の現状と課題	H22.03.15 ～ H22.03.16	岡山県岡山市	22名

3. 地域研究・普及連絡会議

会 議 名	開催日	開催場所	参加者数
平成21年度中国四国地域研究・普及連絡会議	H21.06.30	岡山第2合同庁舎	33名
平成21年度近畿地域研究・普及連絡会議に係る調整会議	H21.07.01	メルパルク京都	30名
平成21年度中国四国地域研究・普及連絡会議	H21.10.09	岡山第2合同庁舎	41名
平成21年度近畿地域研究・普及連絡会議	H21.10.23	ホテルルビノ京都堀川	45名

4. 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業推進会議等

会 議 名	開催日	開催場所	参加者数
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「多種多様な栽培形態で有効な飛ばないナミテントウ利用技術の開発」試験設計会議	H21.05.27	岡山大学（岡山市）	16名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「2種生物資材の有効活用によるキュウリ黄化えそ病防除技術の開発」設計会議	H21.05.27 ～ H21.05.28	近中四農研（四国）	13名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「備讃地域陸海域の水・栄養塩動態解明と農業への再利用技術の開発」第1回推進会議	H21.06.12	岡山県環境保健センター（岡山市）	13名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「鉄コーティング種子を核とする環境調和型水稻直播技術の確立」推進会議	H21.06.19	広島県立総合技術研究所農業技術センター（広島県東広島市）	17名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「永年作物における農業に有用な生物の多様性を維持する栽培管理技術の開発」中間検討会	H21.08.26	もくせい会館（静岡市）	21名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「備讃地域陸海域の水・栄養塩動態解明と農業への再利用技術の開発」第2回推進会議	H21.08.27 ～ H21.08.28	産業技術総合研究所中国センター（広島県呉市）	12名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「多種多様な栽培形態で有効な飛ばないナミテントウ利用技術の開発」中間評価対応推進会議	H21.09.15 ～ H21.09.16	近中四農研（福山）	17名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「2種生物資材の有効活用によるキュウリ黄化えそ病防除技術の開発」中間検討会及び現地検討会	H21.10.20 ～ H21.10.21	香川県農業試験場病害虫防除所（高松市）	20名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「備讃地域陸海域の水・栄養塩動態解明と農業への再利用技術の開発」第3回推進会議	H21.10.27	ピュアリティまきび（岡山市）	20名

会 議 名	開 催 日	開 催 場 所	参加者数
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「多種多様な栽培形態で有効な飛ばないナミテントウ利用技術の開発」現地検討会	H21.11.05 ～H21.11.06	検討会：かんぼの宿徳島 (徳島市) 視察：栽培圃場(徳島県藍住町、板野町)	16名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「永年作物における農業に有用な生物の多様性を維持する栽培管理技術の開発」推進会議	H22.01.25	果樹研究所 (茨城県つくば市)	18名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「備讃地域陸海域の水・栄養塩動態解明と農業への再利用技術の開発」第4回推進会議	H22.01.29	近中四農研(四国)	24名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「多種多様な栽培形態で有効な飛ばないナミテントウ利用技術の開発」推進会議	H22.02.01 ～H22.02.02	取手福祉会館(茨城県取手市)、(株)アグリ総研(茨城県取手市)	17名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「環境に配慮した小規模移動放牧における繁殖和牛の飼養管理技術」評価推進会議	H22.02.10	家畜改良センター鳥取牧場 (鳥取県琴浦町)	21名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「鉄コーティング種子を核とする環境調和型水稻直播技術の確立」推進会議	H22.02.12	近中四農研(福山)	9名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「2種生物資材の有効活用によるキュウリ黄化えそ病防除技術の開発」推進会議	H22.02.15 ～H22.02.16	徳島県立農林水産総合技術支援センター農業研究所 (徳島県吉野川市)	20名

5. 地域総合研究評価会議・現地推進検討会

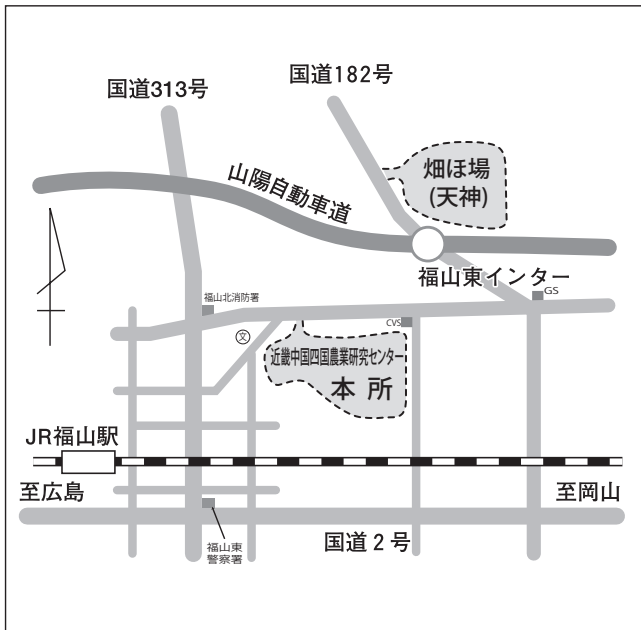
会 議 名	開 催 日	開 催 場 所	参加者数
地域農業確立総合研究「高糖分飼料イネを核とした中山間地域耕畜連携システムの確立」事前推進評価会議	H21.05.22	福山市民参画センター (広島県福山市)	24名
地域農業確立総合研究「高糖分飼料イネを核とした中山間地域耕畜連携システムの確立」現地検討会	H21.09.10 ～H21.09.11	検討会：福山労働会館みやび(広島県福山市) 現地検討会：近中四農研(福山)、農事組合法人いずみ(広島県三原市)、(有)トムミルクファーム(広島県東広島市)	83名
地域農業確立総合研究「新品種の導入と正品果率の向上による高収益カンキツ生産体系の確立」シンポジウム・現地検討会	H21.09.30 ～H21.10.01	シンポジウム：J A 三原せとだ支店(広島県尾道市) 圃場視察：高根島カンキツ園(広島県尾道市)、広島県立総合技術研究所農業技術センター果樹研究部三原分室(広島県三原市)	86名
地域農業確立総合研究「中山間地域農家の所得拡大を目指した夏秋トマト20t採り低コスト・省力・安定生産技術体系の確立」現地推進検討会	H21.10.14 ～H21.10.15	検討会：地方職員共済組合翠山荘(山口市) 現地視察：実証園(山口県萩市)	52名
地域農業確立総合研究「高糖分飼料イネを核とした中山間地域耕畜連携システムの確立」成績・設計検討会	H22.01.12	近中四農研(福山)	17名

会 議 名	開 催 日	開 催 場 所	参加者数
地域農業確立総合研究「高糖分飼料イネを核とした中山間地域耕畜連携システムの確立」毎年度推進評価会議	H22.02.09	福山市生涯学習プラザ (広島県福山市)	22名
地域農業確立総合研究「中山間地域農家の所得拡大を目指した夏秋トマト20t採り低コスト・省力・安定生産技術体系の確立」毎年度推進評価会議	H22.03.04	近中四農研(四国)	34名
地域農業確立総合研究「新品種の導入と正品果率の向上による高収益カンキツ生産体系の確立」毎年度推進評価会議	H22.03.09	近中四農研(四国)	36名

6. その他会議

会 議 名	開 催 日	開 催 場 所	参加人数
西日本地域麦類育成系統立毛検討会	H21.04.27 ～H21.04.28	検討会：近中四農研(四国) 現地見学：現地圃場(愛媛県今治市、香川県丸亀市)	74名
鳥獣被害対策研修会	H21.09.17 ～H21.09.18	近中四農研(大田)、 島根県美郷町現地	177名
西日本広域農業機械化研究会	H21.10.13 ～H21.10.14	検討会：東横イン新山口駅 新幹線口(山口市) 現地検討会：FOEAS実証圃場(山口市)	16名
農研機構シンポジウム「ヒューマンエラーが引き起こす鳥獣害の実態と被害防止対策の新たな展開」	H21.11.26 ～H21.11.27	岡山コンベンションセンター(岡山市)	298名
拍動自動灌水の利用と発展的活用方向を模索する合同研等会議	H21.12.15	ピュアリティまきび(岡山市)	64名
レタスビッグベイン病研究成果報告会ーレタスビッグベイン病抵抗性レタス品種育成の現状ー	H21.12.18	南あわじ市公民館・集会場 三原公民館(兵庫県南あわじ市)	173名
水田を活用した飼料用稲フォーラム	H22.02.18	京都テルサ(京都市)	180名
「農研機構業務活性化に資する取り組み」講演会 林原生物化学研究所における研究開発ー研究開発型企業としての経営哲学と研究環境ー	H22.03.11	福山市生涯学習プラザ (広島県福山市)	71名
農林水産省委託プロジェクト「担い手プロ」実証試験連絡会 鉄コーティング種子湛水直播検討会	H21.01.08	近中四農研(福山)	19名

VIII 所在地



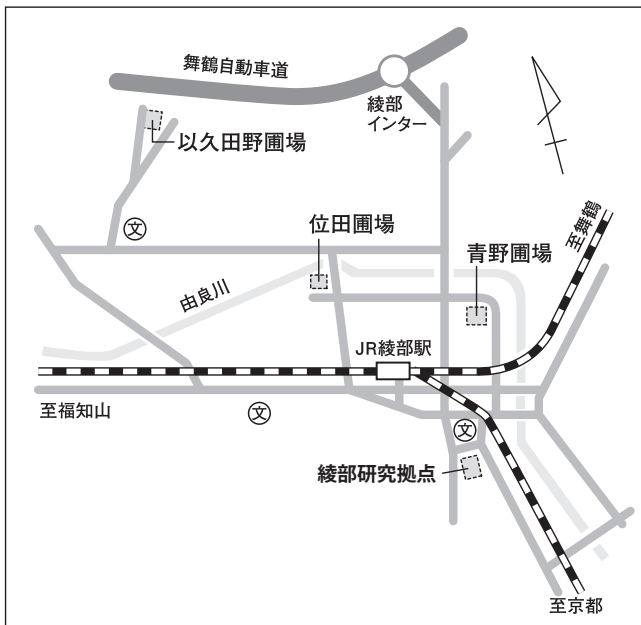
【本所】(福山市)

〒 721-8514
 広島県福山市西深津町 6-12-1
 T E L 084-923-4100 (代)
 F A X 084-924-7893
 最寄駅 JR 山陽本線、JR 山陽新幹線、
 JR 福塩線「福山駅」



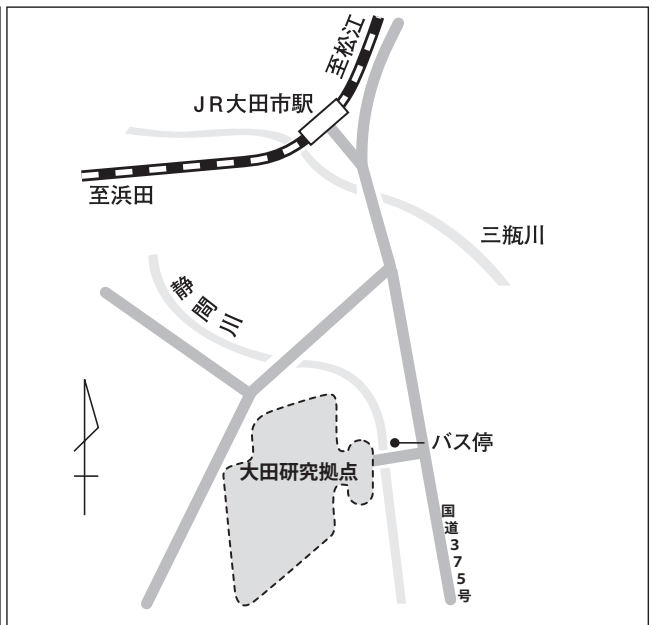
【四国研究センター】(善通寺市)

〒 765-8508
 香川県善通寺市仙遊町 1-3-1
 T E L 0877-62-0800 (代)
 F A X 0877-63-1683
 最寄駅 JR 土讃線「善通寺駅」



【綾部研究拠点】(綾部市)

〒 623-0035
 京都府綾部市上野町上野 200
 T E L 0773-42-0109 (代)
 F A X 0773-42-7161
 最寄駅 JR 山陰本線「綾部駅」



【大田研究拠点】(大田市)

〒 694-0013
 島根県大田市川合町吉永 60
 T E L 0854-82-0144 (代)
 F A X 0854-82-2280
 最寄駅 JR 山陰本線「大田市駅」